

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合について 【概要版】

国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果

1. 目的

国では、使用促進の目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

山梨県全体(国保、協会けんぽ、後期、各組合)の使用割合は、令和4年9月時点で82.9%となっており、国の目標値は達成しているが、全国34位と依然として全国的に低迷している状況である。

ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)に関する状況を把握し、今後の事業の検討材料にするため、国民健康保険と協会けんぽのデータを統合した分析及び後期高齢者医療のデータ分析資料を作成した。

2. 集計対象

・国民健康保険と協会けんぽ及び後期高齢者の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計(電子レセプトに限る、再審査分を除く)

・令和4年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用

3. 算出方法

・[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量])で算出

・項目の「対象薬剤数」とは[後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]

・「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう

4. 統計分析

(1) 薬効分類別の使用割合(0歳~74歳)

①使用割合の状況(総数)

※資料No.1-4より

	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	78.6%	79.3%	0.7

・0歳から74歳までの使用割合の総数は、79.3%であり、昨年度より0.7%pt伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

②使用割合の状況(薬効分類別)

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤=対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤=対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,739+1,813)	95.9%	放射性医薬品 (0+2,654)	0.0%
ビタミン剤 (703,360+803,810)	87.5%	その他の治療を主目的としない医薬品 (178+587)	30.3%
滋養強壮薬 (118,273+136,911)	86.4%	非アルカロイド系麻薬 (2,170+4,888)	44.4%

・使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、ビタミン剤、滋養強壮薬という状況である。

・使用割合が低い薬剤は、放射性医薬品、その他の治療を主目的としない医薬品、非アルカロイド系麻薬という状況である。

③昨年度との比較【薬効分類別使用割合】

※資料No.1-4より

薬効分類別	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
アルカロイド系麻薬	44.9%	60.4%	15.5
人工透析用薬	42.4%	50.7%	8.3
ビタミン剤	83.9%	87.5%	3.6

・昨年度から最も伸びたのは、アルカロイド系麻薬であり、15.5%pt伸びている。

(2) 年齢階級別の使用割合(0歳~74歳)

①使用割合の状況

※資料No.2-1、2-2より

年齢階級	0歳~4歳	5歳~9歳	10歳~14歳	15歳~19歳	20歳~24歳	25歳~29歳	30歳~34歳	35歳~39歳
使用割合	78.5%	72.1%	70.2%	71.2%	75.8%	78.5%	77.0%	76.8%
年齢階級	40歳~44歳	45歳~49歳	50歳~54歳	55歳~59歳	60歳~64歳	65歳~69歳	70歳~74歳	
使用割合	77.8%	77.9%	80.2%	80.0%	80.6%	81.2%	79.5%	

・5歳から19歳までの若い世代の使用割合が低く、その中で最も低い年齢階級は10歳から14歳で70.2%である。

・50歳以上において使用割合が高く、その中で最も高い年齢階級は65歳から69歳で81.2%である。

(2) 年齢階級別の使用割合(0歳~74歳)

②昨年度との比較【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)	年齢階級	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	76.3	78.5	2.2	40歳から44歳	77.3	77.8	0.5
5歳から9歳	67.0	72.1	5.1	45歳から49歳	77.8	77.9	0.1
10歳から14歳	68.7	70.2	1.5	50歳から54歳	80.1	80.2	0.1
15歳から19歳	71.2	71.2	0.0	55歳から59歳	79.1	80.0	0.9
20歳から24歳	76.6	75.8	△0.8	60歳から64歳	80.0	80.6	0.6
25歳から29歳	76.1	78.5	2.4	65歳から69歳	80.0	81.2	1.2
30歳から34歳	78.5	77.0	△1.5	70歳から74歳	78.6	79.5	0.9
35歳から39歳	77.3	76.8	△0.5				

・昨年度と比較すると、20歳から24歳、30歳から34歳、35歳から39歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。

・0歳から14歳までの使用割合は伸びが高く、特に5歳から9歳の年齢階級は昨年度から5.1%pt伸びており、全階級で最も高い伸びとなっている。

・30歳から34歳までの使用割合は最も伸びが低く、14の薬効分類で低くなっており、そのうち最も低かったのは、非アルカロイド系麻薬で△41.7%ptである。

(3) 後期高齢者医療における年齢階級別の使用割合(75歳以上)

①使用割合の状況

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳~79歳	80歳~84歳	85歳~89歳	90歳~94歳	95歳~99歳	100歳以上	総数
令和3年9月	76.6%	76.5%	77.4%	78.4%	80.1%	83.4%	77.2%
令和4年9月	77.9%	77.9%	78.8%	79.8%	81.8%	82.4%	78.5%
差(%pt)	1.3	1.4	1.4	1.4	1.7	△1.0	1.3

・75歳以上の使用割合の総数は、78.5%であり、昨年度より1.3%pt伸びているが、国で掲げた目標値80%にはまだ届いていない状況である。

・年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、82.4%である。

・昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、95歳から99歳の年齢階級で昨年度から1.7%pt伸びている。

(4) 保険者別の使用割合 ※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合(毎年度公表)より」

①使用割合の状況【令和4年3月診療分】

※資料No.6-1より

	保険者名	使用割合		保険者名	使用割合
1	早川町	85.8%	35	医師国保組合	65.7%
2	道志村	84.7%	34	丹波山村	67.5%
3	身延町	84.7%	33	富士吉田市	75.6%
4	山梨市	83.1%	32	昭和町	75.6%
5	韮崎市	82.3%	31	山中湖村	75.9%

・使用割合が高い保険者は、早川町85.8%、道志村84.7%、身延町84.7%という状況である。

・使用割合が低い保険者は、医師国保組合65.7%、丹波山村67.5%、富士吉田市75.6%、昭和町75.6%という状況である。

5. まとめ

・今回の統計結果から、本県では昨年度と同様に若い世代(5歳から19歳)の使用割合が低いことが分かった。0歳から74歳までの使用割合は79.3%(昨年度より0.7%ptの伸び)、75歳以上の使用割合は78.5%(昨年度より1.3%ptの伸び)であり、着実に伸びており、国で掲げた目標値の80%に近付いていることが分かった。また、保険者(地域)ごとにみると、80%に届いていない保険者もあることが分かった。このことより、保険者協議会は、県民の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していく必要があると考える。

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果～

(令和4年度)

山梨県保険者協議会

目 次

1.	目的	1
2.	分析対象	2
3.	算出方法	2
4.	統計分析	
	(1) 薬効分類別の使用割合	3
	(2) 年齢階級別の使用割合	8
	(3) 使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合	3 1
	(4) 後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合	3 9
	(5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合	5 1
	(6) 山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合	5 4
5.	まとめ	6 4

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合
～データ分析(数量ベース)～

1. 目的

国では、医療費の抑制や患者の負担軽減につながるため、令和3年6月に閣議決定した骨太の方針2021で、使用促進の新目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

山梨県の使用割合については、年々上昇傾向で、令和4年9月時点で82.9%となっており、国の目標は達成しているが、全国的にみると34位であり、まだまだ低迷している状況である。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、後期高齢者医療のデータを分析し、幅広い年齢層の状況を把握する資料を作成した。

一都道府県別ジェネリック医薬品使用割合(順位別)一

単位(%)

県名	平成30年度 4月～3月	県名	令和元年度 4月～3月	県名	令和2年度 4月～3月	県名	令和3年度 4月～3月	県名	令和4年 4月	県名	令和4年 5月	県名	令和4年 6月	県名	令和4年 7月	県名	令和4年 8月	県名	令和4年 9月
全国	75.9	全国	79.1	全国	81.4	全国	82.0	全国	82.3	全国	82.6	全国	82.8	全国	82.7	全国	82.9	全国	82.9
1 沖縄	85.5	沖縄	87.8	沖縄	89.0	沖縄	89.3	沖縄	89.5	沖縄	89.5	沖縄	89.7	沖縄	89.3	沖縄	89.7	沖縄	89.7
2 鹿児島	82.6	鹿児島	84.9	鹿児島	86.6	鹿児島	87.0	鹿児島	87.4	鹿児島	87.5	鹿児島	87.6	鹿児島	87.4	鹿児島	87.7	鹿児島	87.7
3 岩手	81.9	岩手	84.4	岩手	86.1	岩手	86.4	岩手	86.5	岩手	86.8	岩手	87.0	岩手	86.6	岩手	86.9	岩手	87.0
4 宮崎	80.5	島根	83.2	山形	85.0	宮崎	85.7	宮崎	86.1	宮崎	86.2	山形	86.3	宮崎	86.2	宮崎	86.5	宮崎	86.5
5 島根	80.3	宮崎	83.1	宮崎	85.0	山形	85.4	山形	85.9	山形	86.0	宮崎	86.2	山形	86.1	山形	86.3	山形	86.3
34 茨城	75.2	茨城	78.6	茨城	81.0	山梨	81.9	茨城	82.1	山梨	82.5	山梨	82.8	山梨	82.5	山梨	82.9	山梨	82.9
35 兵庫	75.0	兵庫	78.2	山梨	80.8	茨城	81.7	山梨	82.0	茨城	82.3	茨城	82.5	茨城	82.4	茨城	82.6	茨城	82.7
41 和歌山	73.3	山梨	76.9	広島	79.2	香川	80.0	大阪	80.1	大阪	80.3	大阪	80.6	大阪	80.5	大阪	80.8	大阪	80.6
43 大阪	73.1	広島	76.7	大阪	79.1	京都	79.6	京都	80.0	香川	80.1	香川	80.2	奈良	80.1	奈良	80.4	京都	80.4
44 山梨	71.8	香川	76.6	奈良	78.8	高知	79.3	高知	79.7	奈良	79.7	奈良	80.1	香川	80.1	京都	80.4	奈良	80.2
45 東京	71.6	高知	75.4	高知	78.4	奈良	79.2	奈良	79.6	高知	79.6	高知	80.1	高知	79.7	高知	80.2	高知	80.1
46 高知	71.1	東京	75.3	東京	77.7	東京	78.4	東京	78.9	東京	79.2	東京	79.4	東京	79.5	東京	79.7	東京	79.5
47 徳島	68.5	徳島	72.5	徳島	76.8	徳島	78.4	徳島	78.5	徳島	78.7	徳島	78.7	徳島	78.5	徳島	79.0	徳島	78.8

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

※順位付けは、小数点以下四捨五入しない数値を使用

2. 分析対象

- 国保(一般分、退職分、組合分)・協会けんぽ(一般分)、後期高齢者医療の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて分析したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)
- DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを分析対象としている。
- 再審査分を除くレセプトを分析対象としている。
- 令和4年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用
- 今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない薬剤については対象外としている。(後期高齢者医療のデータも同様)
 - 19. その他の神経系及び感覚器官用医薬品、41. 細胞賦活用薬、
 - 49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、
 - 59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、
 - 64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、
 - 73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

【令和4年9月被保険者数】

- ・山梨県全体 801,878人 (山梨県HPより 令和4年9月1日現在)
- ・国保: 181,477人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和4年9月末現在)
- ・協会けんぽ: 253,976人 (被保険者数 158,711人、被扶養者数 95,265人)(協会けんぽHPより)
- ・後期: 133,595人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和4年9月末現在)

- 合計(国保+協会けんぽ) 435,453人 (県全体に対する割合 54.3%≒54%)
- 合計(国保+協会けんぽ+後期)569,048人 (県全体に対する割合 70.9%≒71%)

3. 算出方法

- $[\text{後発医薬品の数量}] / ([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])$ で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは $[\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]$
- 「切替薬剤数」とは $[\text{後発医薬品の数量}]$ の事を示す。
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- 薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類 87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

4. 統計分析 (1)薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、79.3%であり、昨年度より0.7%pt伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

※資料No.1-4より

	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	78.6%	79.3%	0.7

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別で見ると、使用割合が高い薬剤は歯科口腔用薬95.9%、ビタミン剤87.5%、滋養強壮薬86.4%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は放射性医薬品0%、その他の治療を主目的としない医薬品30.3%、非アルカロイド系麻薬44.4%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,739÷1,813)	95.9%	放射性医薬品 (0÷2,654)	0.0%
ビタミン剤 (703,360÷803,810)	87.5%	その他の治療を主目的としない 医薬品(178÷587)	30.3%
滋養強壮薬 (118,273÷136,911)	86.4%	非アルカロイド系麻薬 (2,170÷4,888)	44.4%

※歯科口腔用薬 (歯科用局所麻酔剤、歯科用抗生物質製剤等)

《被保険者からみた場合の使用割合に差異がある要因》

○被保険者が市販薬として、広く認知されているものについては使用割合が高い傾向にあるが、使用割合が低い薬剤については市販薬として目に触れることが少ないことから、後発医薬品に変更することに対して、抵抗があることや意識が低いことが考えられる。

《昨年度との比較》

○昨年度から最も伸びたのは、アルカロイド系麻薬であり、15.5%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.1-4より

薬効分類別	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
81 アルカロイド系麻薬	44.9%	60.4%	15.5
34 人工透析用薬	42.4%	50.7%	8.3
31 ビタミン剤	83.9%	87.5%	3.6

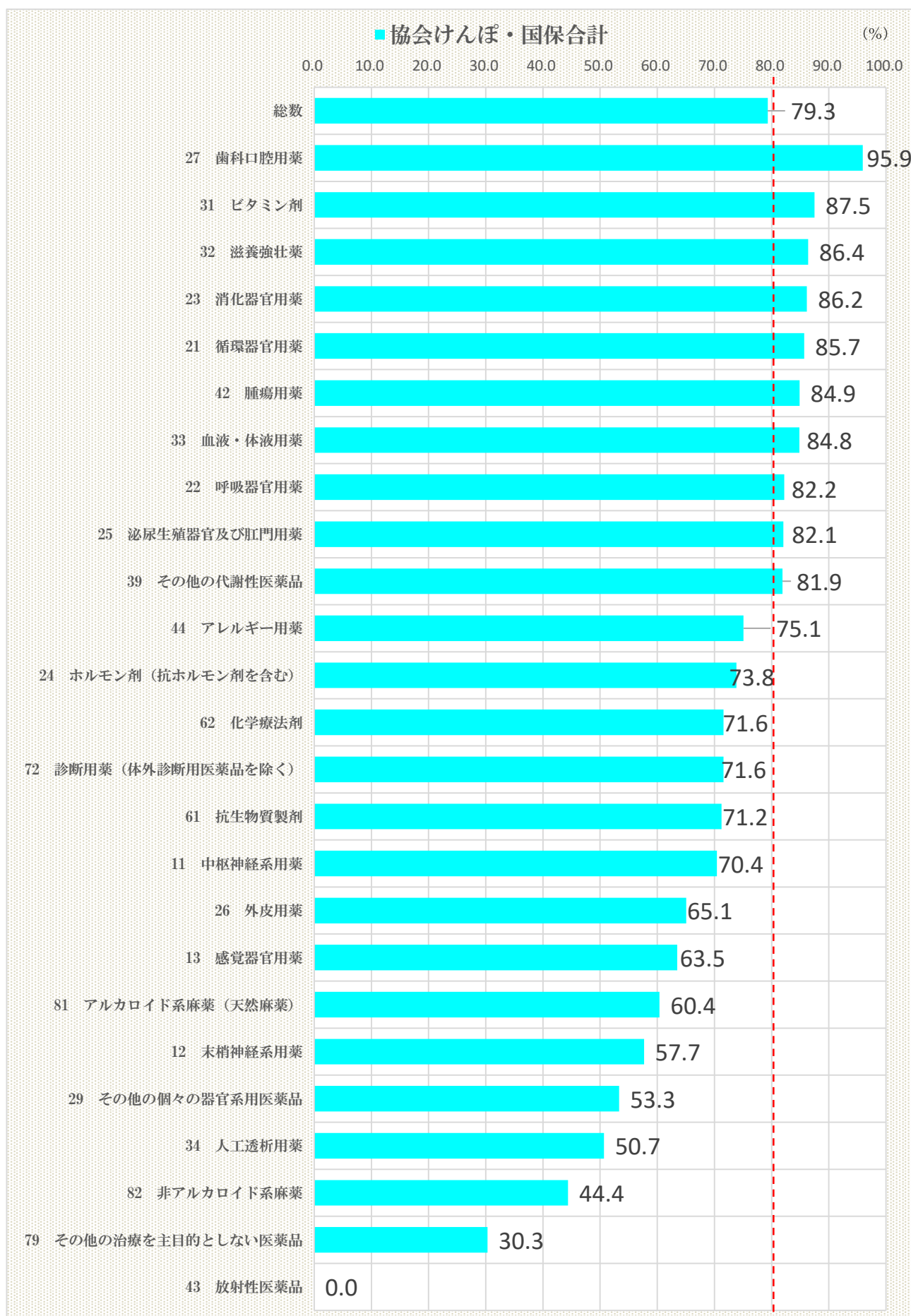
※参考:人工透析用薬は、令和2年9月診療分が23.2%であったため、令和4年9月診療分と比較すると27.5%pt増であり、一番の伸びとなっている。

《ジェネリック医薬品の供給不足》

○後発薬メーカーの品質不正問題を発端とし、医療機関でジェネリック医薬品が品薄状態となっている。※2022年8月末時点で4,234品目(全体の28%)が供給不足

薬効分類別の使用割合

資料No.1-1



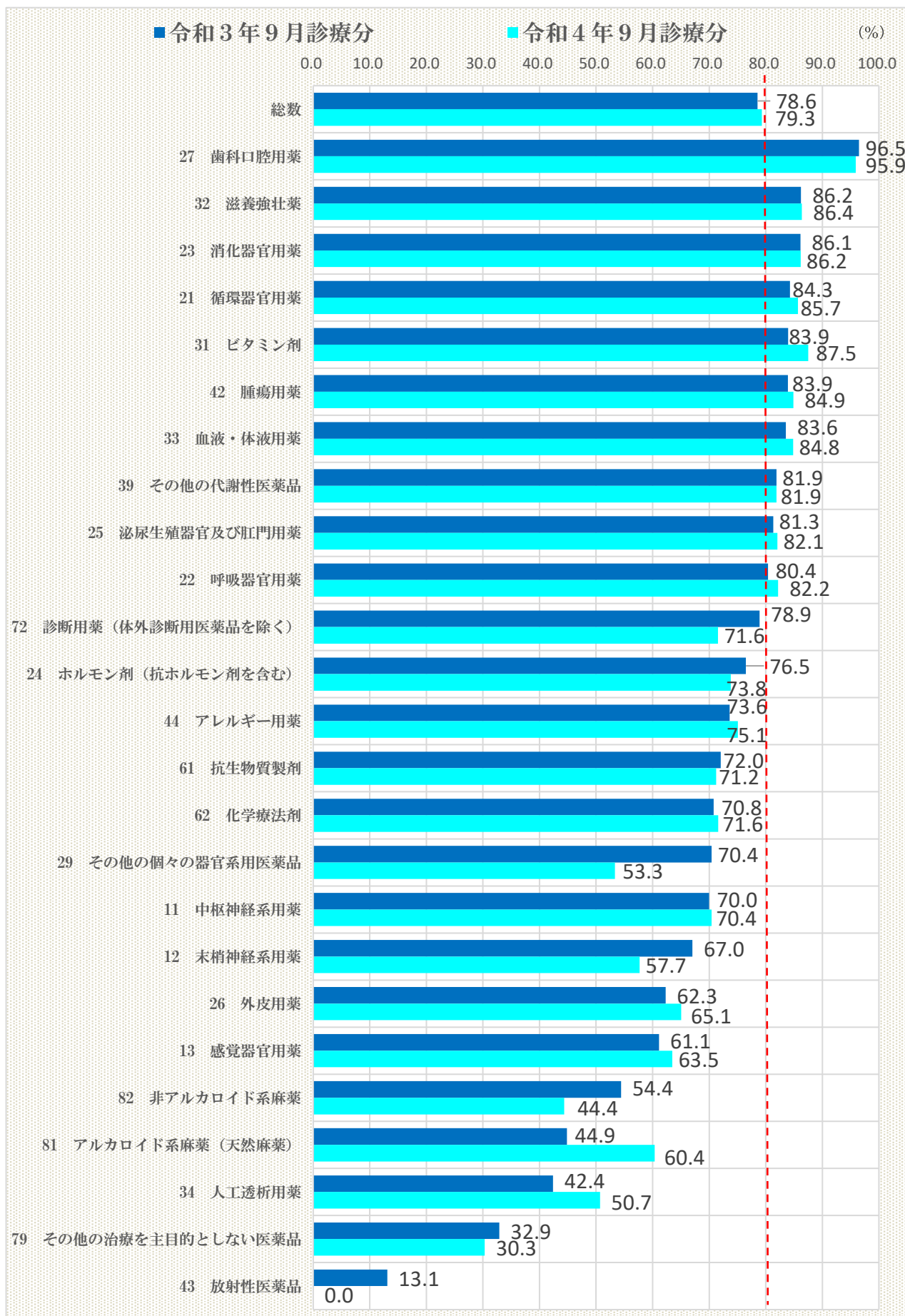
薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	79.3	23,800,291	18,877,809
27 歯科口腔用薬	95.9	1,813	1,739
31 ビタミン剤	87.5	803,810	703,360
32 滋養強壯薬	86.4	136,911	118,273
23 消化器官用薬	86.2	2,960,495	2,550,939
21 循環器官用薬	85.7	6,189,943	5,304,765
42 腫瘍用薬	84.9	83,223	70,637
33 血液・体液用薬	84.8	1,643,605	1,394,329
22 呼吸器官用薬	82.2	928,125	762,881
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	82.1	319,482	262,160
39 その他の代謝性医薬品	81.9	2,114,393	1,731,794
44 アレルギー用薬	75.1	1,262,484	947,923
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	73.8	201,430	148,703
62 化学療法剤	71.6	113,705	81,401
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	71.6	2,826	2,023
61 抗生物質製剤	71.2	222,472	158,438
11 中枢神経系用薬	70.4	4,332,083	3,051,470
26 外皮用薬	65.1	1,880,863	1,223,888
13 感覚器官用薬	63.5	307,096	194,970
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	60.4	6,451	3,895
12 末梢神経系用薬	57.7	276,231	159,386
29 その他の個々の器官系用医薬品	53.3	3,565	1,901
34 人工透析用薬	50.7	1,156	586
82 非アルカロイド系麻薬	44.4	4,888	2,170
79 その他の治療を主目的としない医薬品	30.3	587	178
43 放射性医薬品	0.0	2,654	0

薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和3年9月診療分			令和4年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	78.6	23,768,985	18,672,336	79.3	23,800,291	18,877,809
27 歯科口腔用薬	96.5	1,765	1,703	95.9	1,813	1,739
32 滋養強壯薬	86.2	134,884	116,320	86.4	136,911	118,273
23 消化器官用薬	86.1	3,621,185	3,119,028	86.2	2,960,495	2,550,939
21 循環器官用薬	84.3	6,209,383	5,233,417	85.7	6,189,943	5,304,765
31 ビタミン剤	83.9	802,662	673,812	87.5	803,810	703,360
42 腫瘍用薬	83.9	84,442	70,876	84.9	83,223	70,637
33 血液・体液用薬	83.6	1,633,620	1,365,144	84.8	1,643,605	1,394,329
39 その他の代謝性医薬品	81.9	1,726,084	1,413,515	81.9	2,114,393	1,731,794
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.3	323,618	263,144	82.1	319,482	262,160
22 呼吸器官用薬	80.4	804,043	646,487	82.2	928,125	762,881
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	78.9	4,496	3,548	71.6	2,826	2,023
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	76.5	179,141	137,033	73.8	201,430	148,703
44 アレルギー用薬	73.6	1,225,292	901,802	75.1	1,262,484	947,923
61 抗生物質製剤	72.0	215,506	155,211	71.2	222,472	158,438
62 化学療法剤	70.8	107,008	75,732	71.6	113,705	81,401
29 その他の個々の器官系用医薬品	70.4	4,530	3,191	53.3	3,565	1,901
11 中枢神経系用薬	70.0	4,138,298	2,895,334	70.4	4,332,083	3,051,470
12 末梢神経系用薬	67.0	286,591	192,102	57.7	276,231	159,386
26 外用用薬	62.3	1,955,402	1,218,135	65.1	1,880,863	1,223,888
13 感覚器官用薬	61.1	292,648	178,857	63.5	307,096	194,970
82 非アルカロイド系麻薬	54.4	6409.15	3489	44.4	4887.95	2169.5
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	44.9	7,530	3,378	60.4	6,451	3,895
34 人工透析用薬	42.4	1,262	535	50.7	1,156	586
79 その他の治療を主目的としない医薬品	32.9	639	210	30.3	587	178
43 放射性医薬品	13.1	2,548	334	0.0	2,654	0

4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

《使用割合が低い年齢階級の状況》

- 協会けんぽ、国保分の合計を年代別に見た場合、5歳から19歳までの若い世代の使用割合が低い状況であり、この年代においては、75%を下回っている。
- 具体的には、5歳から9歳が72.1%、10歳から14歳が70.2%、15歳から19歳が71.2%という状況である。

《使用割合が高い年齢階級の状況》

- 年齢別に見ると50歳以上において使用割合が概ね80%を上回る状況にあり、その中でも最も高い年齢階級が65歳から69歳であり、使用割合は81.2%と高い状況にある。

《若い世代の使用割合の低い要因》

- 5歳から19歳の使用割合が低い状況は、保護者がジェネリック医薬品の有効性や安全性に不安を抱いていたり、県内で多くの市町村において18歳まで窓口無料化が実施されていることなどから、ジェネリック医薬品へ変更しようとする動機が働かず、使いなれた薬を希望することが要因の1つと考えられる。

《高齢者の使用割合の高い要因》

- 60歳以上75歳未満の使用割合が高い要因の一つとして、現役を退いた年金受給者、及び定年退職後に国保に加入する方は、現役時より収入が減ることから、自己負担額に対するコスト意識が高いことが考えられる。

《昨年度との比較》

- 昨年度と比較すると、20歳から24歳、30歳から34歳、35歳から39歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。
- 0歳から14歳までの使用割合は伸びが高く、特に5歳から9歳の年齢階級は昨年度から5.1%ptと伸びており、全階級で最も高い伸びとなっている。
- 30歳から34歳までの使用割合は最も伸びが低く、14の薬効分類で低くなっており、そのうち最も低かったのは、非アルカロイド系麻薬で△41.7%ptである。

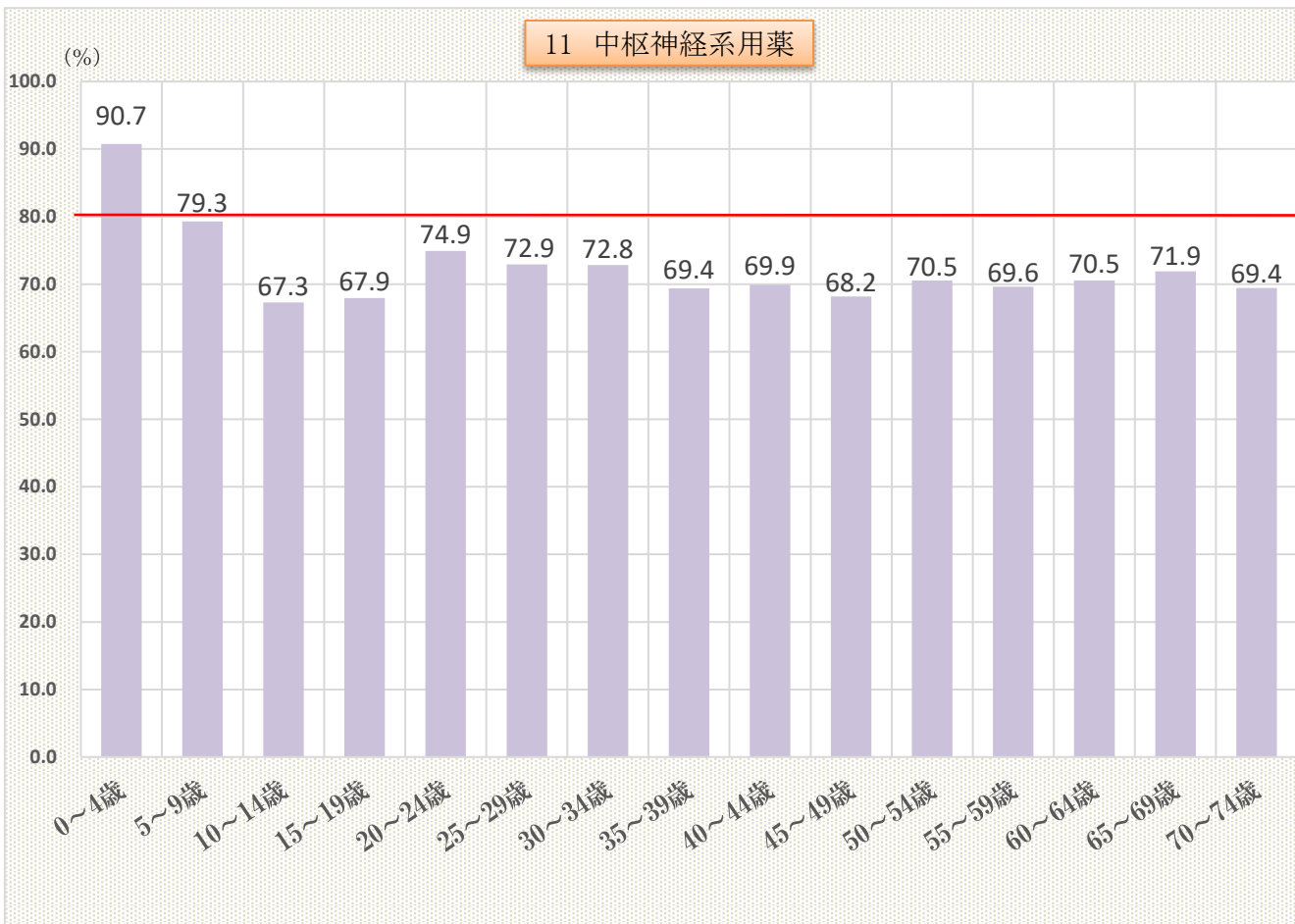
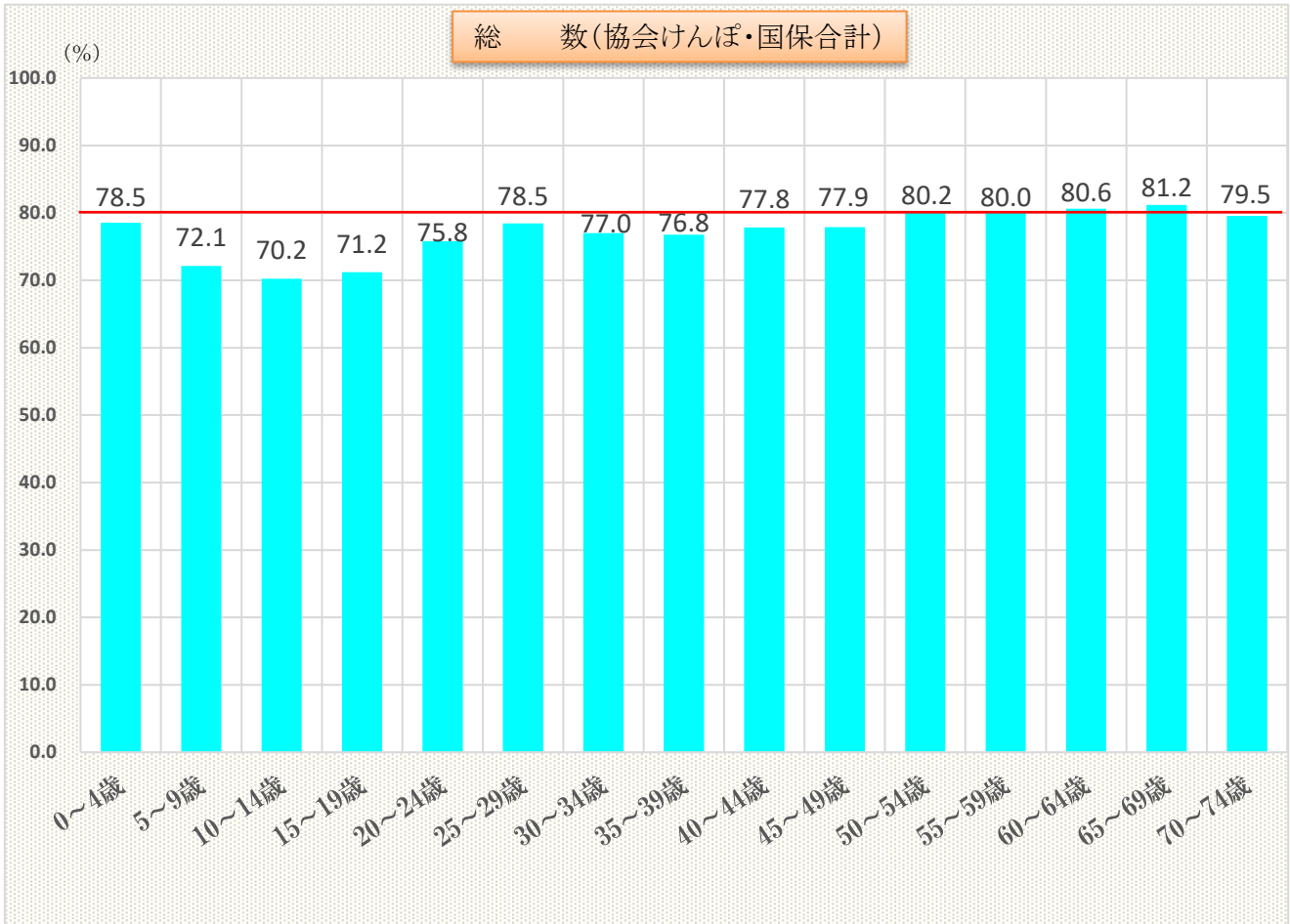
【年齢階級別使用割合(%)】

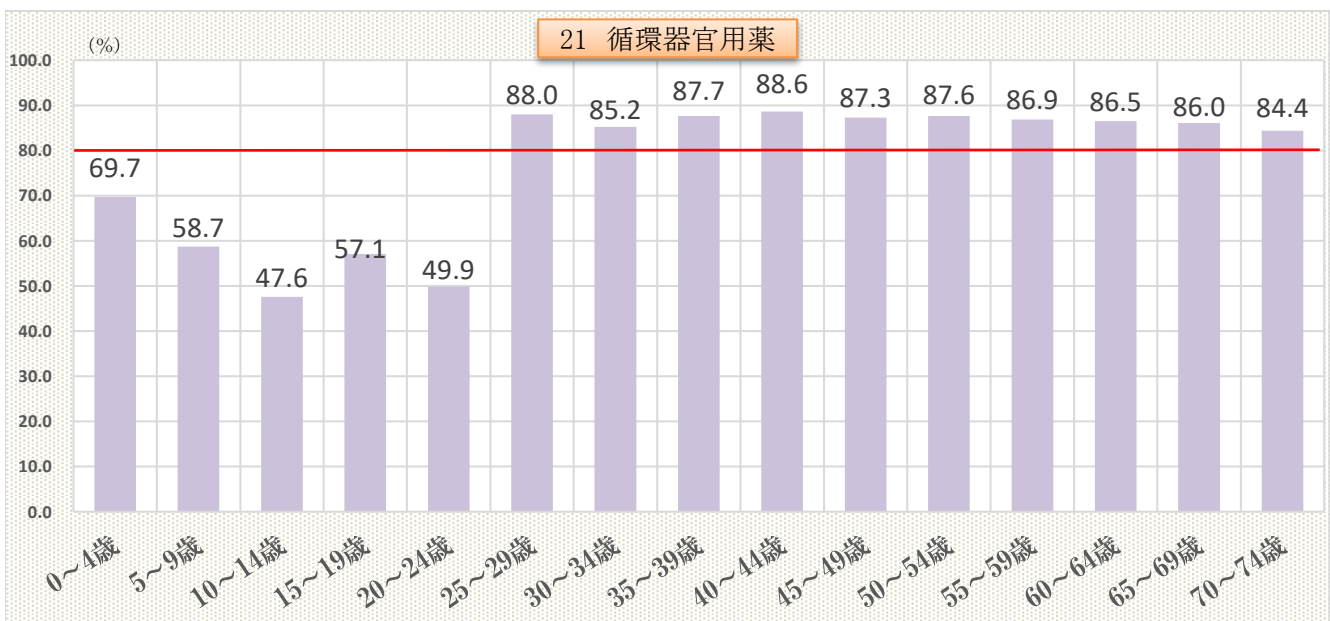
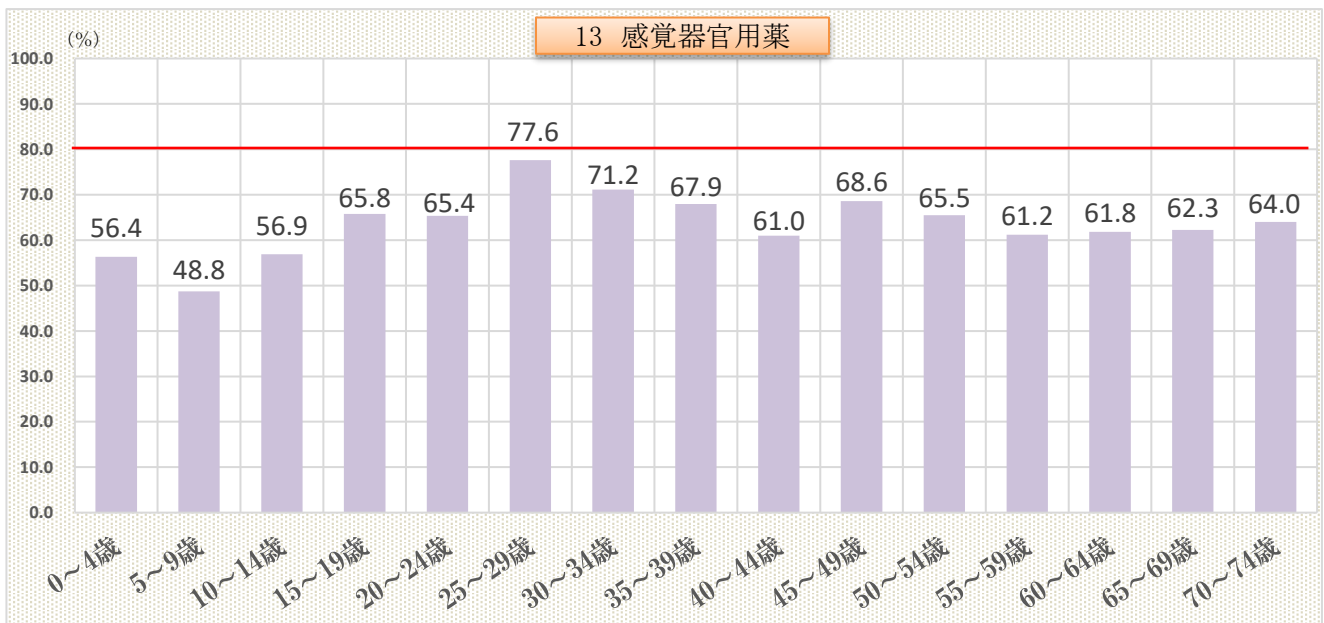
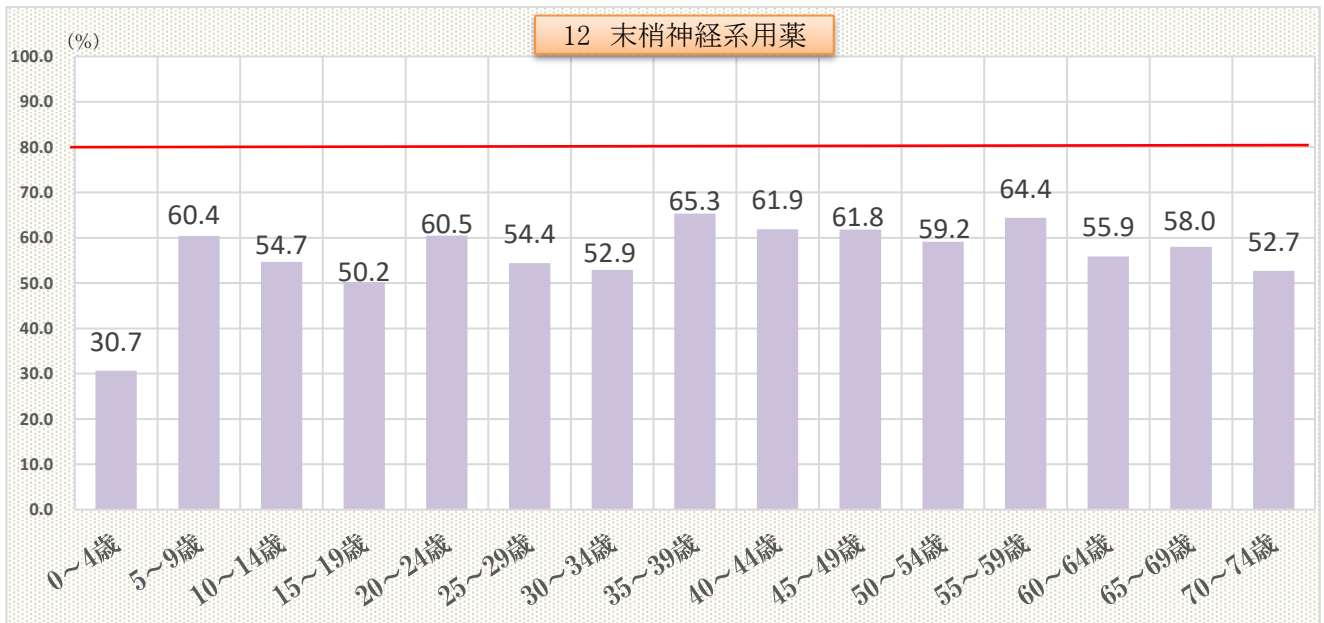
※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	76.3	78.5	2.2
5歳から9歳	67.0	72.1	5.1
10歳から14歳	68.7	70.2	1.5
15歳から19歳	71.2	71.2	0.0
20歳から24歳	76.6	75.8	△0.8
25歳から29歳	76.1	78.5	2.4
30歳から34歳	78.5	77.0	△1.5
35歳から39歳	77.3	76.8	△0.5
40歳から44歳	77.3	77.8	0.5
45歳から49歳	77.8	77.9	0.1
50歳から54歳	80.1	80.2	0.1
55歳から59歳	79.1	80.0	0.9
60歳から64歳	80.0	80.6	0.6
65歳から69歳	80.0	81.2	1.2
70歳から74歳	78.6	79.5	0.9

年齢階級別の使用割合

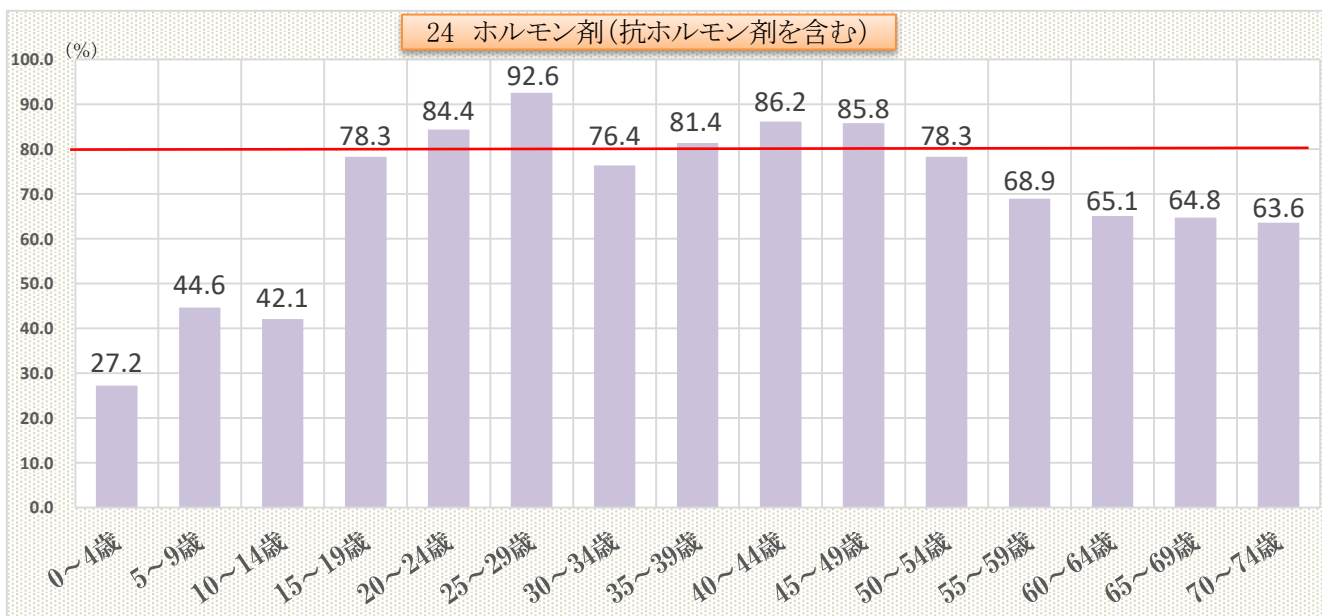
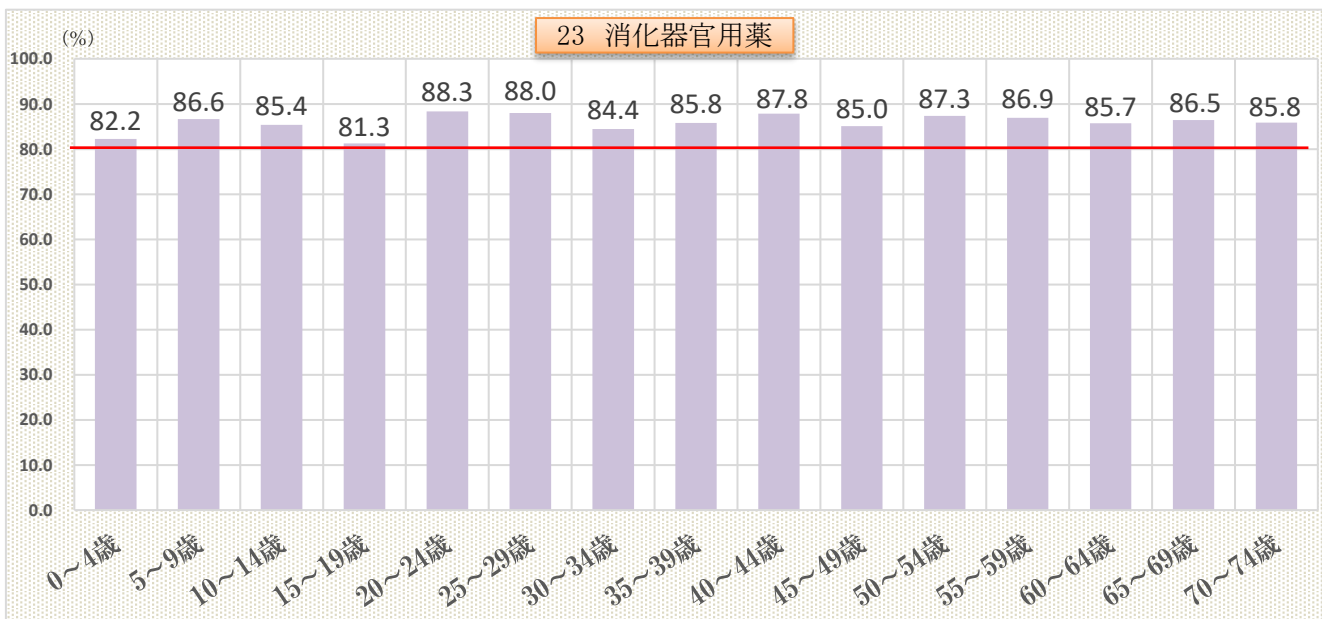
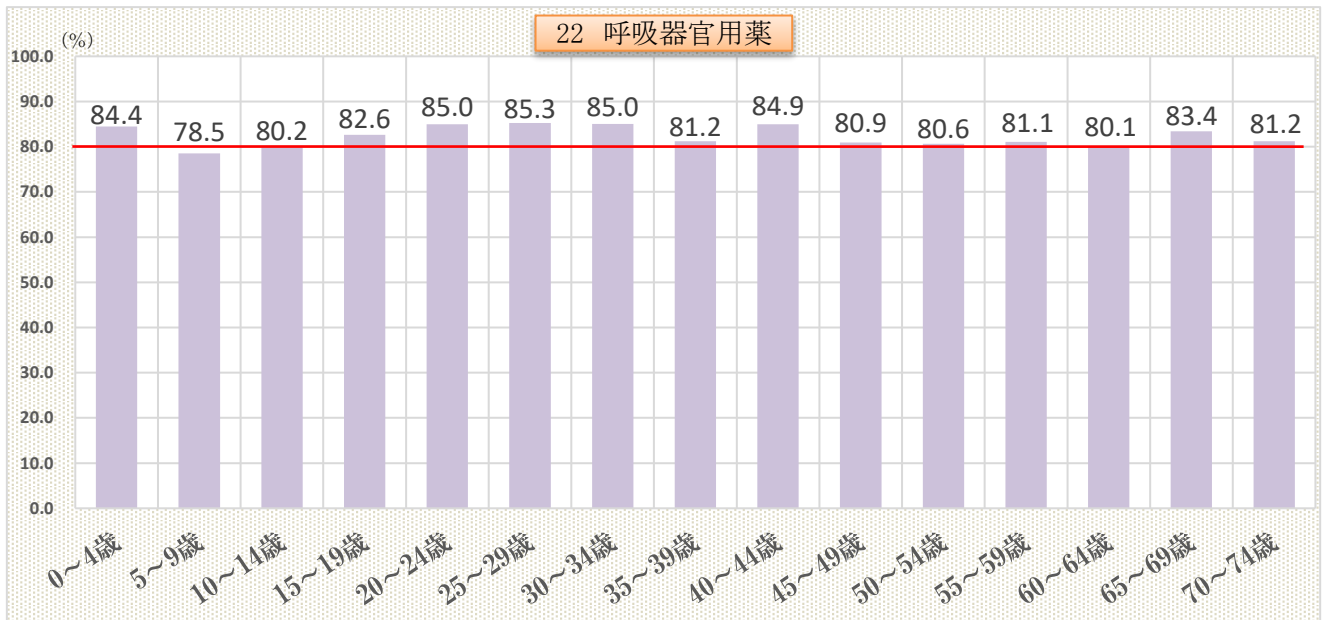
資料No.2-1





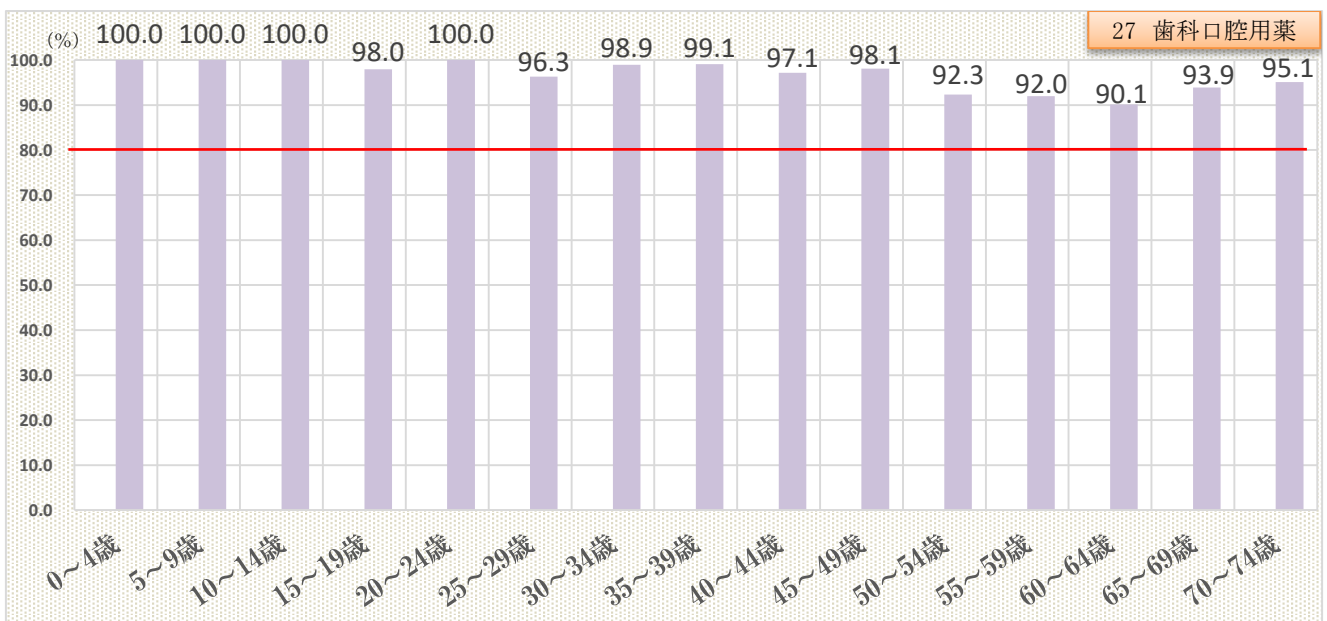
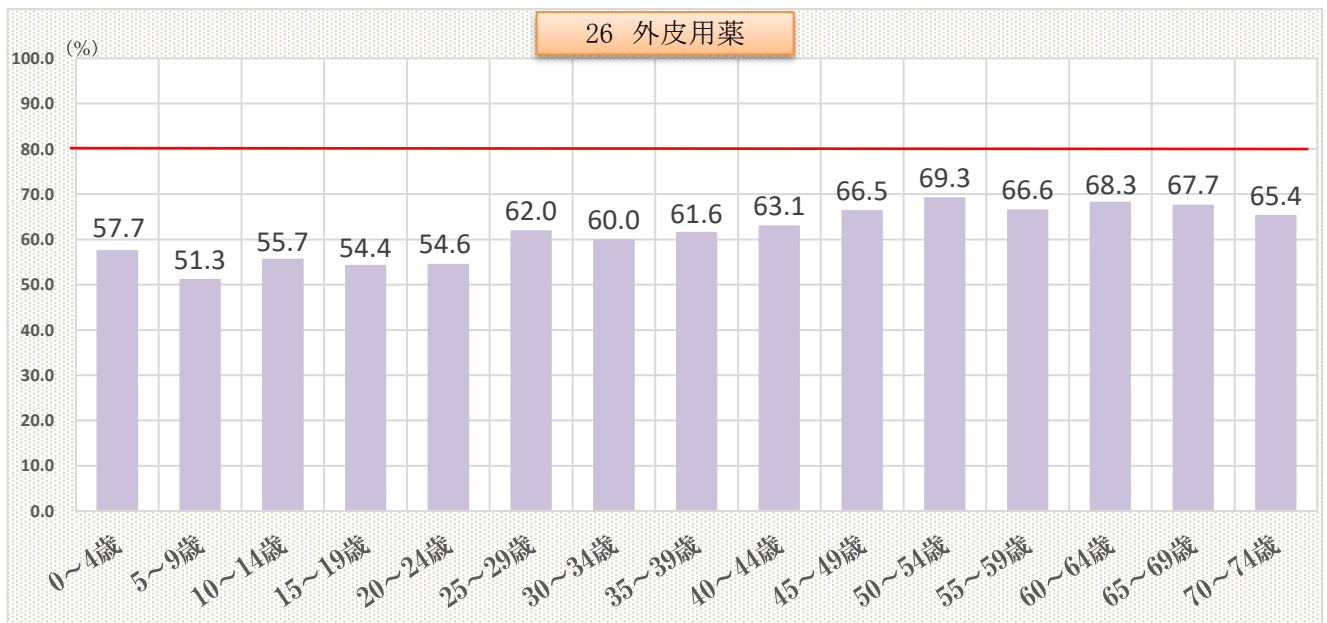
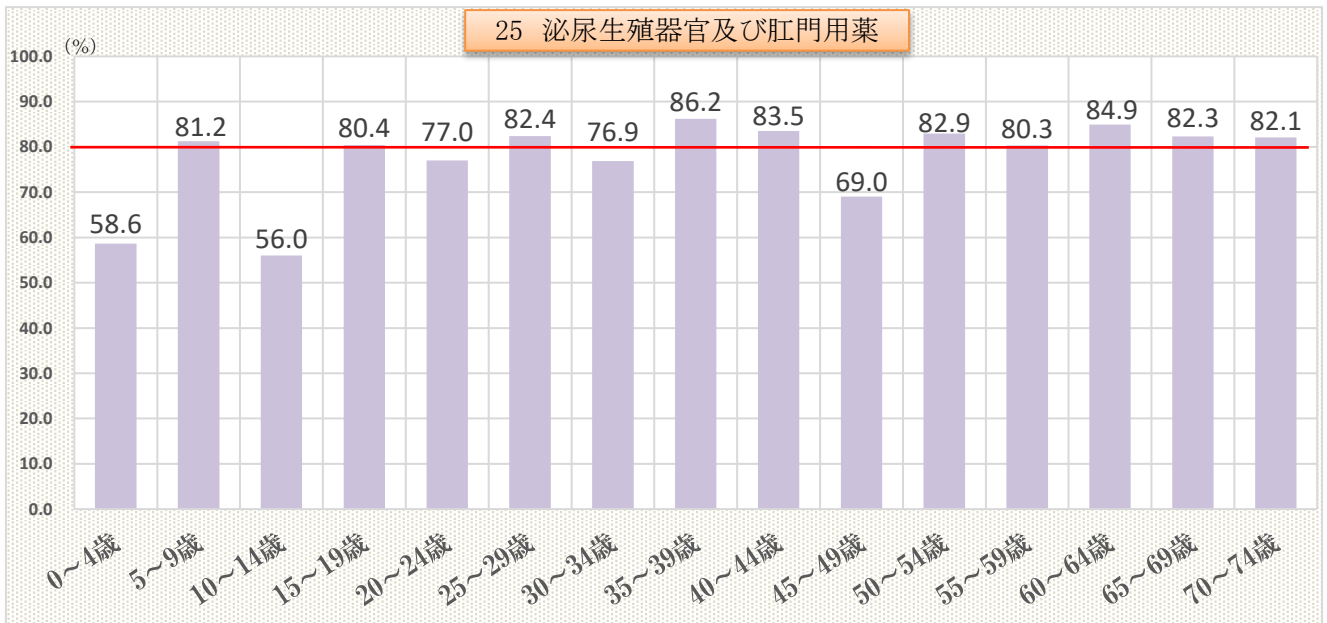
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



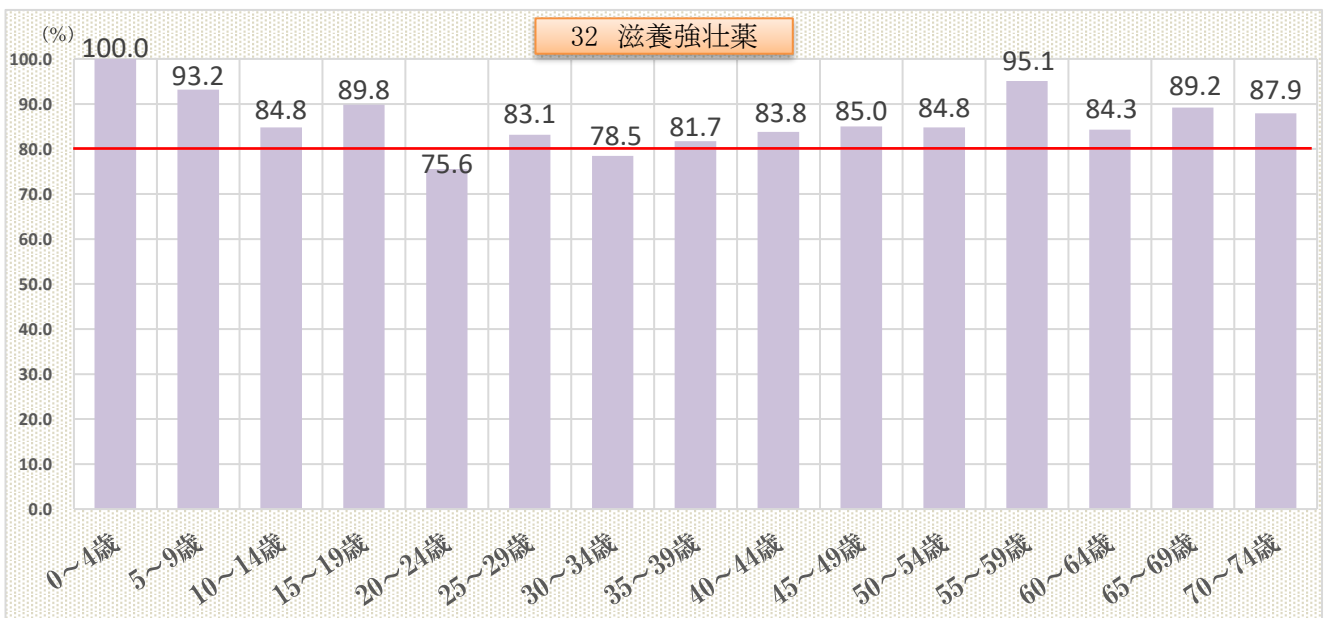
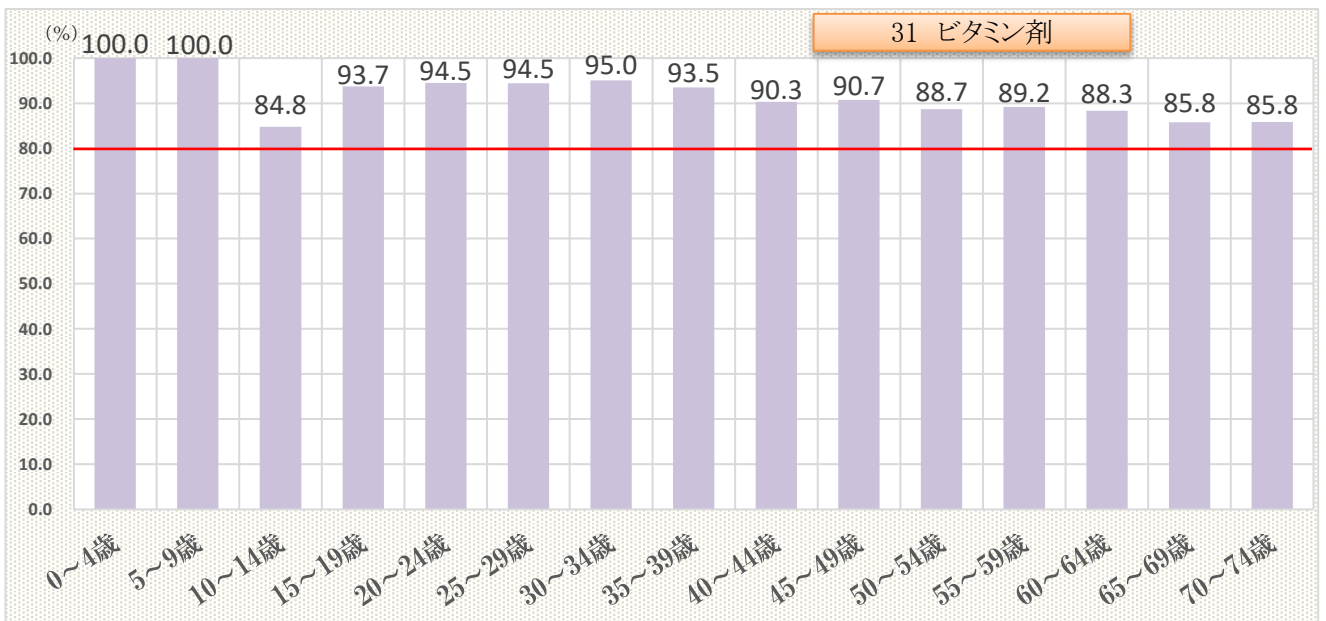
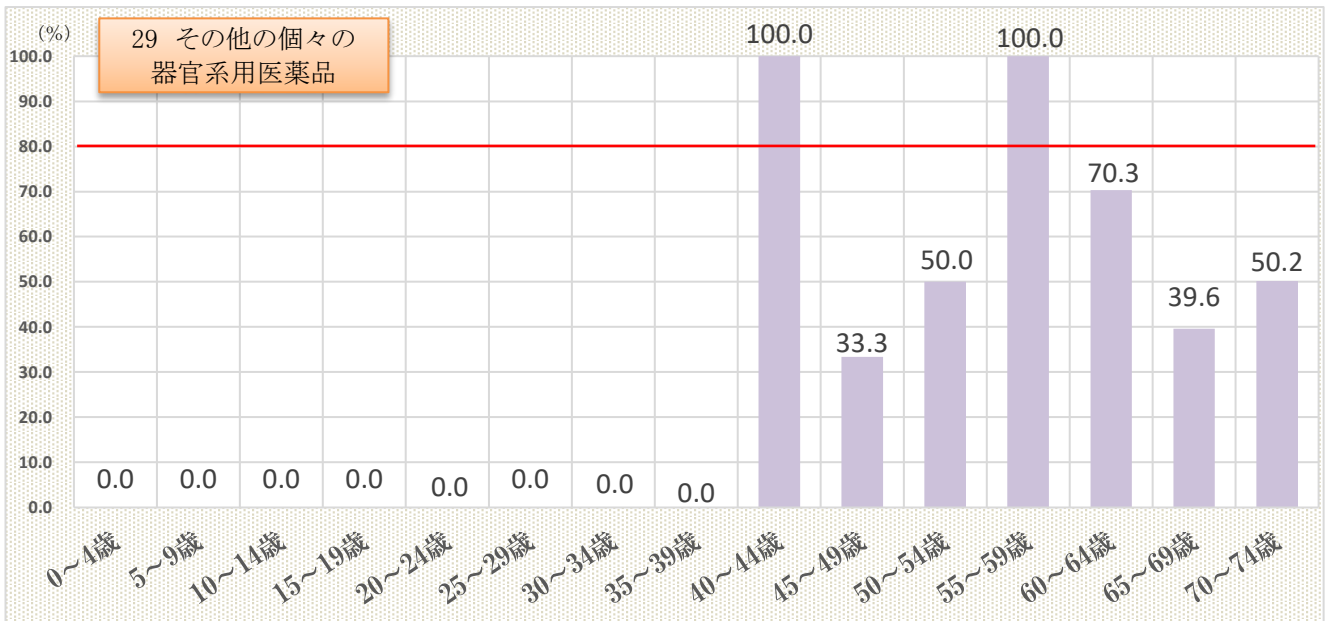
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



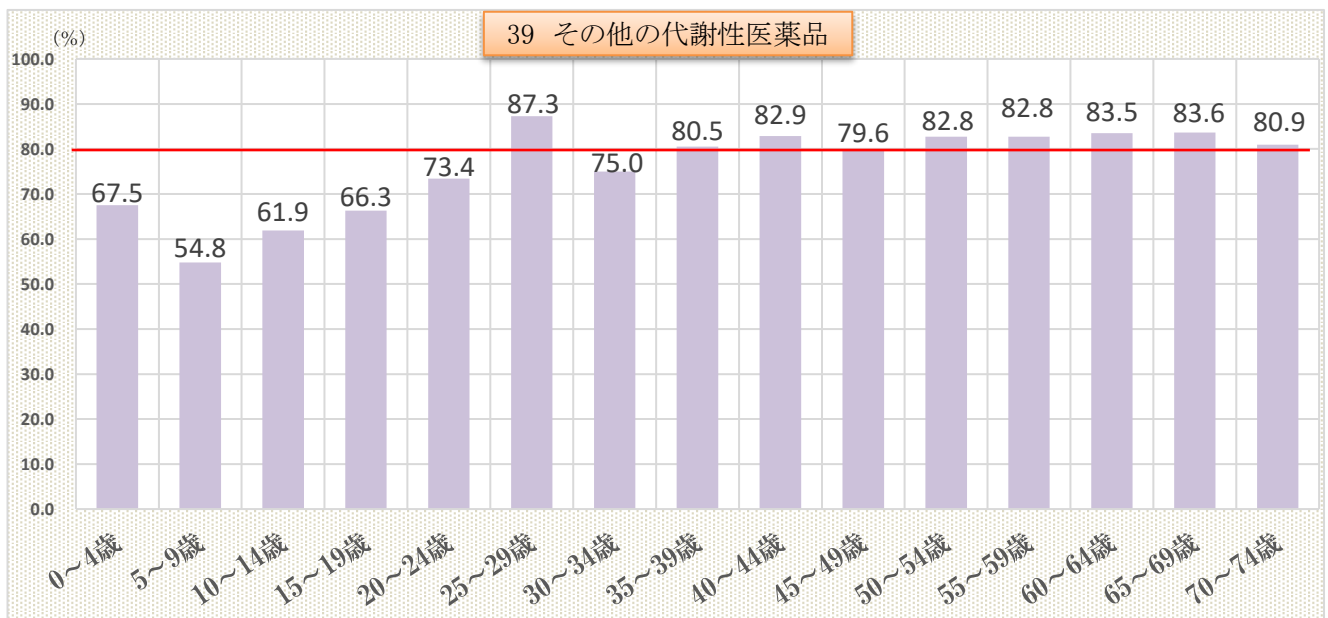
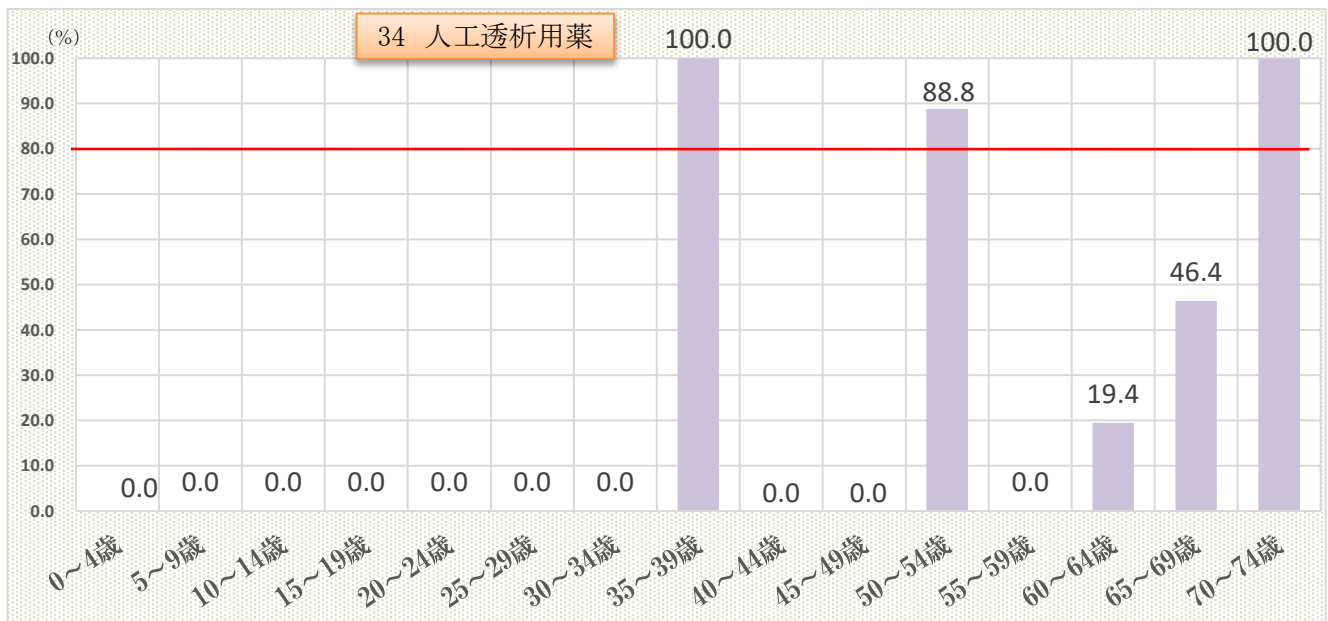
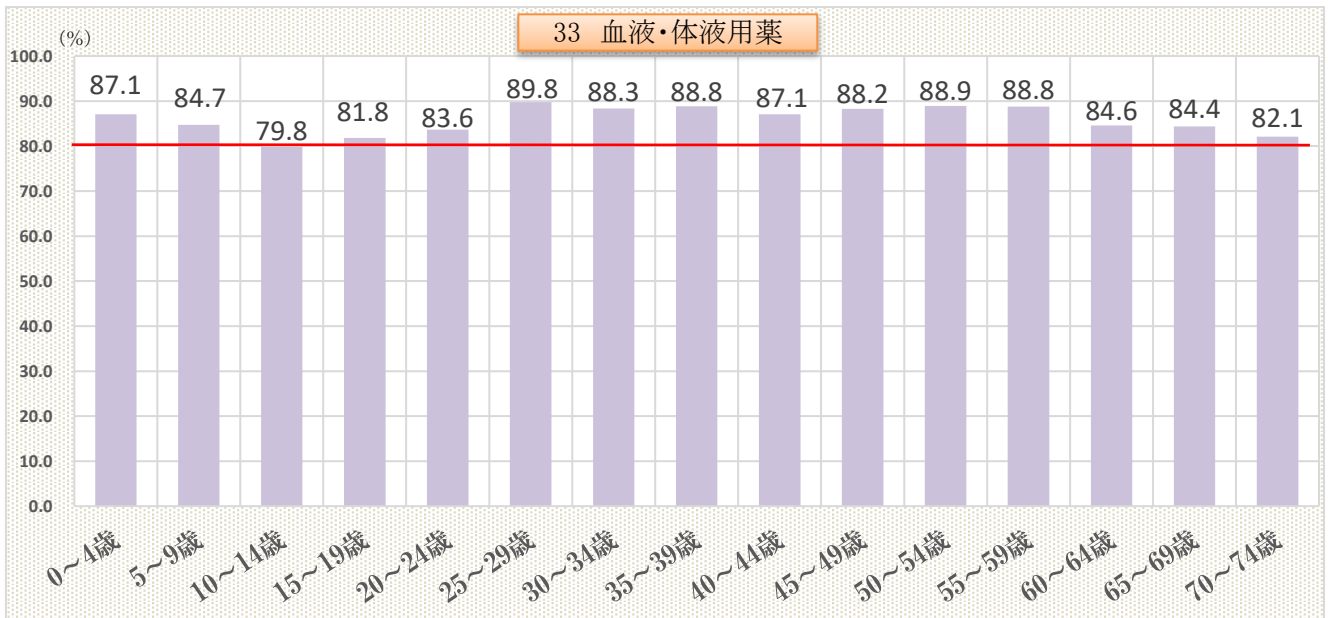
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



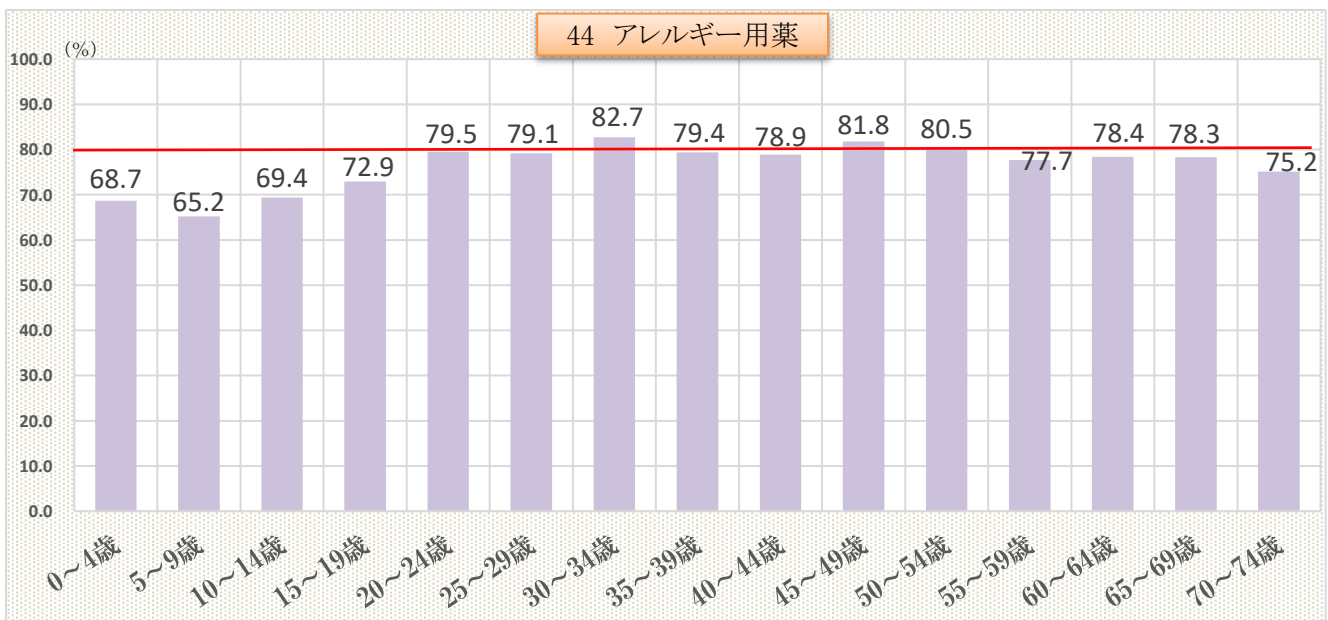
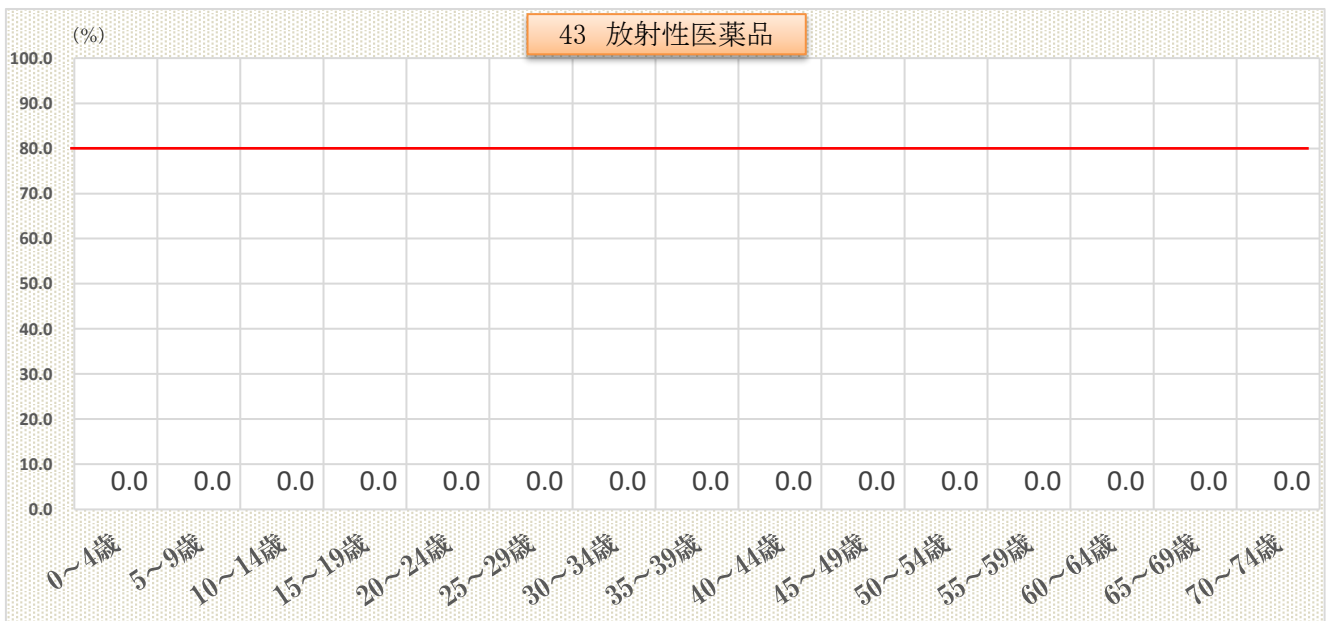
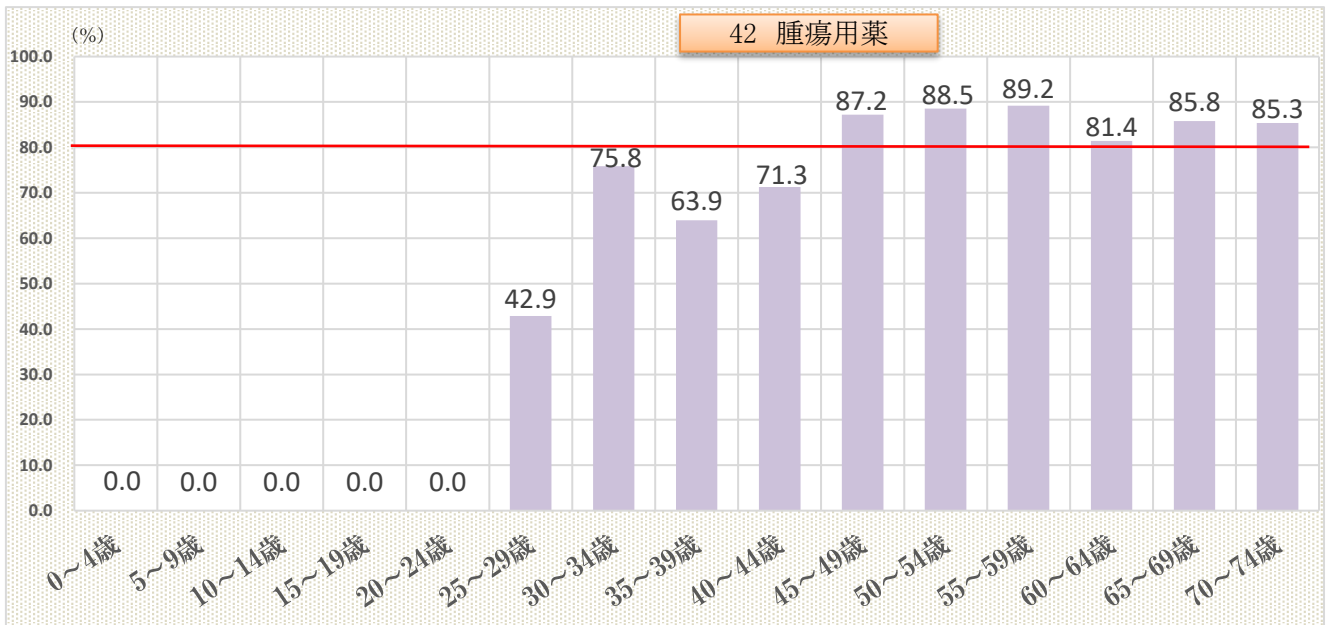
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



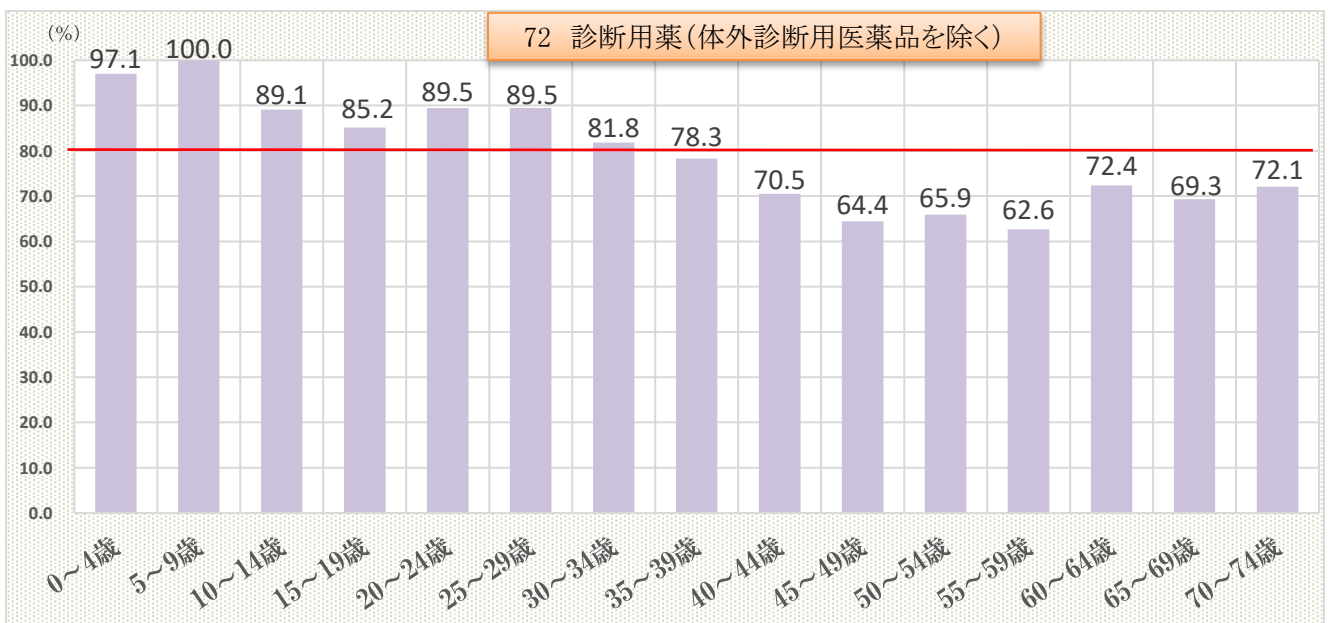
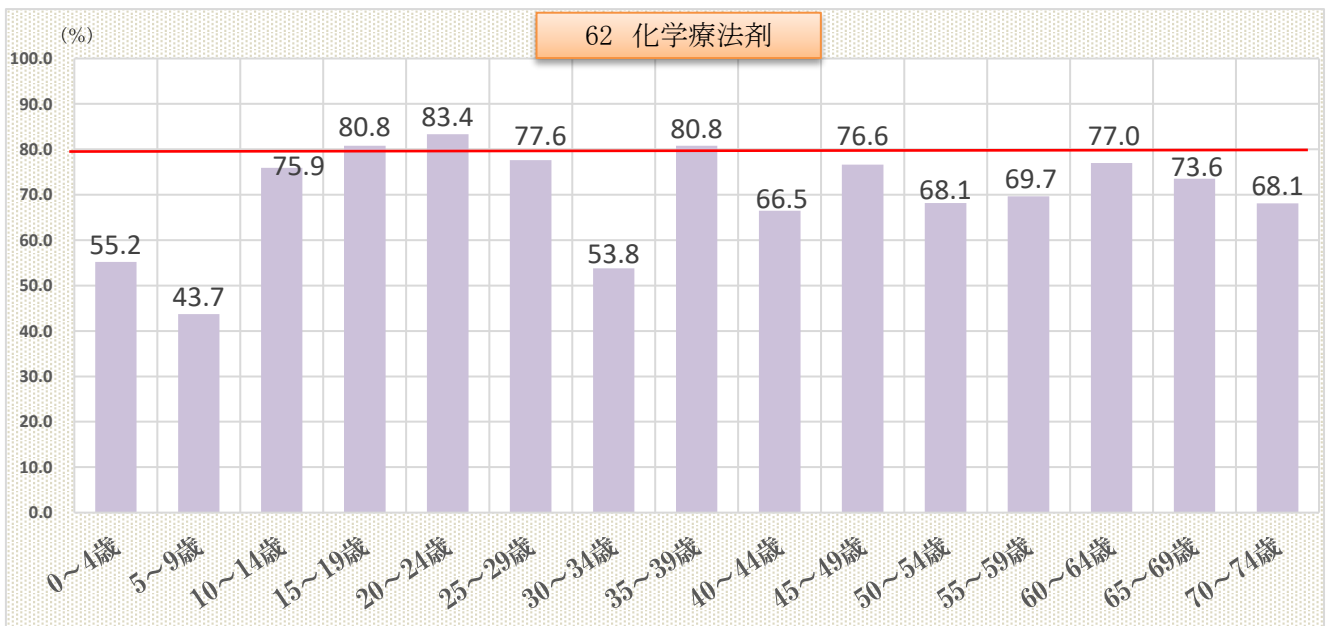
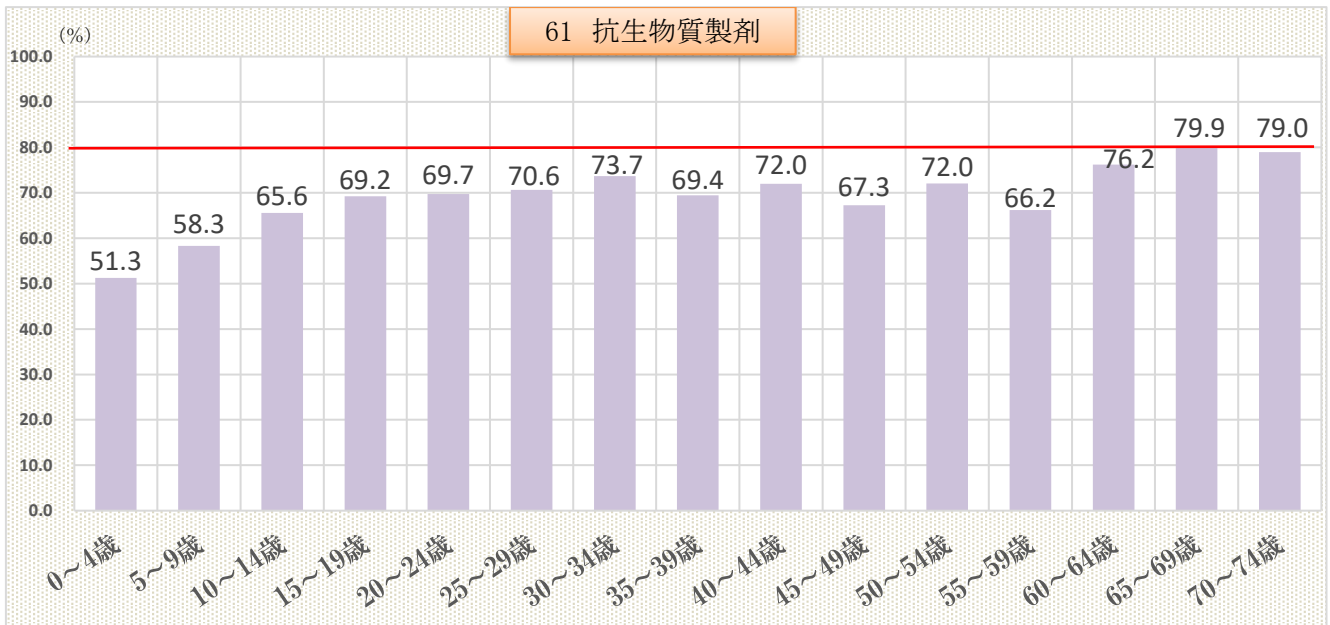
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



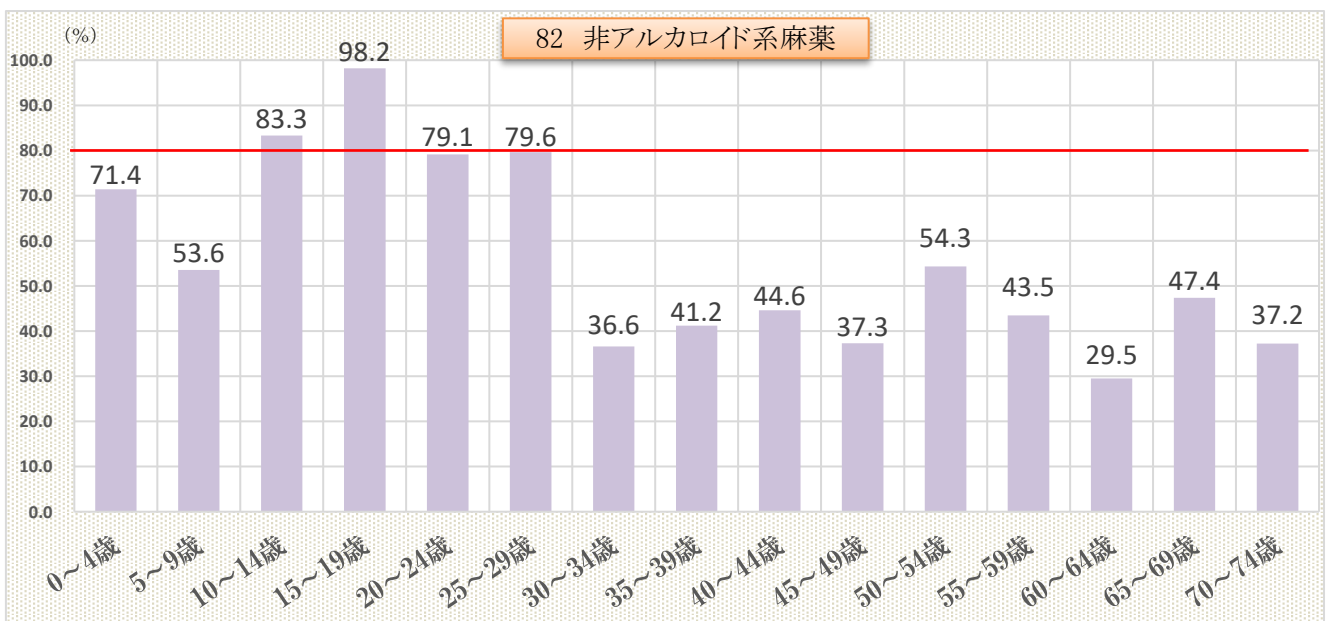
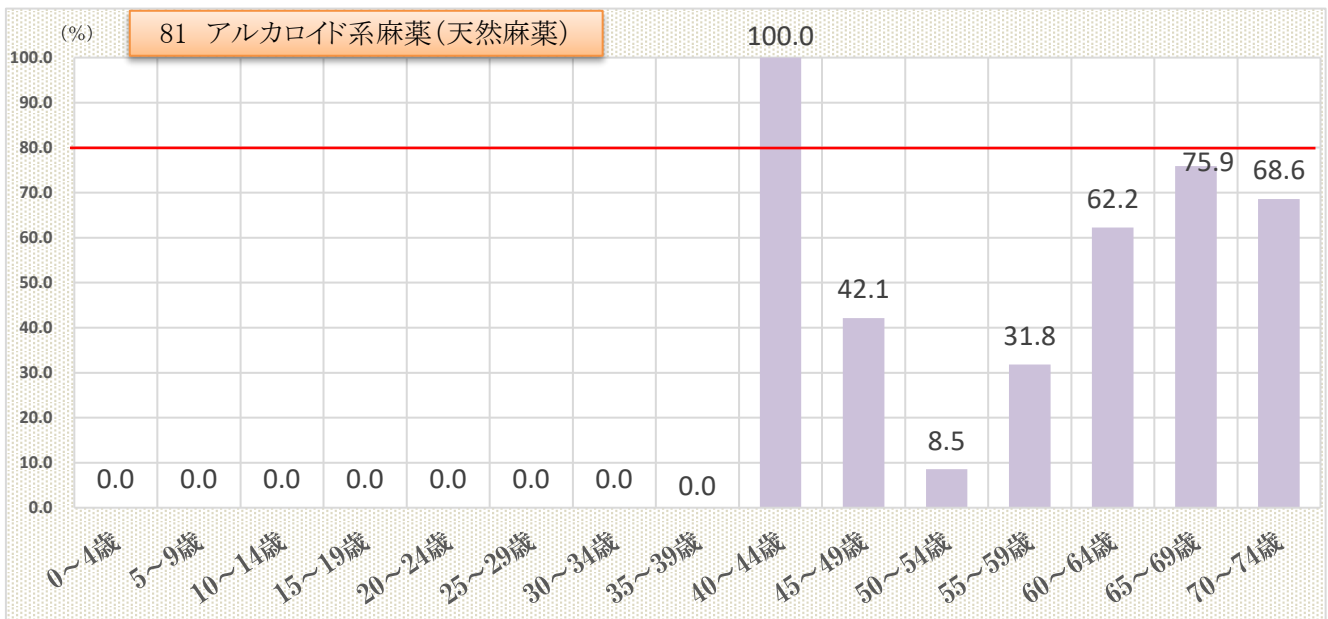
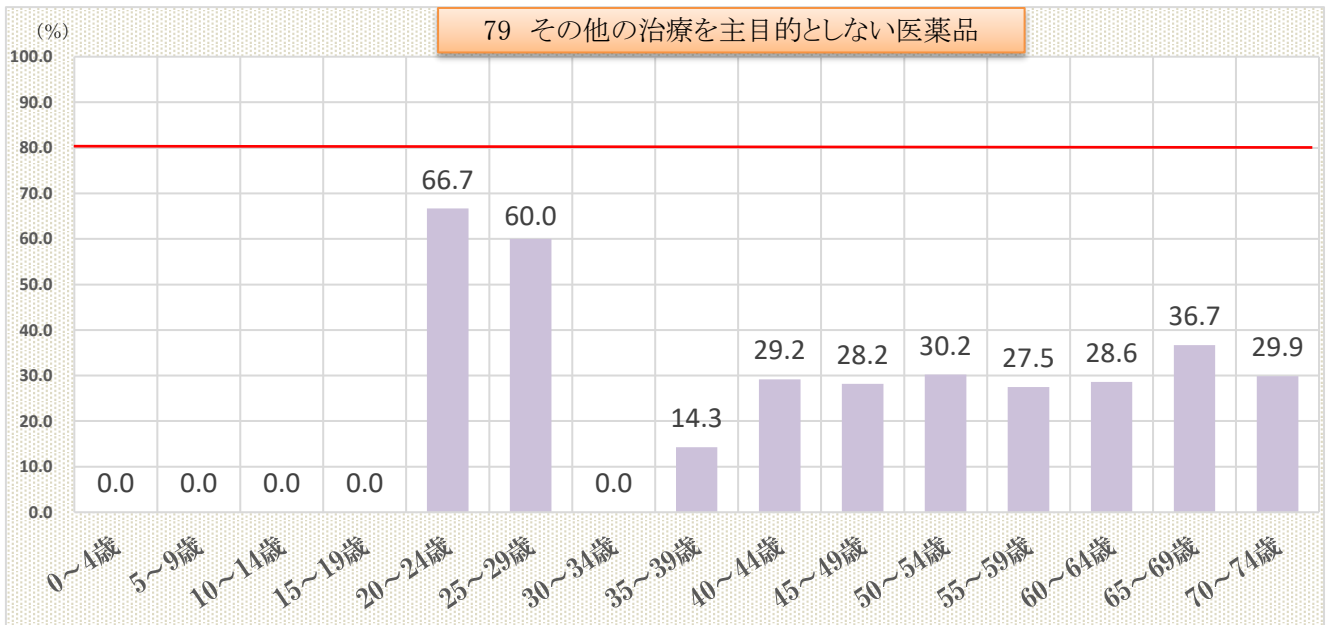
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

資料No.2-1

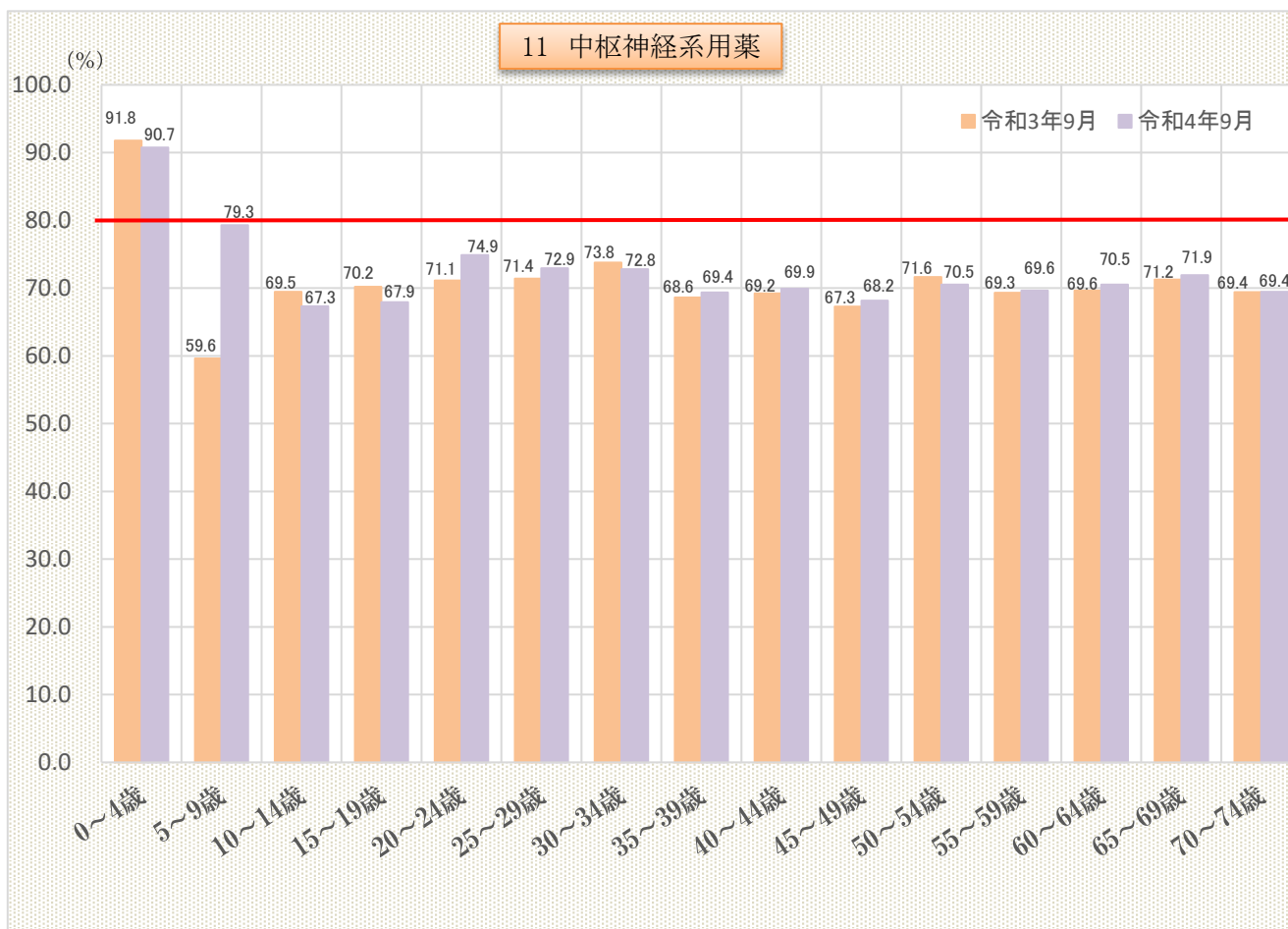
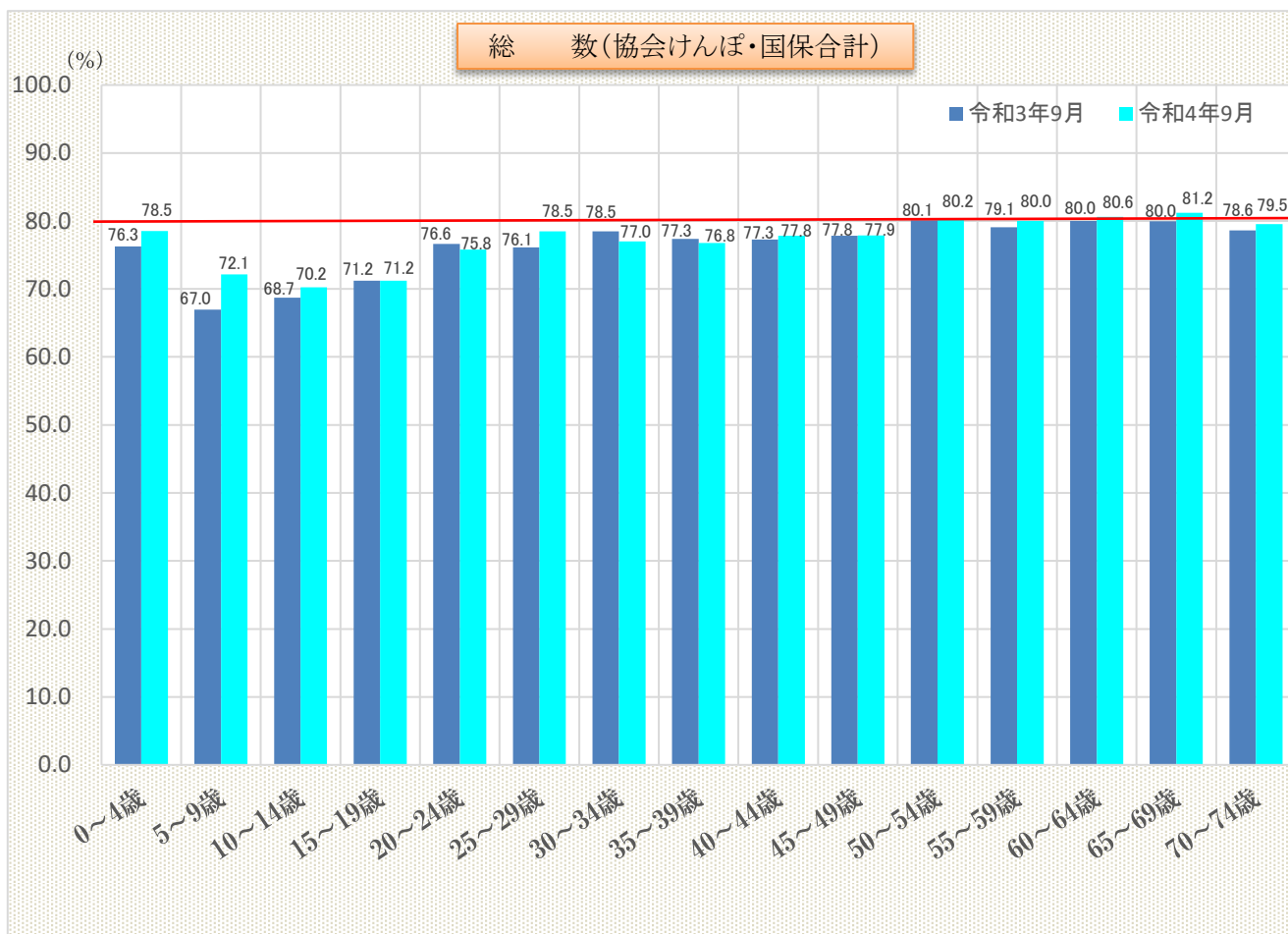


年齢階級別の使用割合

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
総数	78.5	72.1	70.2	71.2	75.8	78.5	77.0	76.8	77.8	77.9	80.2	80.0	80.6	81.2	79.5
11 中枢神経系用薬	90.7	79.3	67.3	67.9	74.9	72.9	72.8	69.4	69.9	68.2	70.5	69.6	70.5	71.9	69.4
12 末梢神経系用薬	30.7	60.4	54.7	50.2	60.5	54.4	52.9	65.3	61.9	61.8	59.2	64.4	55.9	58.0	52.7
13 感覚器用薬	56.4	48.8	56.9	65.8	65.4	77.6	71.2	67.9	61.0	68.6	65.5	61.2	61.8	62.3	64.0
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	69.7	58.7	47.6	57.1	49.9	88.0	85.2	87.7	88.6	87.3	87.6	86.9	86.5	86.0	84.4
22 呼吸器用薬	84.4	78.5	80.2	82.6	85.0	85.3	85.0	81.2	84.9	80.9	80.6	81.1	80.1	83.4	81.2
23 消化器用薬	82.2	86.6	85.4	81.3	88.3	88.0	84.4	85.8	87.8	85.0	87.3	86.9	85.7	86.5	85.8
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	27.2	44.6	42.1	78.3	84.4	92.6	76.4	81.4	86.2	85.8	78.3	68.9	65.1	64.8	63.6
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	58.6	81.2	56.0	80.4	77.0	82.4	76.9	86.2	83.5	69.0	82.9	80.3	84.9	82.3	82.1
26 外皮用薬	57.7	51.3	55.7	54.4	54.6	62.0	60.0	61.6	63.1	66.5	69.3	66.6	68.3	67.7	65.4
27 歯科口腔用薬	100.0	100.0	100.0	98.0	100.0	96.3	98.9	99.1	97.1	98.1	92.3	92.0	90.1	93.9	95.1
29 その他の個々の器官系用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31 ビタミン剤	100.0	100.0	84.8	93.7	94.5	94.5	95.0	93.5	90.3	90.7	50.0	100.0	70.3	39.6	50.2
32 滋養強壮薬	100.0	93.2	84.8	89.8	75.6	83.1	78.5	81.7	83.8	85.0	84.8	95.1	84.3	89.2	87.9
33 血液・体液用薬	87.1	84.7	79.8	81.8	83.6	89.8	88.3	88.8	87.1	88.2	88.9	88.8	84.6	84.4	82.1
34 人工透析用薬	0.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	0.0	88.8	0.0	19.4	46.4	100.0
39 その他の代謝性医薬品	67.5	54.8	61.9	66.3	73.4	87.3	75.0	80.5	82.9	79.6	82.8	82.8	83.5	83.6	80.9
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	—	—	0.0	—	—	42.9	75.8	63.9	71.3	87.2	88.5	89.2	81.4	85.8	85.3
43 放射性医薬品	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
44 アレルギーマネジメント用薬	68.7	65.2	69.4	72.9	79.5	79.1	82.7	79.4	78.9	81.8	80.5	77.7	78.4	78.3	75.2
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	51.3	58.3	65.6	69.2	69.7	70.6	73.7	69.4	72.0	67.3	72.0	66.2	76.2	79.9	79.0
62 化学療法剤	55.2	43.7	75.9	80.8	83.4	77.6	53.8	80.8	66.5	76.6	68.1	69.7	77.0	73.6	68.1
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	97.1	100.0	89.1	85.2	89.5	89.5	81.8	78.3	70.5	64.4	65.9	62.6	72.4	69.3	72.1
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	0.0	66.7	60.0	0.0	14.3	29.2	28.2	30.2	27.5	28.6	36.7	29.9
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	42.1	8.5	31.8	62.2	75.9	68.6
82 非アルカロイド系麻薬	71.4	53.6	83.3	98.2	79.1	79.6	36.6	41.2	44.6	37.3	54.3	43.5	29.5	47.4	37.2

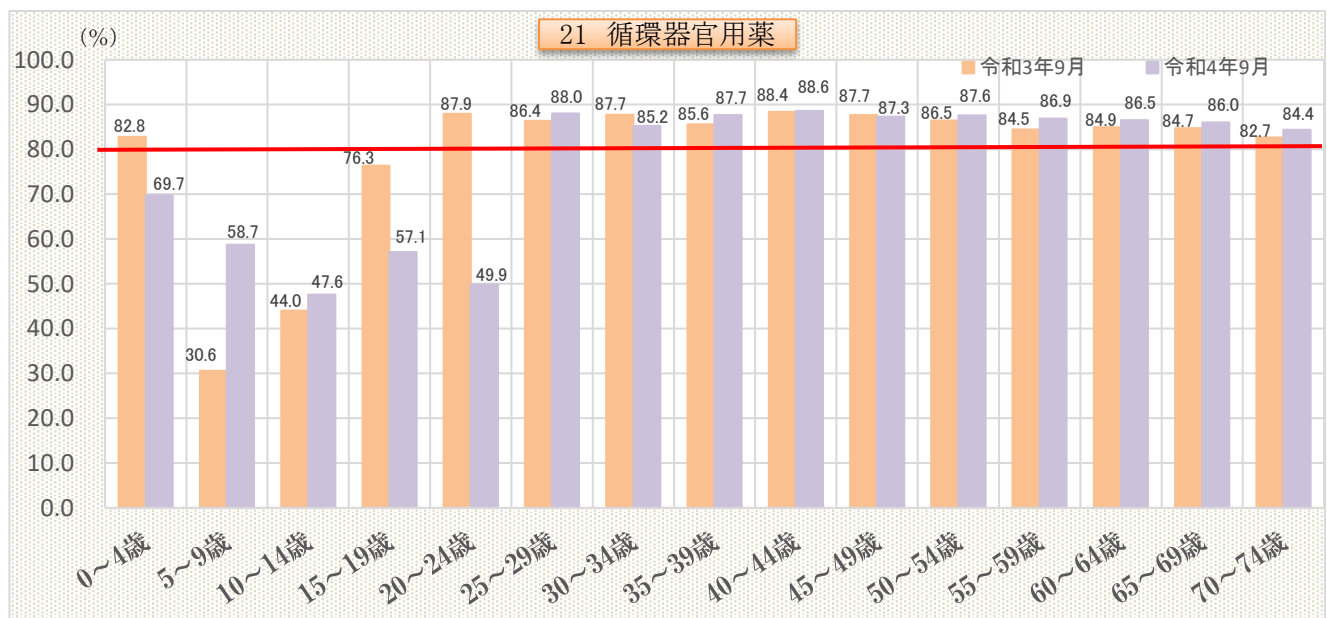
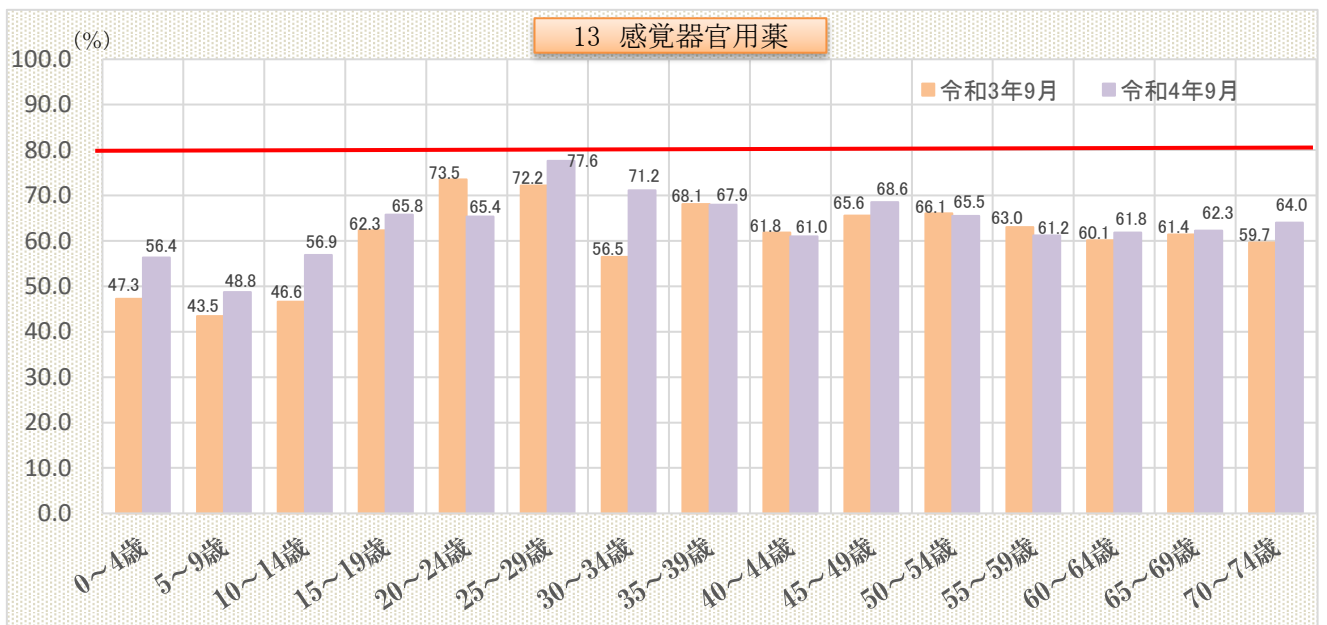
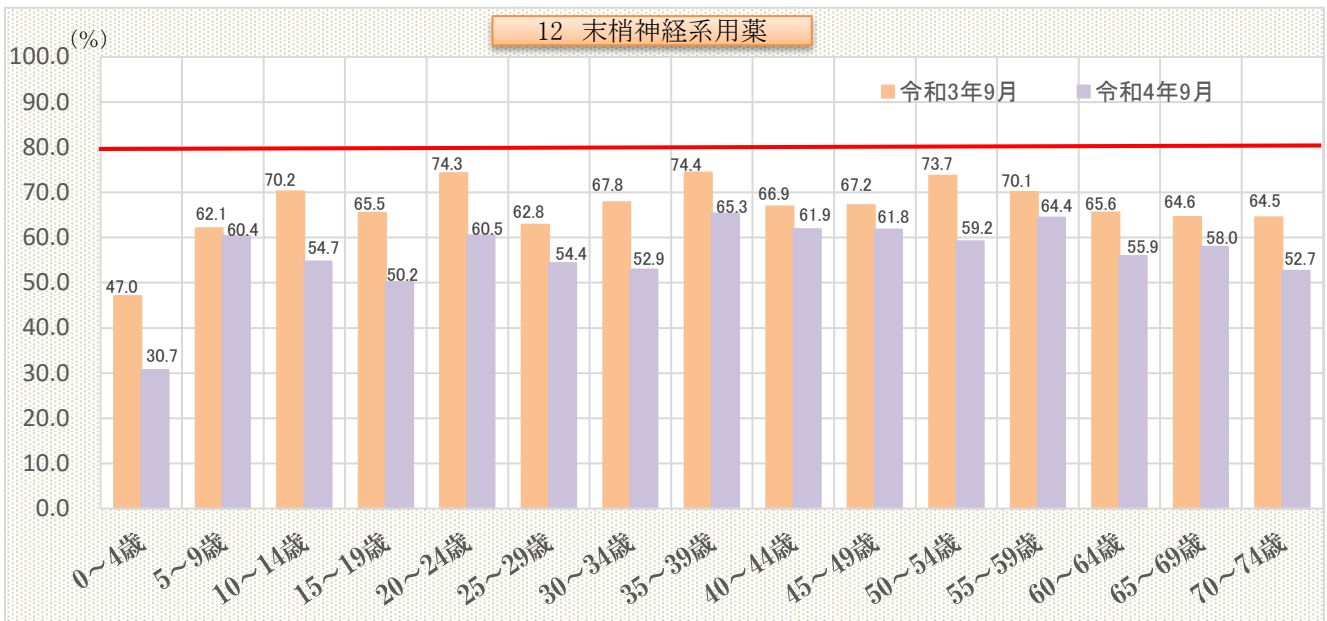
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



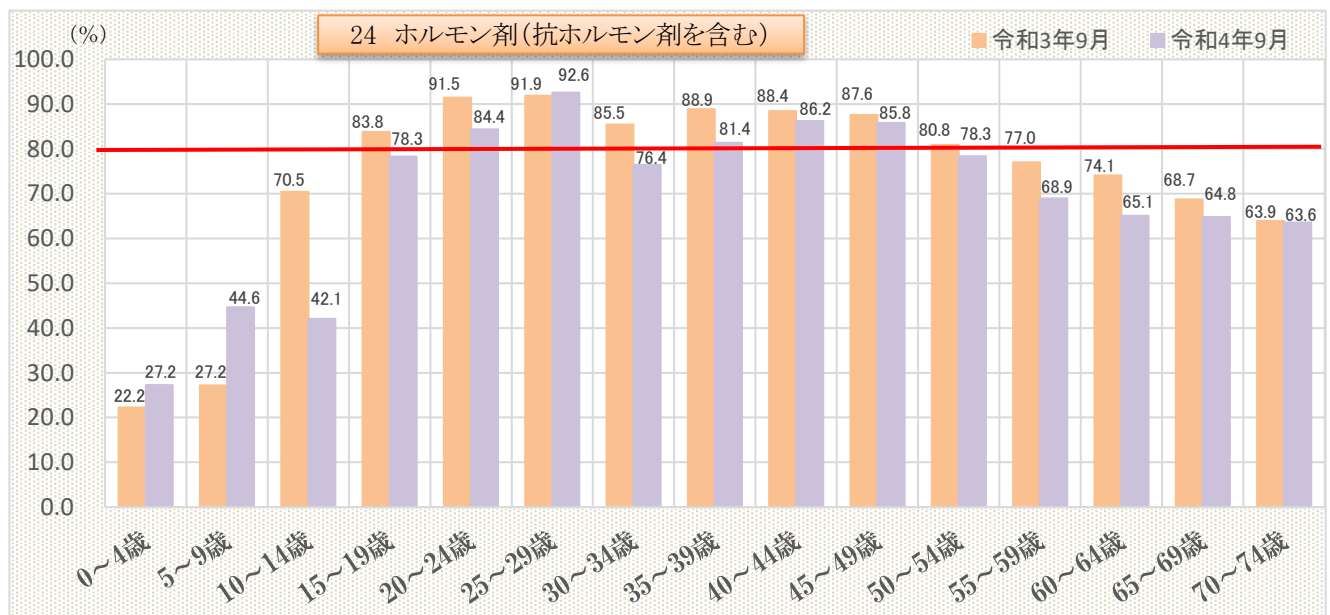
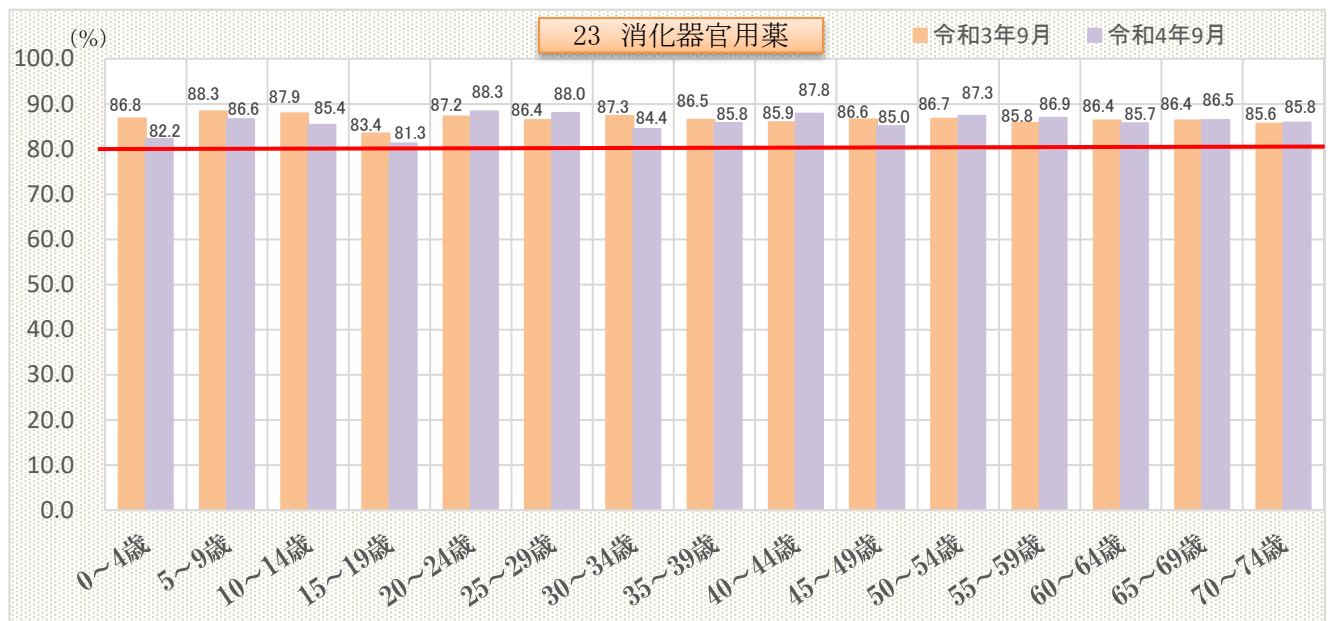
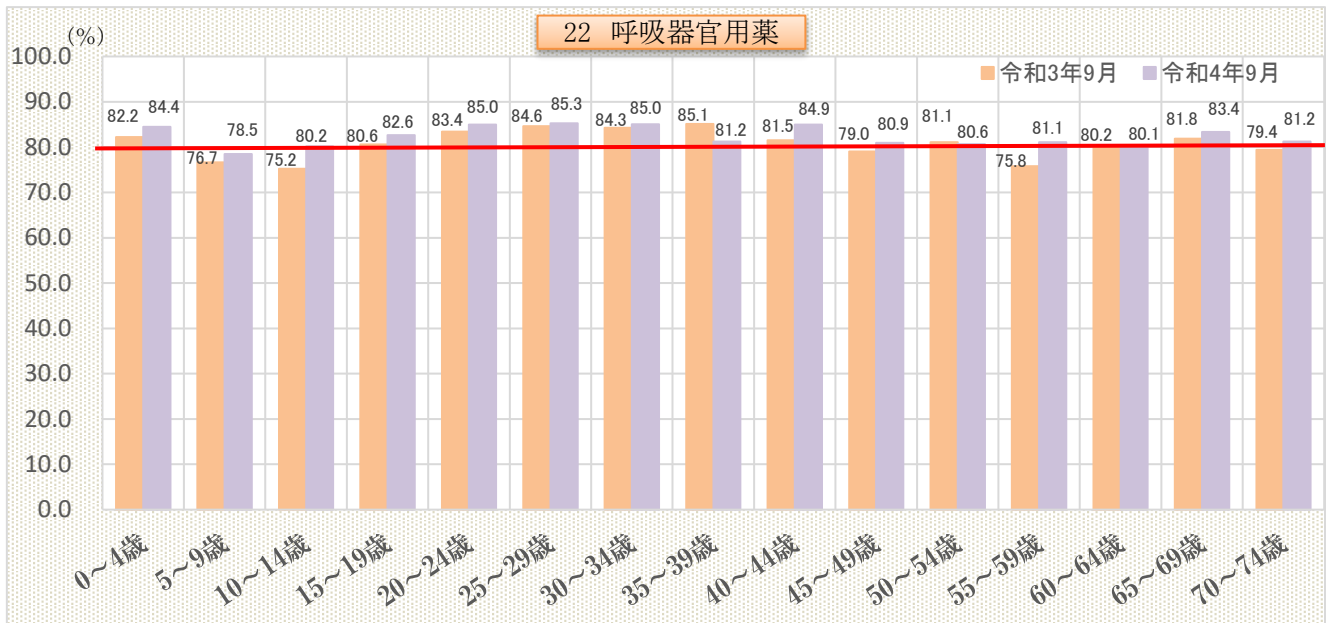
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



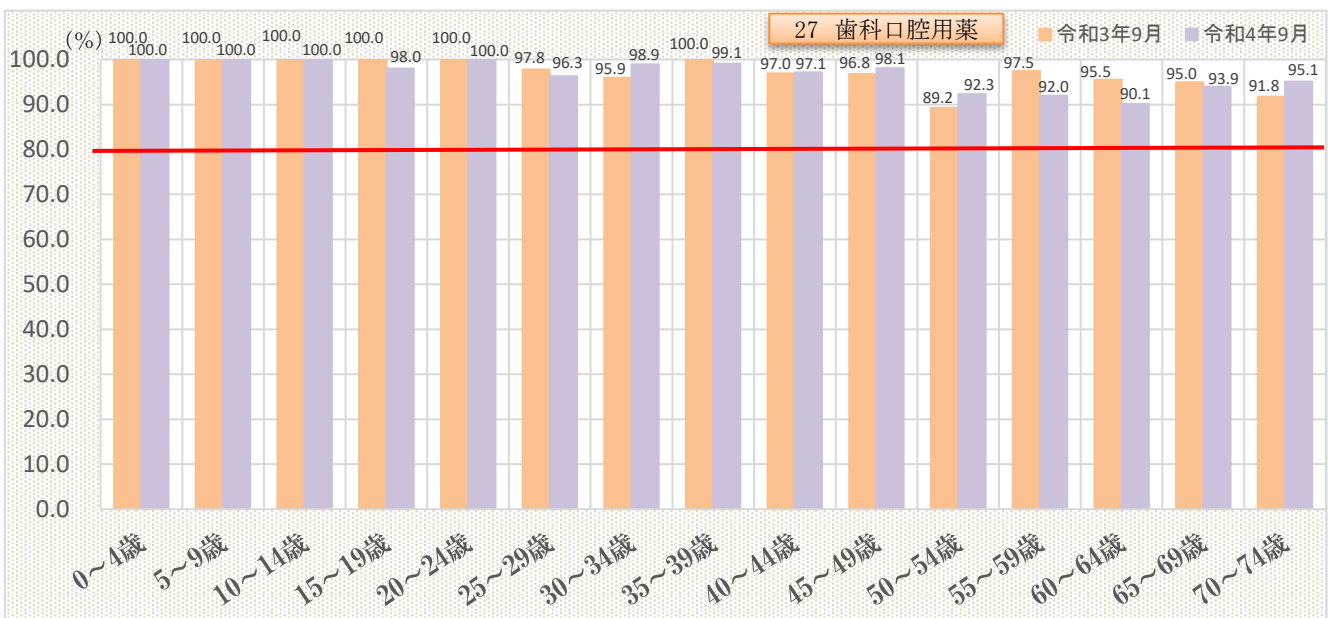
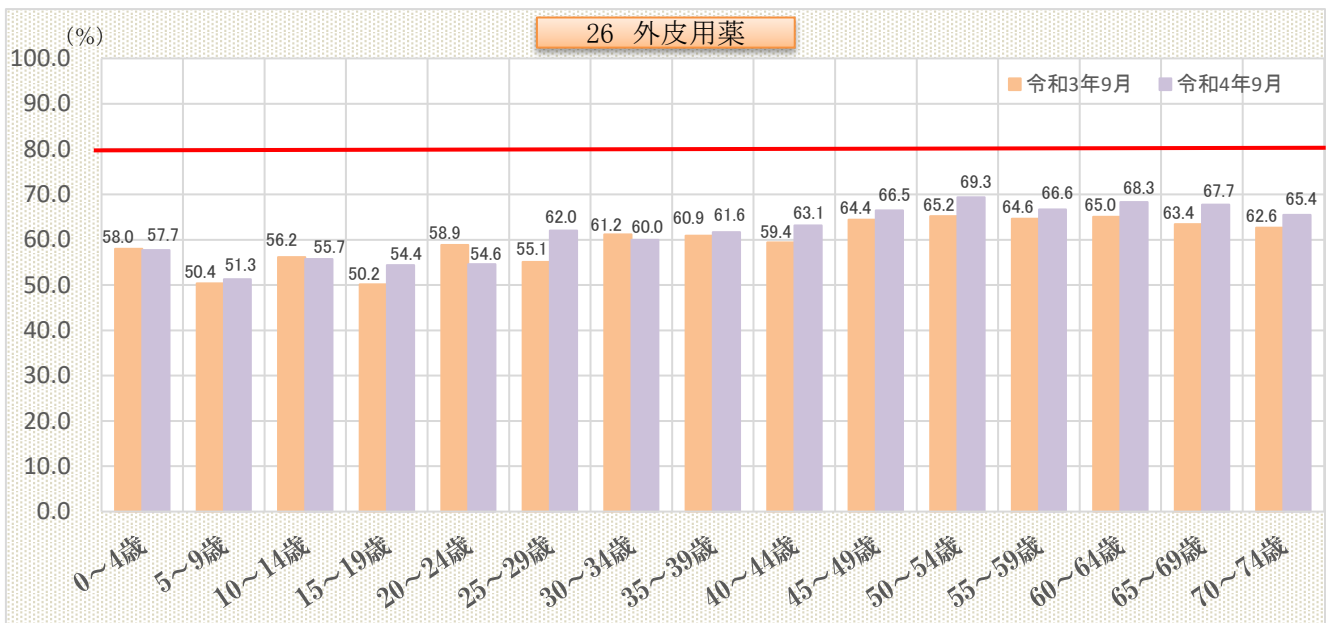
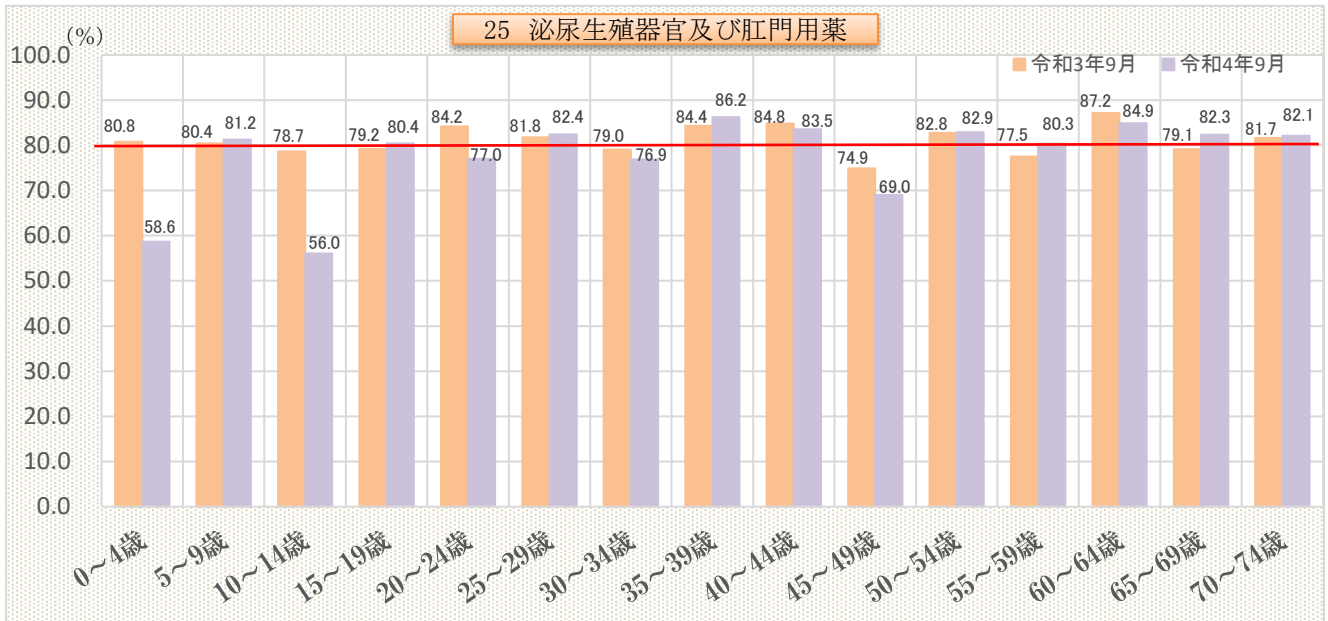
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



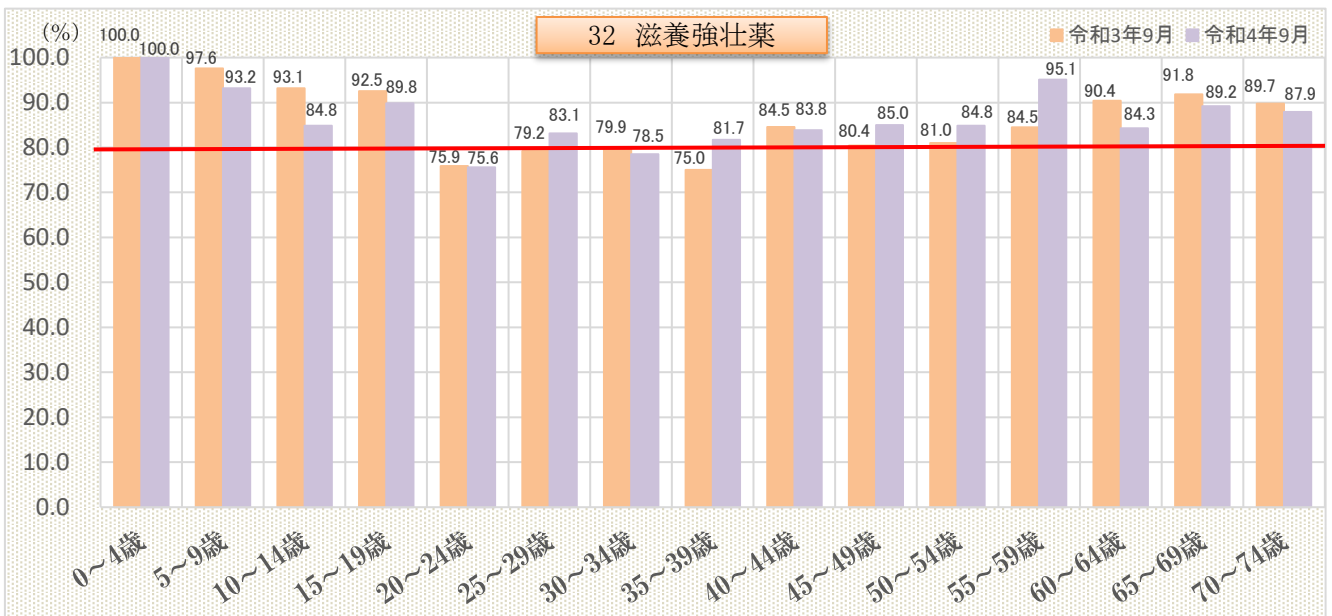
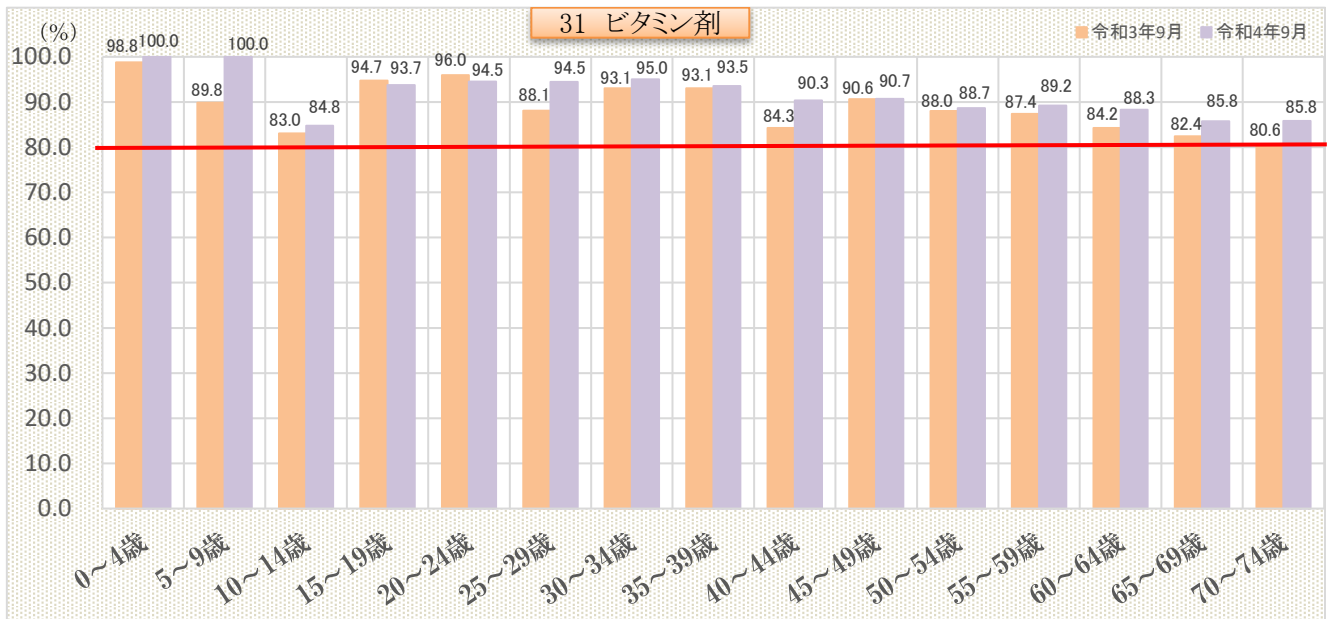
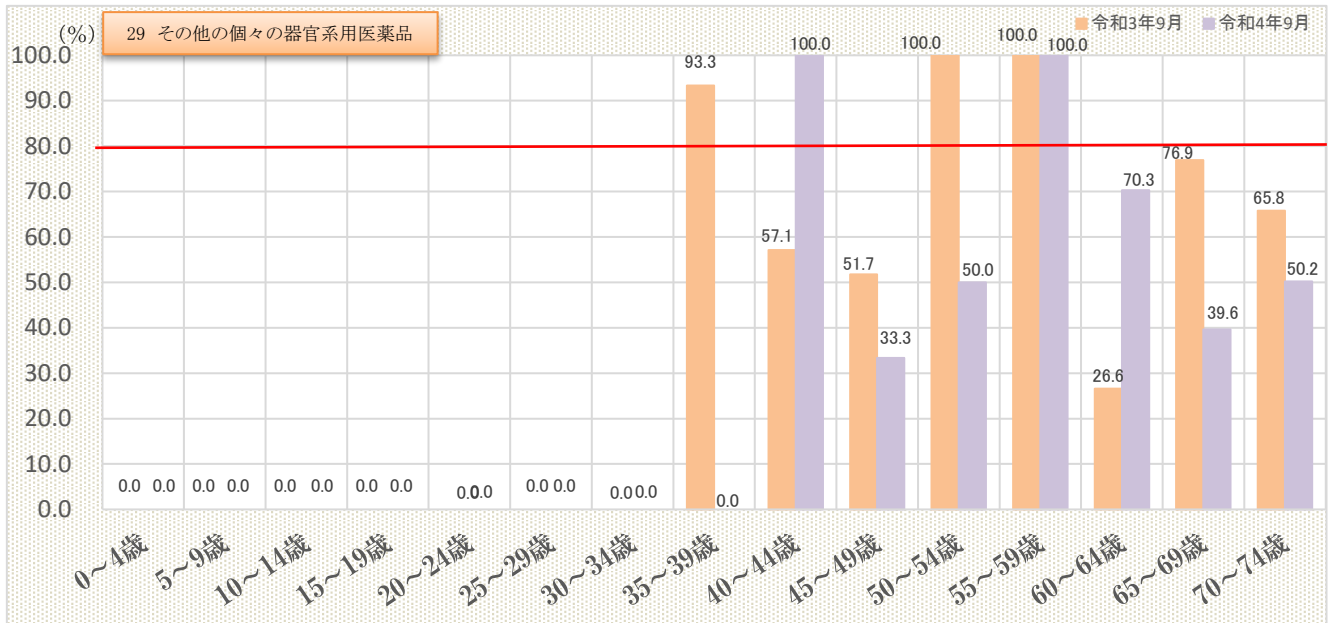
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



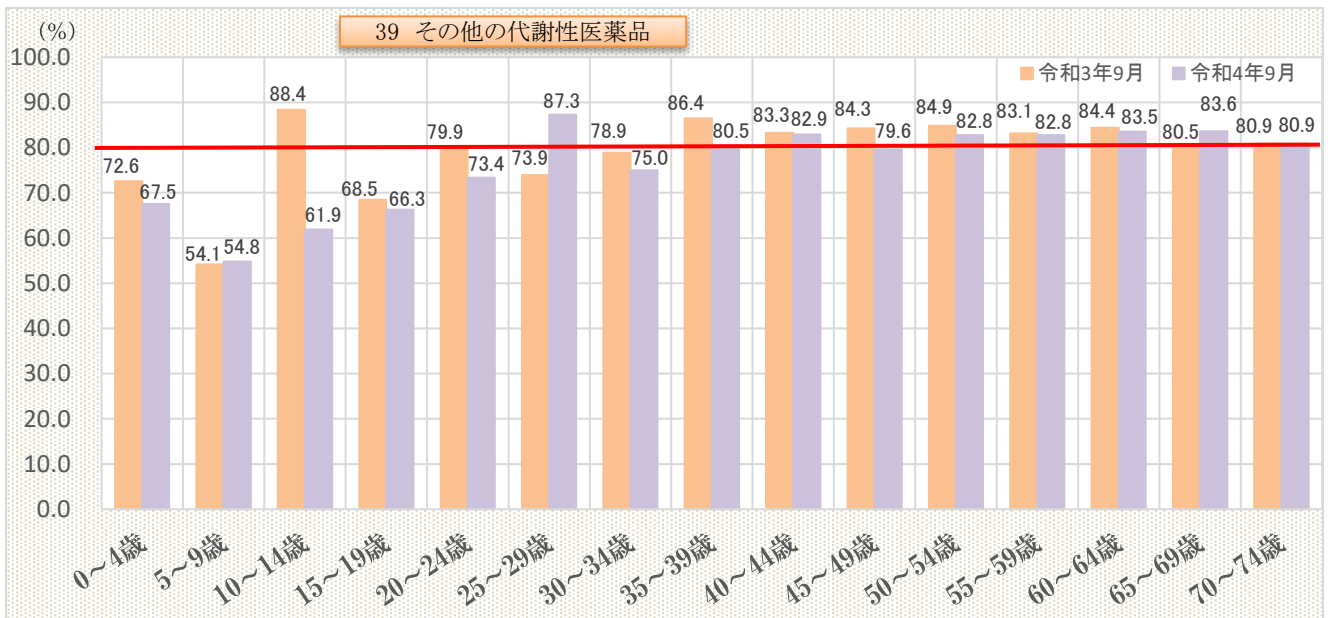
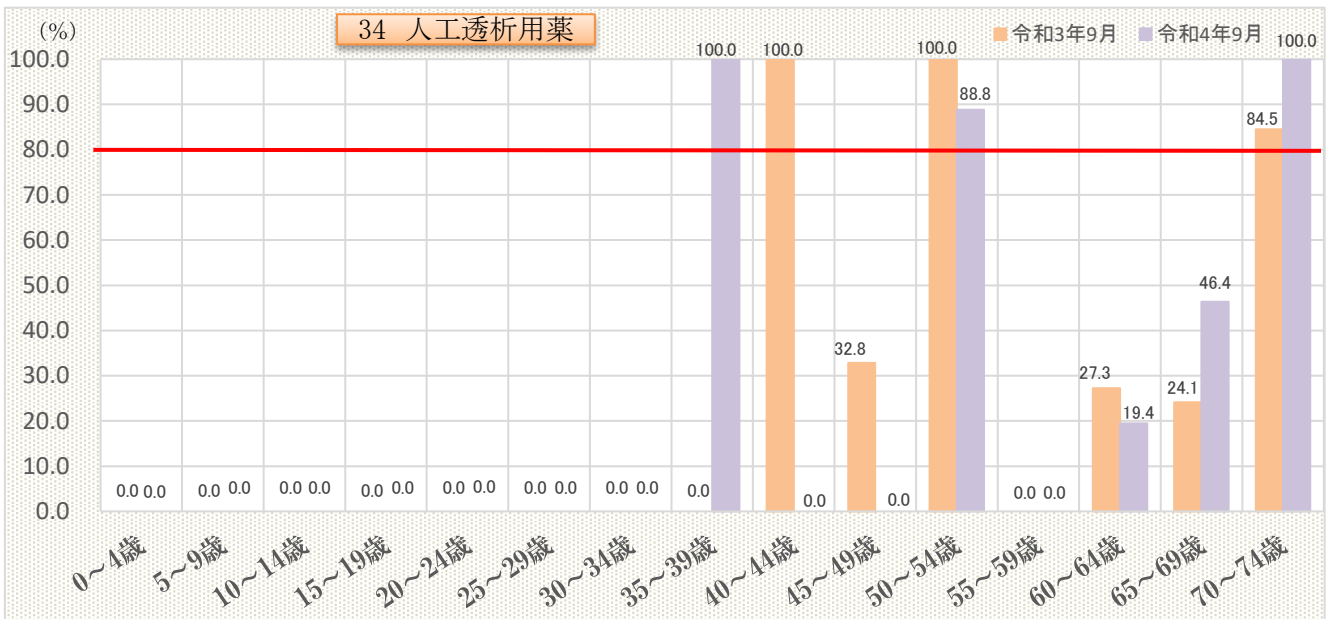
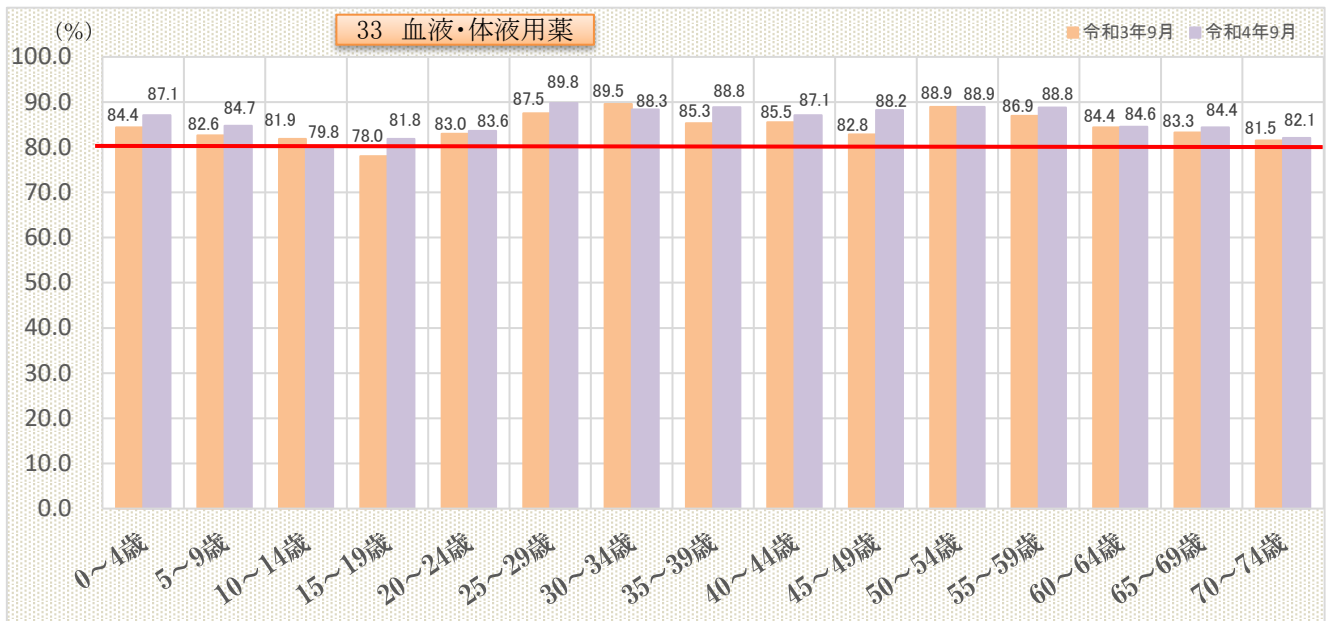
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



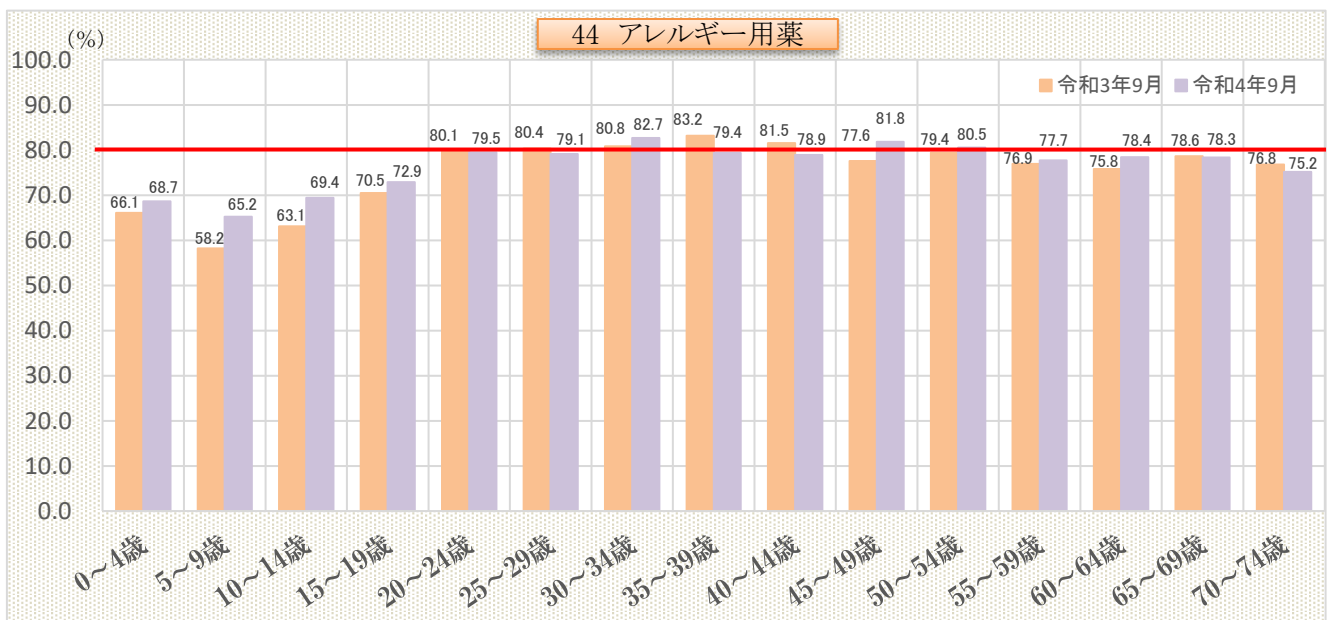
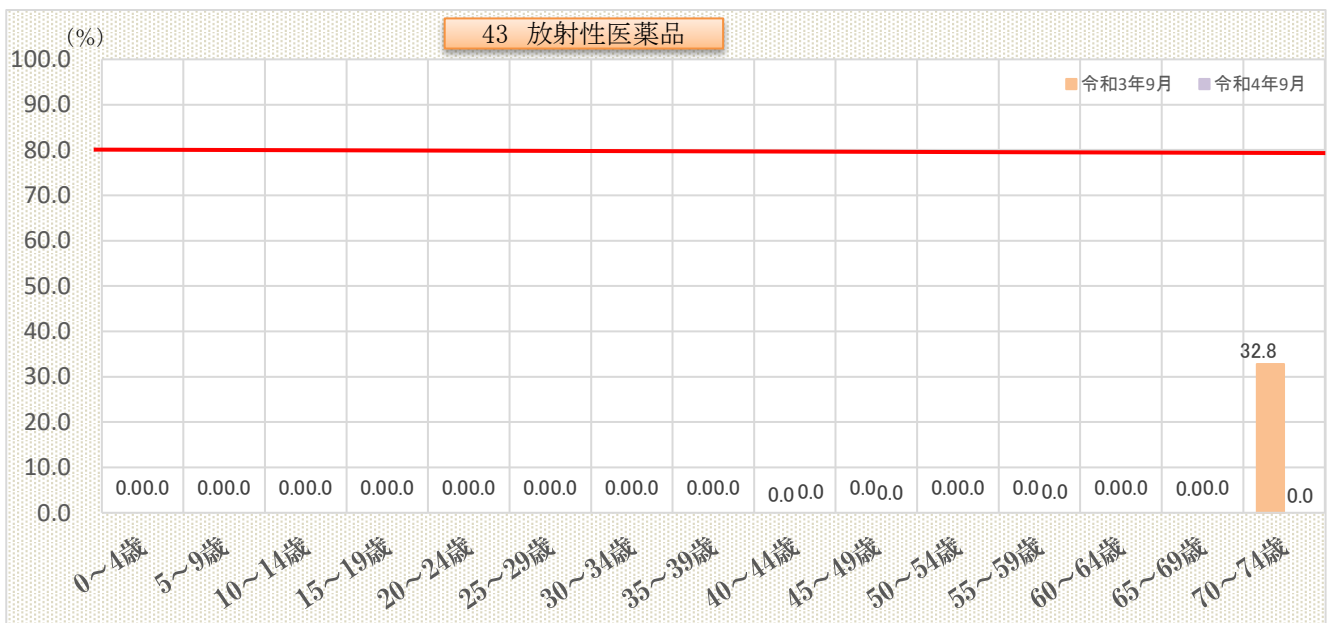
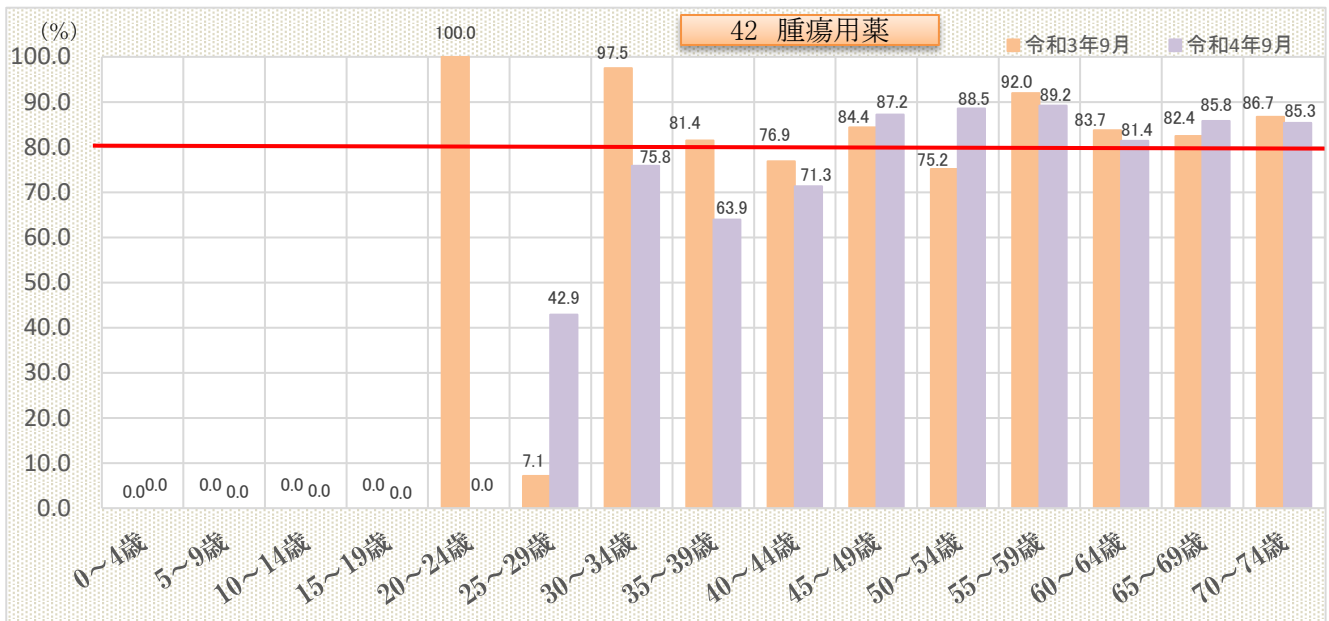
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



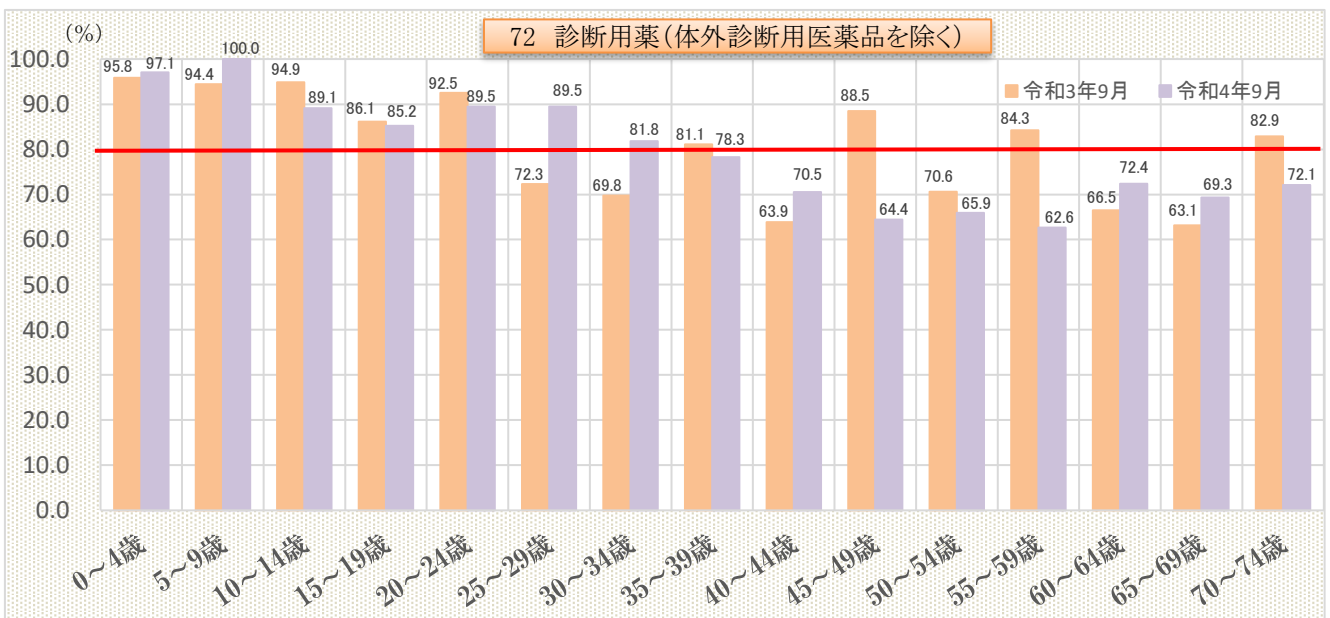
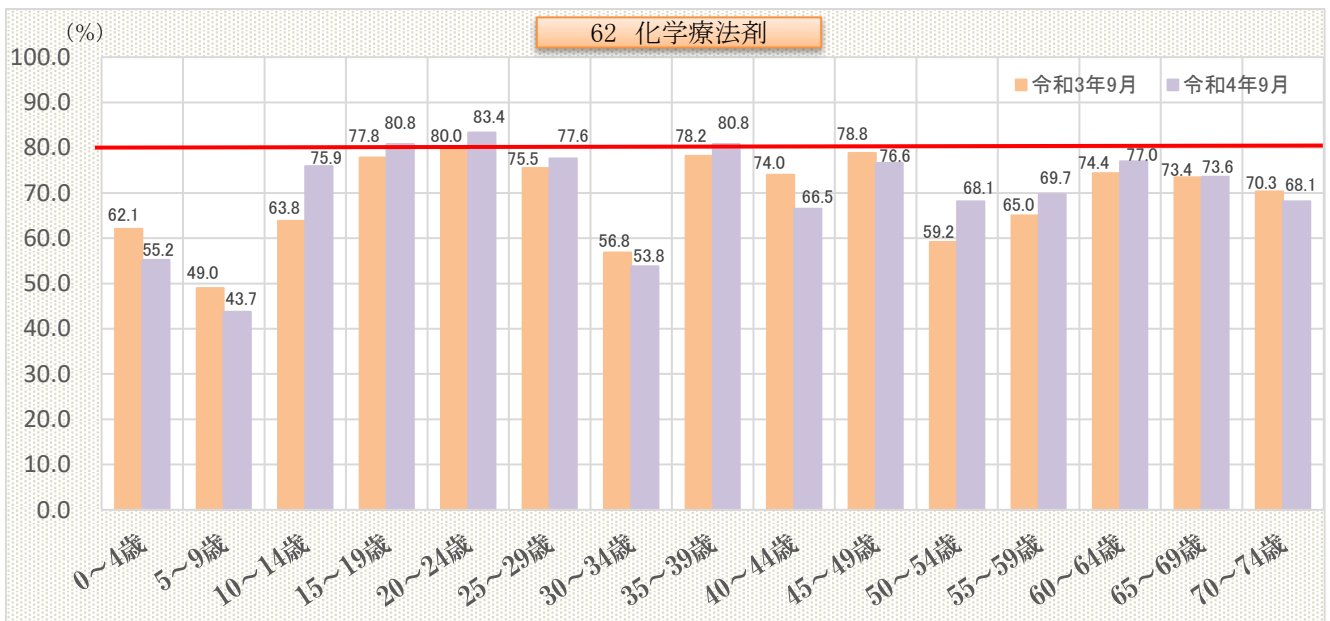
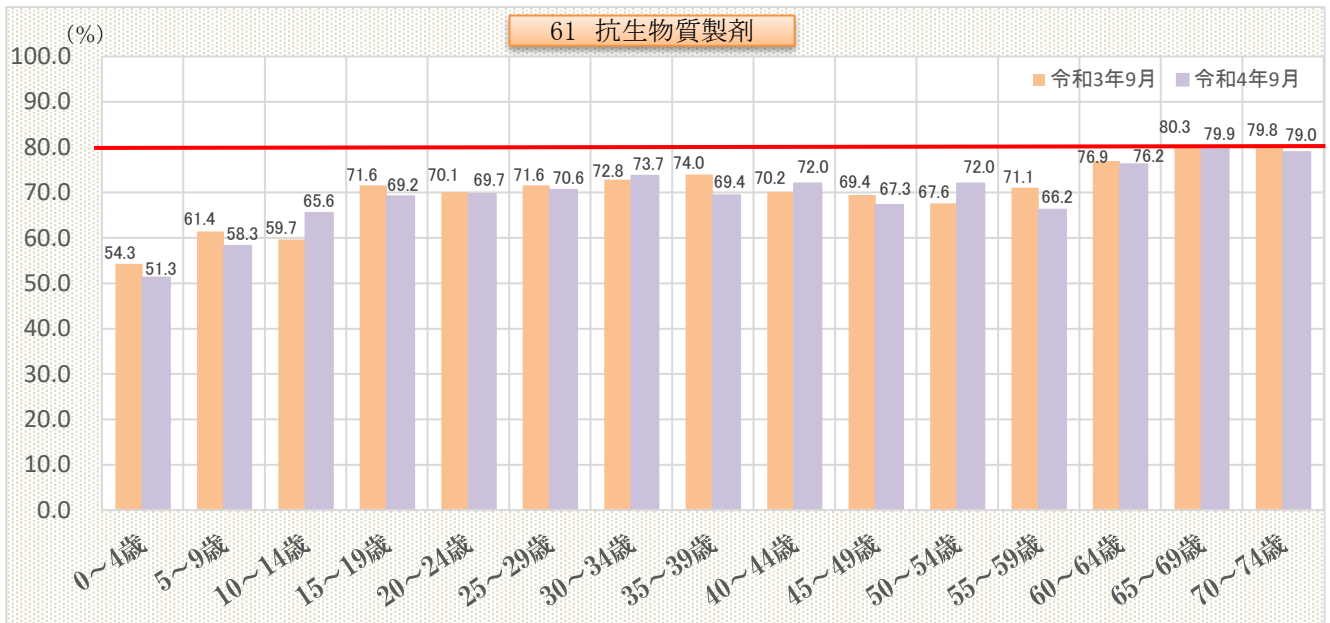
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



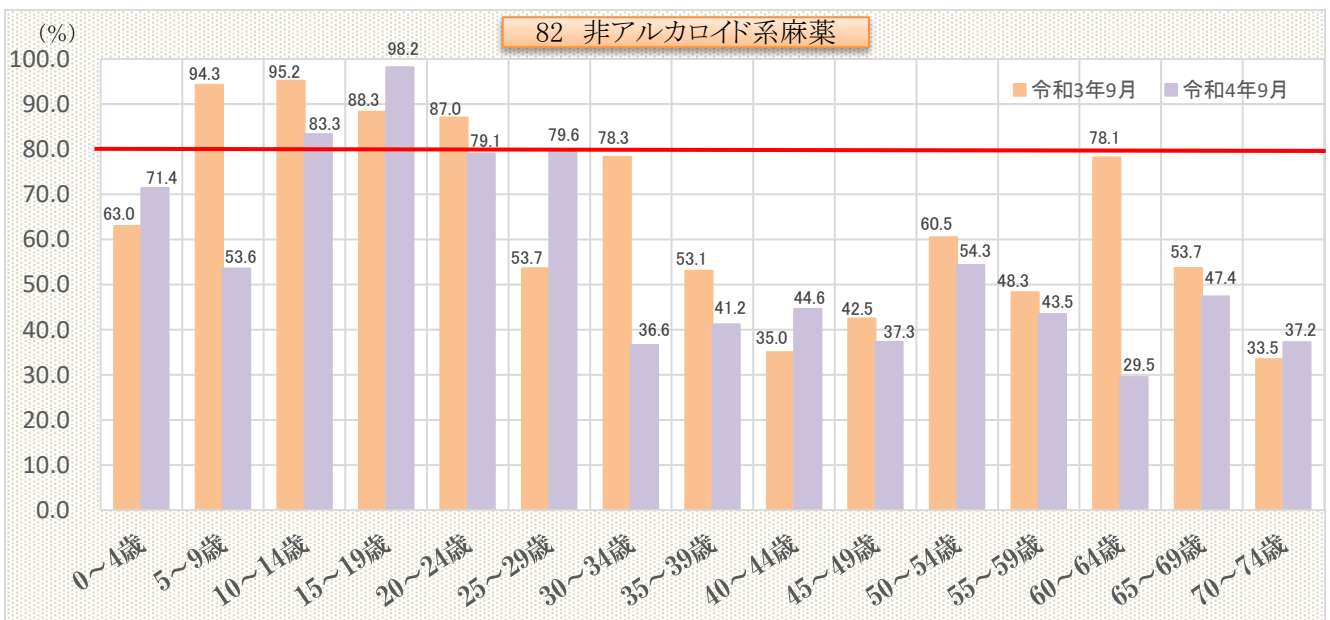
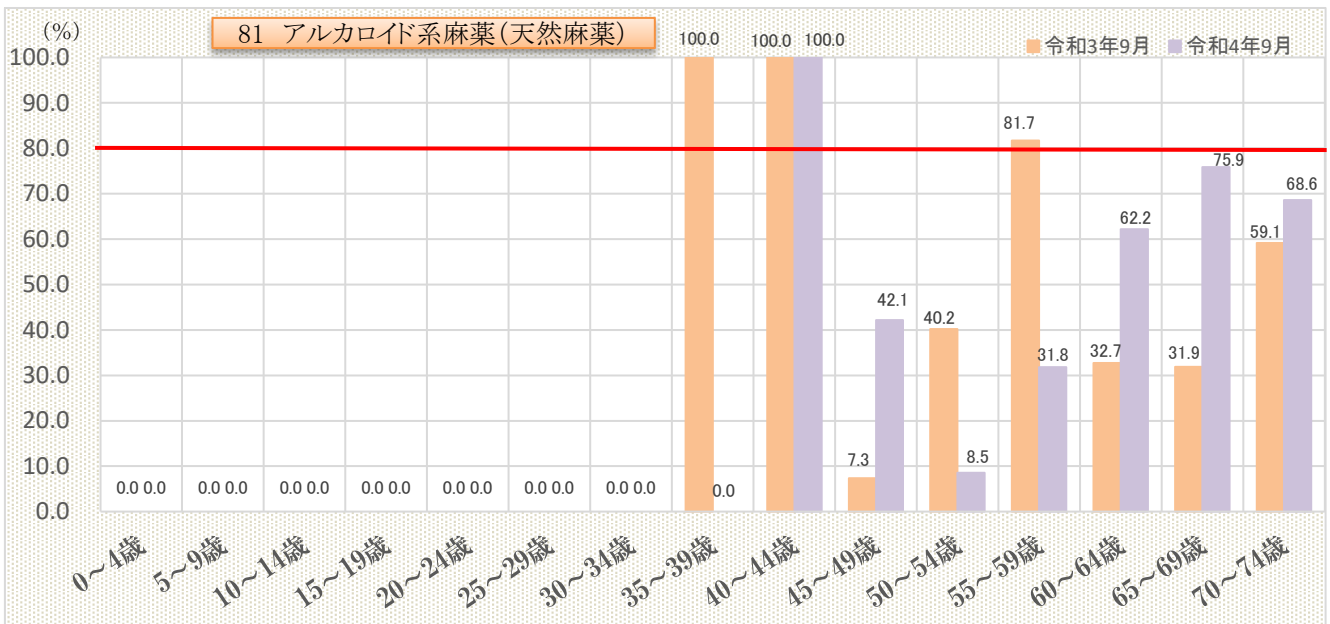
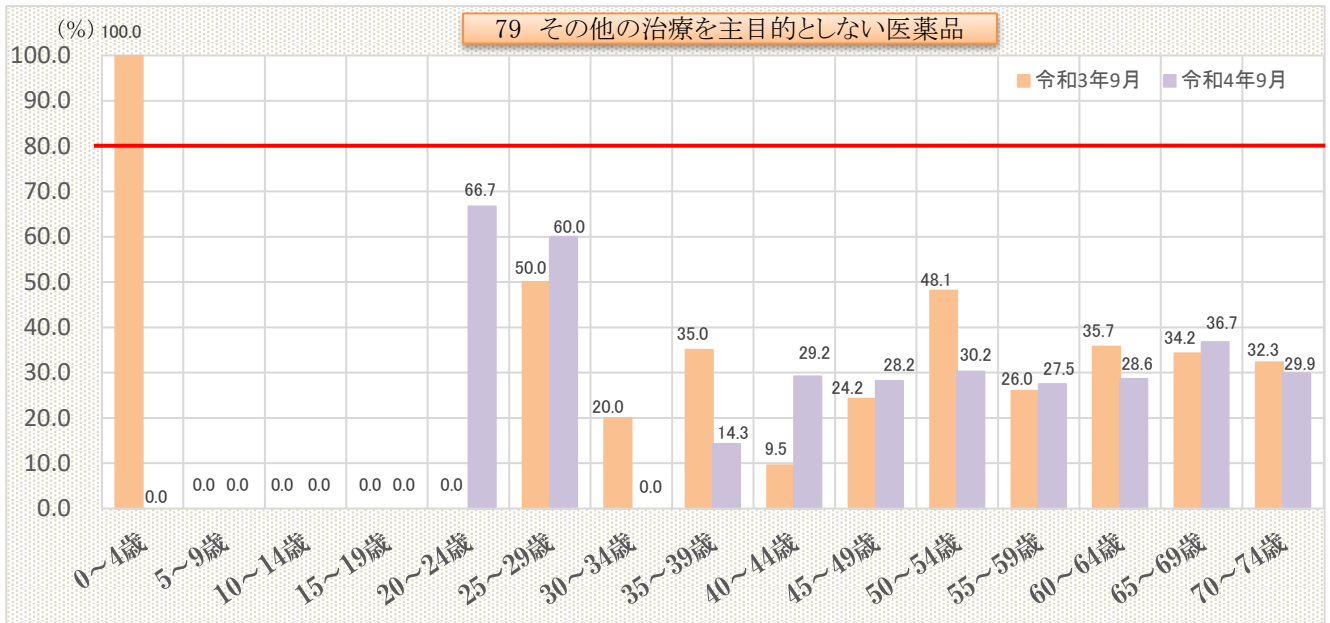
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)		
総数	令和3年9月	76.3	67.0	68.7	71.2	71.2	76.6	77.3	77.8	77.8	77.8	80.1	79.1	80.0	80.0	80.0	78.6	
	令和4年9月	78.5	72.1	70.2	71.2	75.8	78.5	77.8	77.8	77.8	77.9	80.2	80.0	80.6	81.2	81.2	79.5	
	差	2.2	5.1	1.5	0.0	△ 0.8	△ 1.5	△ 0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.9	0.6	1.2	0.9	0.9	
11 中枢神経系用薬	令和3年9月	91.8	59.6	69.5	70.2	71.1	71.4	73.8	68.6	69.2	67.3	71.6	69.3	69.6	71.9	71.2	69.4	69.4
	令和4年9月	90.7	79.3	67.3	67.9	74.9	72.9	72.8	69.4	69.9	68.2	70.5	69.6	70.5	71.9	69.4	69.4	69.4
	差	△ 1.1	19.7	△ 2.2	△ 2.3	3.8	1.5	△ 1.0	0.8	0.7	0.9	△ 1.1	0.3	0.9	0.7	0.0	0.0	
12 末梢神経系用薬	令和3年9月	47.0	62.1	70.2	65.5	74.3	62.8	67.8	74.4	66.9	67.2	73.7	70.1	65.6	64.6	64.5	64.5	52.7
	令和4年9月	30.7	60.4	54.7	50.2	60.5	54.4	52.9	65.3	61.9	61.8	59.2	64.4	55.9	58.0	52.7	52.7	52.7
	差	△ 16.3	△ 1.7	△ 15.5	△ 15.3	△ 13.8	△ 8.4	△ 14.9	△ 9.1	△ 5.0	△ 5.4	△ 14.5	△ 5.7	△ 9.7	△ 6.6	△ 11.8	△ 11.8	
13 感覚器用薬	令和3年9月	47.3	43.5	46.6	62.3	73.5	72.2	56.5	68.1	61.8	65.6	66.1	63.0	60.1	61.4	61.4	59.7	59.7
	令和4年9月	56.4	48.8	56.9	65.8	65.4	77.6	71.2	67.9	61.0	68.6	65.5	61.2	61.8	62.3	64.0	64.0	64.0
	差	9.1	5.3	10.3	3.5	△ 8.1	5.4	14.7	△ 0.2	△ 0.8	3.0	△ 0.6	△ 1.8	1.7	0.9	4.3	4.3	
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	令和3年9月	82.8	30.6	44.0	76.3	87.9	86.4	87.7	85.6	88.4	87.7	86.5	84.5	84.9	84.7	84.7	82.7	82.7
	令和4年9月	69.7	58.7	47.6	57.1	49.9	88.0	85.2	87.7	88.6	87.3	87.6	86.9	86.5	86.0	84.4	84.4	84.4
	差	△ 13.1	28.1	3.6	△ 19.2	△ 38.0	1.6	△ 2.5	2.1	0.2	△ 0.4	1.1	2.4	1.6	1.3	1.7	1.7	
22 呼吸器用薬	令和3年9月	82.2	76.7	75.2	80.6	83.4	84.6	84.3	85.1	81.5	79.0	81.1	75.8	80.2	81.8	79.4	79.4	79.4
	令和4年9月	84.4	78.5	80.2	82.6	85.0	85.3	85.0	81.2	84.9	80.9	80.6	81.1	80.1	83.4	81.2	81.2	81.2
	差	2.2	1.8	5.0	2.0	1.6	0.7	0.7	△ 3.9	3.4	1.9	△ 0.5	5.3	△ 0.1	1.6	1.8	1.8	
23 消化器用薬	令和3年9月	86.8	88.3	87.9	83.4	87.2	86.4	87.3	86.5	85.9	86.6	86.7	85.8	86.4	86.4	85.6	85.6	85.6
	令和4年9月	82.2	86.6	85.4	81.3	88.3	88.0	84.4	85.8	87.8	85.0	87.3	86.9	85.7	86.5	85.8	85.8	85.8
	差	△ 4.6	△ 1.7	△ 2.5	△ 2.1	1.1	1.6	△ 2.9	△ 0.7	1.9	△ 1.6	0.6	1.1	△ 0.7	0.1	0.2	0.2	
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	令和3年9月	22.2	27.2	70.5	83.8	91.5	91.9	85.5	88.9	88.4	87.6	80.8	77.0	74.1	68.7	63.9	63.9	63.9
	令和4年9月	27.2	44.6	42.1	78.3	84.4	92.6	76.4	81.4	86.2	85.8	78.3	68.9	65.1	64.8	63.6	63.6	63.6
	差	5.0	17.4	△ 28.4	△ 5.5	△ 7.1	0.7	△ 9.1	△ 7.5	△ 2.2	△ 1.8	△ 2.5	△ 8.1	△ 9.0	△ 3.9	△ 0.3	△ 0.3	
25 泌尿生殖器及び肛門用薬	令和3年9月	80.8	80.4	78.7	79.2	84.2	81.8	79.0	84.4	84.8	74.9	82.8	77.5	87.2	79.1	81.7	81.7	81.7
	令和4年9月	58.6	81.2	56.0	80.4	77.0	82.4	76.9	86.2	83.5	69.0	82.9	80.3	84.9	82.3	82.1	82.1	82.1
	差	△ 22.2	0.8	△ 22.7	1.2	△ 7.2	0.6	△ 2.1	1.8	△ 1.3	△ 5.9	0.1	2.8	△ 2.3	3.2	0.4	0.4	
26 外皮用薬	令和3年9月	58.0	50.4	56.2	50.2	58.9	55.1	61.2	60.9	59.4	64.4	65.2	64.6	65.0	63.4	62.6	62.6	62.6
	令和4年9月	57.7	51.3	55.7	54.4	54.6	62.0	60.0	61.6	63.1	66.5	69.3	66.6	68.3	67.7	65.4	65.4	65.4
	差	△ 0.3	0.9	△ 0.5	4.2	△ 4.3	6.9	△ 1.2	0.7	3.7	2.1	4.1	2.0	3.3	4.3	2.8	2.8	
27 歯科口腔用薬	令和3年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	95.9	100.0	97.0	96.8	89.2	97.5	95.5	95.0	91.8	91.8	91.8
	令和4年9月	100.0	100.0	100.0	98.0	100.0	96.3	98.9	99.1	97.1	98.1	92.3	92.0	90.1	93.9	95.1	95.1	95.1
	差	0.0	0.0	0.0	△ 2.0	0.0	△ 1.5	3.0	△ 0.9	0.1	1.3	3.1	△ 5.5	△ 5.4	△ 1.1	3.3	3.3	
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	93.3	57.1	51.7	100.0	100.0	26.6	76.9	65.8	65.8	65.8
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	33.3	50.0	100.0	70.3	39.6	50.2	50.2	50.2
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	42.9	△ 18.4	△ 50.0	0.0	43.7	△ 37.3	△ 15.6	△ 15.6	
31 ビタミン剤	令和3年9月	98.8	89.8	83.0	94.7	96.0	88.1	93.1	93.1	84.3	90.6	88.0	87.4	84.2	82.4	80.6	80.6	80.6
	令和4年9月	100.0	100.0	84.8	93.7	94.5	94.5	95.0	93.5	90.3	90.7	88.7	89.2	88.3	85.8	85.8	85.8	85.8
	差	1.2	10.2	1.8	△ 1.0	△ 1.5	6.4	1.9	0.4	6.0	0.1	0.7	1.8	4.1	3.4	5.2	5.2	

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
32 滋養強壮薬	令和3年9月	100.0	97.6	93.1	92.5	75.9	79.2	79.9	75.0	84.5	80.4	81.0	84.5	90.4	91.8	89.7
	令和4年9月	100.0	93.2	84.8	89.8	75.6	83.1	78.5	81.7	83.8	85.0	84.8	95.1	84.3	89.2	87.9
	差	0.0	△ 4.4	△ 8.3	△ 2.7	△ 0.3	3.9	△ 1.4	6.7	△ 0.7	4.6	3.8	10.6	△ 6.1	△ 2.6	△ 1.8
33 血液・体液用薬	令和3年9月	84.4	82.6	81.9	78.0	83.0	87.5	89.5	85.3	85.5	82.8	88.9	86.9	84.4	83.3	81.5
	令和4年9月	87.1	84.7	79.8	81.8	83.6	89.8	88.3	88.8	87.1	88.2	88.9	88.8	84.6	84.4	82.1
	差	2.7	2.1	△ 2.1	3.8	0.6	2.3	△ 1.2	3.5	1.6	5.4	0.0	1.9	0.2	1.1	0.6
34 人工透析用薬	令和3年9月	0.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	32.8	100.0	0.0	27.3	24.1	84.5
	令和4年9月	0.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	0.0	88.8	0.0	19.4	46.4	100.0
	差	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 32.8	△ 11.2	0.0	△ 7.9	22.3	15.5
39 その他の代謝性医薬品	令和3年9月	72.6	54.1	88.4	68.5	79.9	73.9	78.9	86.4	83.3	84.3	84.9	83.1	84.4	80.5	80.9
	令和4年9月	67.5	54.8	61.9	66.3	73.4	87.3	75.0	80.5	82.9	79.6	82.8	82.8	83.5	83.6	80.9
	差	△ 5.1	0.7	△ 26.5	△ 2.2	△ 6.5	13.4	△ 3.9	△ 5.9	△ 0.4	△ 4.7	△ 2.1	△ 0.3	△ 0.9	3.1	0.0
41 細胞賦活用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	令和3年9月	—	—	—	—	100.0	7.1	97.5	81.4	76.9	84.4	75.2	92.0	83.7	82.4	86.7
	令和4年9月	—	—	0.0	—	—	42.9	75.8	63.9	71.3	87.2	88.5	89.2	81.4	85.8	85.3
	差	—	—	—	—	—	35.8	△ 21.7	△ 17.5	△ 5.6	2.8	13.3	△ 2.8	△ 2.3	3.4	△ 1.4
43 放射性医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.8
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 32.8
44 アレルギー用薬	令和3年9月	66.1	58.2	63.1	70.5	80.1	80.4	80.8	83.2	81.5	77.6	79.4	76.9	75.8	78.6	76.8
	令和4年9月	68.7	65.2	69.4	72.9	79.5	79.1	82.7	79.4	78.9	81.8	80.5	77.7	78.4	78.3	75.2
	差	2.6	7.0	6.3	2.4	△ 0.6	△ 1.3	1.9	△ 3.8	△ 2.6	4.2	1.1	0.8	2.6	△ 0.3	△ 1.6
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び 漢方処方に基づく医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和3年9月	54.3	61.4	59.7	71.6	70.1	71.6	72.8	74.0	70.2	69.4	67.6	71.1	76.9	80.3	79.8
	令和4年9月	51.3	58.3	65.6	69.2	69.7	70.6	73.7	69.4	72.0	67.3	72.0	66.2	76.2	79.9	79.0
	差	△ 3.0	△ 3.1	5.9	△ 2.4	△ 0.4	△ 1.0	0.9	△ 4.6	△ 2.1	1.8	4.4	△ 4.9	△ 0.7	△ 0.4	△ 0.8
62 化学療法剤	令和3年9月	62.1	49.0	63.8	77.8	80.0	75.5	56.8	78.2	74.0	78.8	59.2	65.0	74.4	73.4	70.3
	令和4年9月	55.2	43.7	75.9	80.8	83.4	77.6	53.8	80.8	66.5	76.6	68.1	69.7	77.0	73.6	68.1
	差	△ 6.9	△ 5.3	12.1	3.0	3.4	2.1	△ 3.0	2.6	△ 7.5	△ 2.2	8.9	4.7	2.6	0.2	△ 2.2

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)	
63 生物学的製剤	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する 医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	令和3年9月	95.8	94.4	94.9	86.1	92.5	72.3	69.8	81.1	63.9	88.5	70.6	84.3	66.5	63.1	82.9	
	令和4年9月	97.1	100.0	89.1	85.2	89.5	89.5	81.8	78.3	70.5	64.4	65.9	62.6	72.4	69.3	72.1	
	差	1.3	5.6	△ 5.8	△ 0.9	△ 3.0	17.2	12.0	△ 2.8	6.6	△ 24.1	△ 4.7	△ 21.7	5.9	6.2	△ 10.8	
73 公衆衛生用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	令和3年9月	100.0	—	—	—	—	50.0	20.0	35.0	9.5	24.2	48.1	26.0	35.7	34.2	32.3	
	令和4年9月	—	0.0	66.7	0.0	60.0	60.0	0.0	14.3	29.2	28.2	30.2	27.5	28.6	36.7	29.9	
	差	—	—	—	—	10.0	△ 20.0	△ 20.7	19.7	4.0	△ 17.9	1.5	△ 7.1	△ 7.1	2.5	△ 2.4	
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	100.0	100.0	7.3	40.2	81.7	32.7	31.9	59.1	
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	42.1	8.5	31.8	62.2	75.9	68.6	
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	34.8	△ 31.7	△ 49.9	29.5	44.0	9.5	
82 非アルカロイド系麻薬	令和3年9月	63.0	94.3	95.2	88.3	87.0	53.7	78.3	53.1	35.0	42.5	60.5	48.3	78.1	53.7	33.5	
	令和4年9月	71.4	53.6	83.3	98.2	79.1	79.6	36.6	41.2	44.6	37.3	54.3	43.5	29.5	47.4	37.2	
	差	8.4	△ 40.7	△ 11.9	9.9	△ 7.9	25.9	△ 41.7	△ 11.9	△ 5.2	△ 4.8	△ 6.2	△ 4.8	△ 48.6	△ 6.3	3.7	

4. 統計分析 (3) 使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2)

《薬効分類別の状況(使用割合が低い5歳～19歳の状況)》

- 5歳から19歳の年齢階級において使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、ビタミン剤、診断用薬【体外診断医薬品を除く】という状況である。
- 5歳から19歳の年齢階級において使用割合が低い薬剤は、その他の治療を主目的としない医薬品、腫瘍用薬、末梢神経系用薬という状況である。

《年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況》

- 5歳から9歳はビタミン剤 100%、歯科口腔用薬 100%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)100%である。
- 10歳から14歳は歯科口腔用薬 100%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)89.1%、消化器官用薬 85.4%である。
- 15歳から19歳は非アルカロイド系麻薬 98.2%、歯科口腔用薬 98.0%、ビタミン剤 93.7%である。
- 歯科口腔用薬は、全ての年齢階級において使用割合が高い状況である。

《年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況》

- 5歳から9歳は化学療法剤 43.7%、ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)44.6%、感覚器官用薬 48.8%である。
- 10歳から14歳は腫瘍用薬 0%、ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)42.1%、循環器官用薬 47.6%である。
- 15歳から19歳はその他の治療を主目的としない医薬品 0%、末梢神経系用薬 50.2%、外皮用薬 54.4%である。

【5歳から9歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
ビタミン剤 (425÷425)	100%	化学療法剤 (237÷542)	43.7%
歯科口腔用薬 (156÷156)	100%	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む) (277÷622)	44.6%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (24÷24)	100%	感覚器官用薬 (2,948÷6,046)	48.8%

【10歳から14歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (114÷114)	100%	腫瘍用薬 (0÷4)	0%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (41÷46)	89.1%	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む) (491÷1,167)	42.1%
消化器官用薬 (14,877÷17,425)	85.4%	循環器官用薬 (2,394÷5,030)	47.6%

【15 歳から 19 歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
非アルカロイド系麻薬 (55÷56)	98.2%	その他の治療を主目的としない医薬品 (0÷2)	0%
歯科口腔用薬 (48÷49)	98.0%	末梢神経系用薬 (1,881÷3,747)	50.2%
ビタミン剤 (8,386÷8,947)	93.7%	外皮用薬 (27,512÷50,594)	54.4%

※診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	X 線造影剤、機能検査用試薬、 その他の診断用薬(体外診断用医薬品を除く)
※消化器官用薬	整腸剤、消化性潰瘍用剤、健胃消化剤、下剤等
※非アルカロイド系麻薬	合成麻薬等
※化学療法剤	サルファ剤、抗結核剤、合成抗菌剤、抗ウイルス剤等
※ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】	脳下垂体ホルモン剤、甲状腺、副甲状腺ホルモン剤等
※感覚器官用薬	眼科用剤、耳鼻科用剤等
※腫瘍用薬	代謝拮抗剤、抗腫瘍性抗生物質製剤等
※循環器官用薬	強心剤、不整脈用剤、利尿剤、血圧降下剤等
※その他の治療を 主目的としない医薬品	絆創膏、他に分類されない治療を主目的としない医薬品
※末梢神経系用薬	局所麻酔剤、骨格筋弛緩剤、自律神経剤、発汗剤等
※外皮用薬	化膿性疾患用剤、鎮痛、鎮痒、消炎剤、毛髪用剤等

《昨年度との比較》

○昨年度と比較し、最も高い伸びとなっている 5 歳から 9 歳までの薬効分類別の使用割合において、特に循環器官用薬や中枢神経系用薬の伸びが高くなっている。

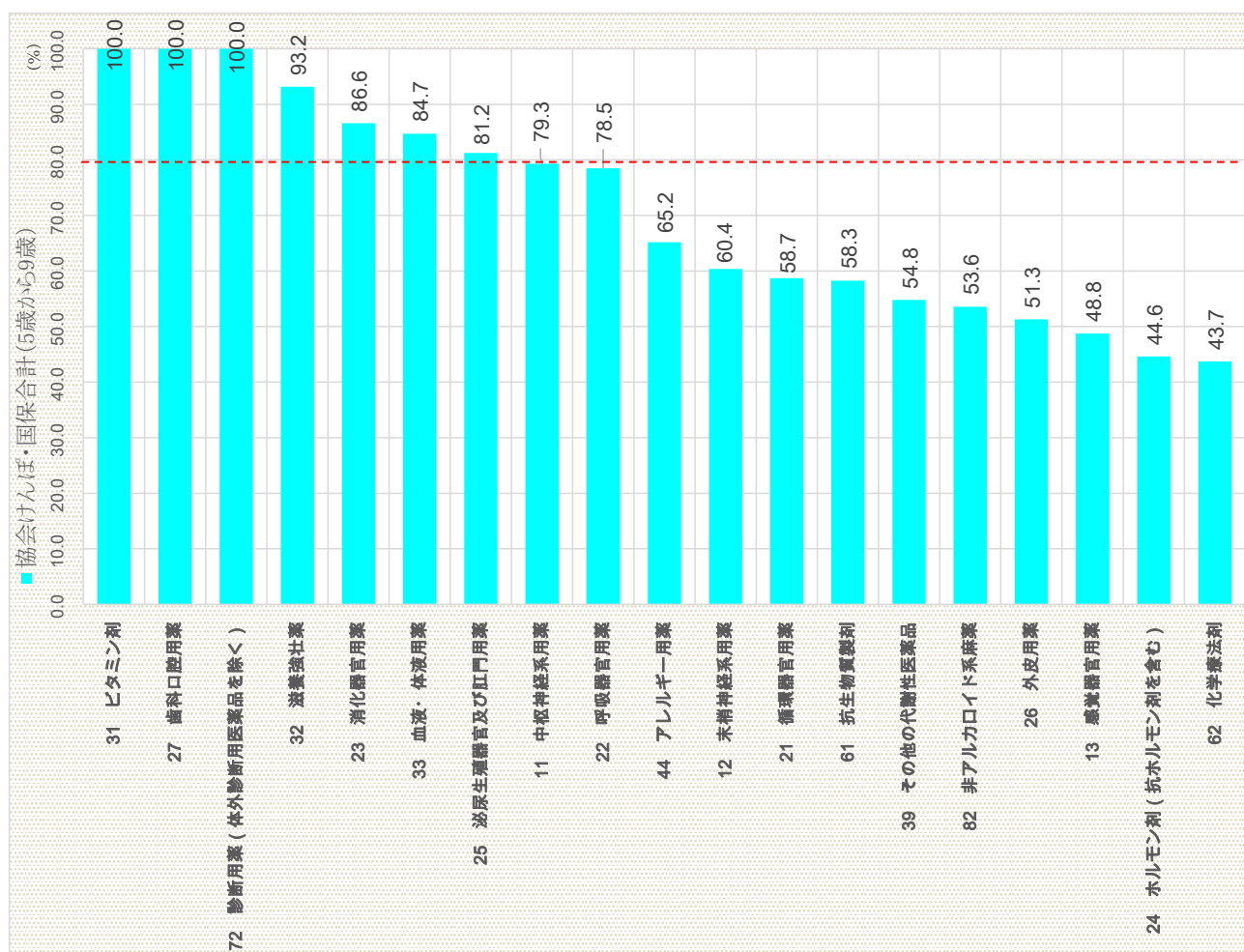
【5 歳から 9 歳までの薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.3-2 より

薬効分類別	令和 3 年 9 月診療分	令和 4 年 9 月診療分	差(%pt)
21 循環器官用薬	30.6%	58.7%	28.1
11 中枢神経系用薬	59.6%	79.3%	19.7
24 ホルモン剤	27.2%	44.6%	17.4

※5 歳から 9 歳までの伸び 5.1%pt (P8 より)

使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合

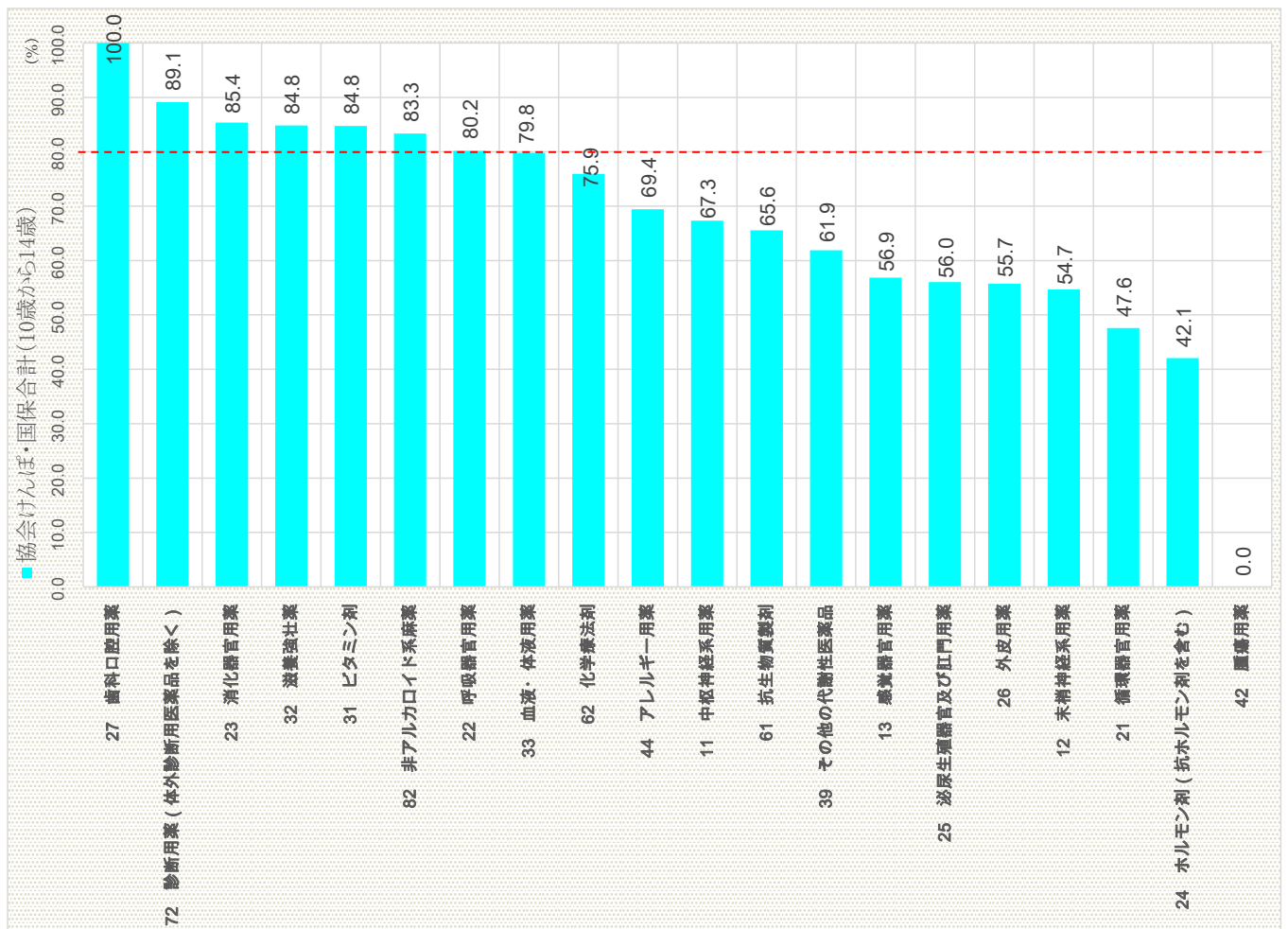
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (5歳から9歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
31 ビタミン剤	100.0	425
27 歯科口腔用薬	100.0	156
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	24
32 滋養強壮薬	93.2	409
23 消化器官用薬	86.6	8,842
33 血液・体液用薬	84.7	89,232
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.2	885
11 中枢神経系用薬	79.3	23,808
22 呼吸器官用薬	78.5	90,962
44 アレルギー用薬	65.2	149,414
12 末梢神経系用薬	60.4	270
21 循環器官用薬	58.7	971
61 抗生物質製剤	58.3	11,819
39 その他の代謝性医薬品	54.8	2,250
82 非アルカロイド系麻薬	53.6	28
26 外皮用薬	51.3	29,001
13 感覚器官用薬	48.8	6,046
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	44.6	622
62 化学療法剤	43.7	542

使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合

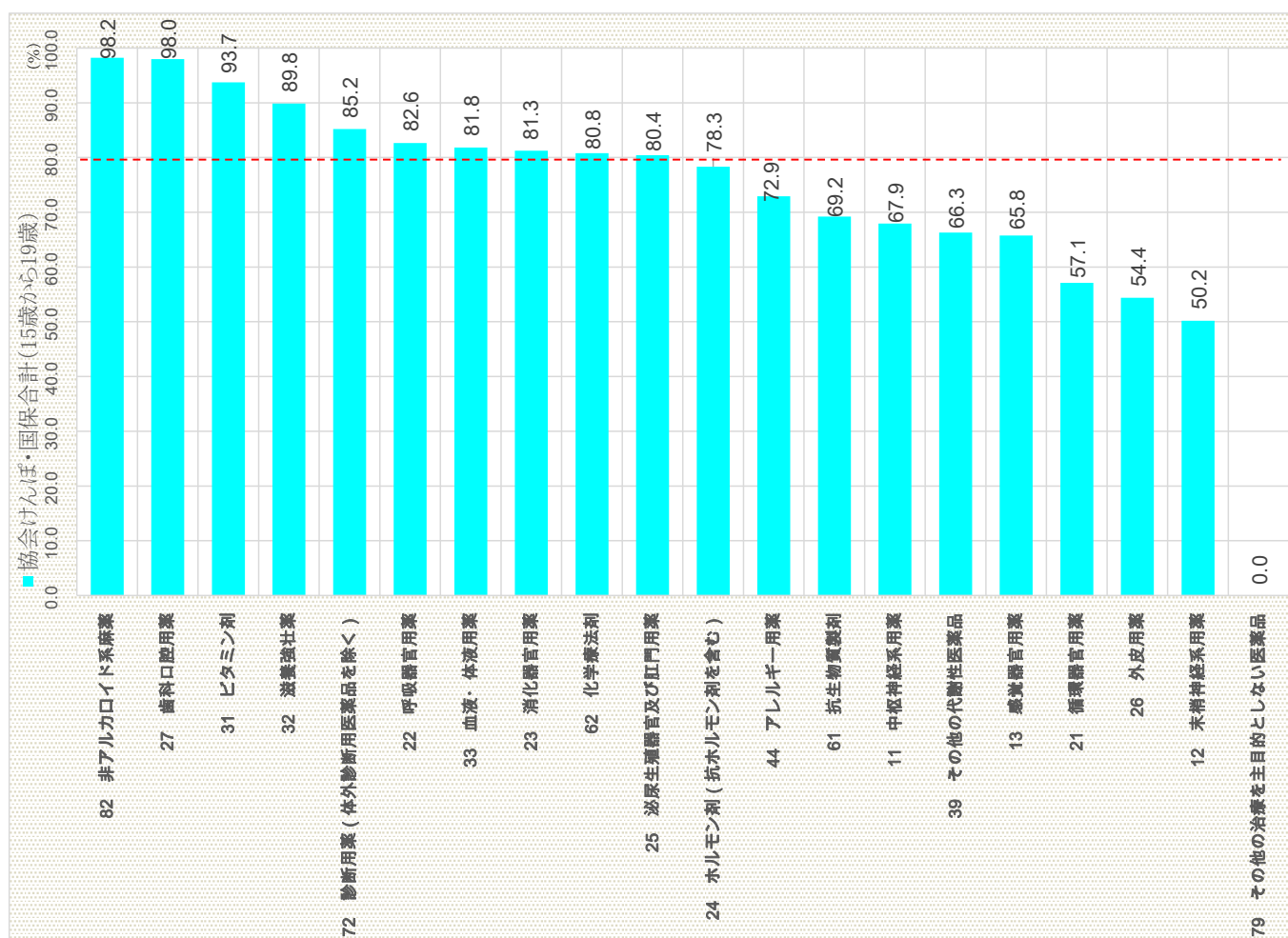
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数 / 切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	114 / 114
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	89.1	46 / 41
23 消化器官用薬	85.4	17,425 / 14,877
32 滋養強壮薬	84.8	1,370 / 1,162
31 ビタミン剤	84.8	5,389 / 4,568
82 非アルカロイド系麻薬	83.3	42 / 35
22 呼吸器官用薬	80.2	33,232 / 26,643
33 血液・体液用薬	79.8	55,671 / 44,427
62 化学療法剤	75.9	542 / 411
44 アレルギー用薬	69.4	96,344 / 66,879
11 中枢神経系用薬	67.3	44,772 / 30,136
61 抗生物質製剤	65.6	9,866 / 6,467
39 その他の代謝性医薬品	61.9	6,188 / 3,829
13 感覚器官用薬	56.9	5,727 / 3,257
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	56.0	730 / 409
26 外皮用薬	55.7	46,293 / 25,807
12 末梢神経系用薬	54.7	1,061 / 580
21 循環器官用薬	47.6	5,030 / 2,394
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	42.1	1,167 / 491
42 腫瘍用薬	0.0	4 / 0

使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合

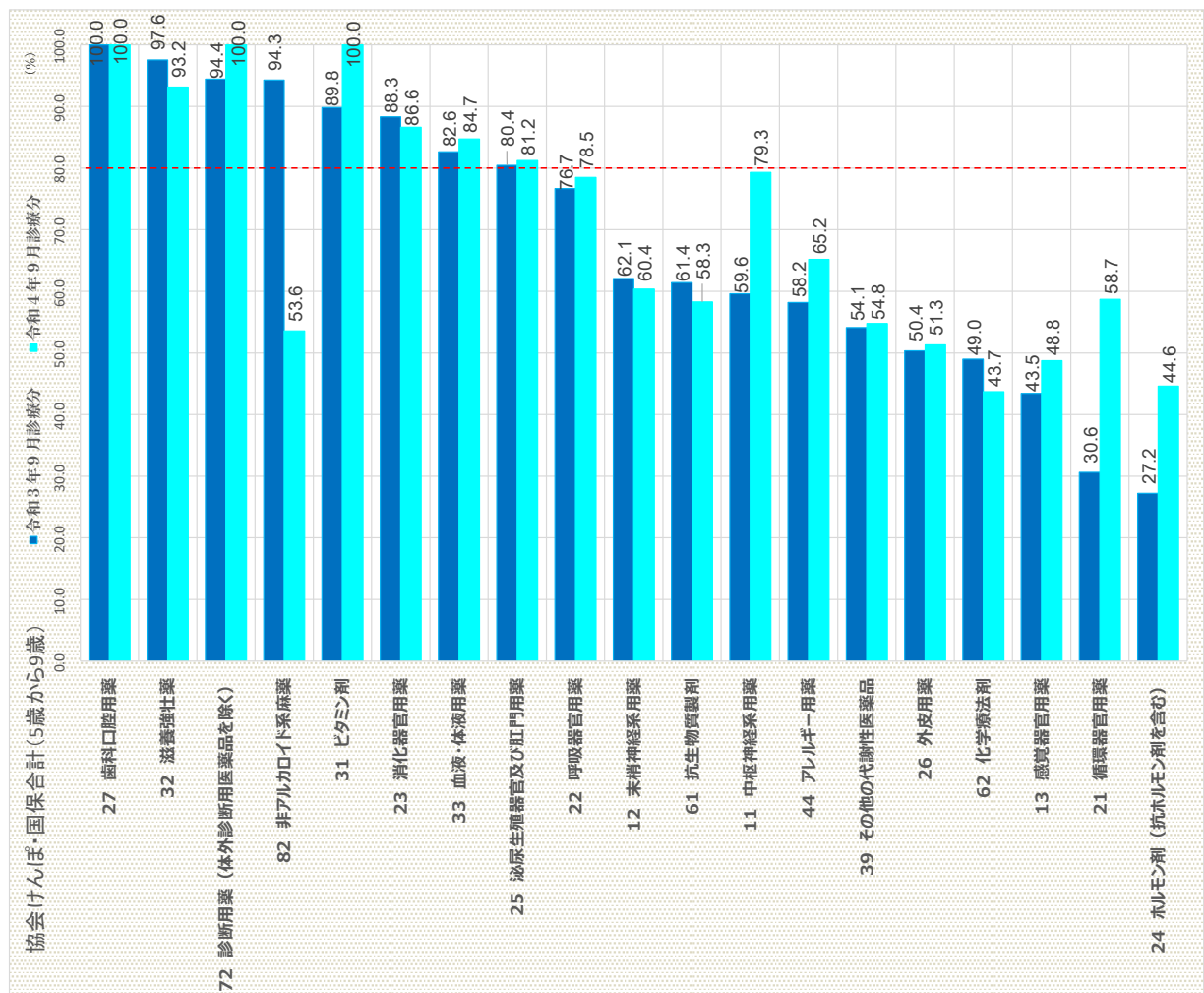
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(15歳から19歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
82 非アロカロイド系麻薬	98.2	56
27 歯科口腔用薬	98.0	49
31 ビタミン剤	93.7	8,947
32 滋養強壮薬	89.8	2,896
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	85.2	41
22 呼吸器官用薬	82.6	17,971
33 血液・体液用薬	81.8	46,039
23 消化器官用薬	81.3	27,059
62 化学療法剤	80.8	1,259
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.4	689
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	78.3	5,487
44 アレルギー用薬	72.9	48,399
61 抗生物質製剤	69.2	14,210
11 中枢神経系用薬	67.9	69,123
39 その他の代謝性医薬品	66.3	8,182
13 感覚器官用薬	65.8	4,048
21 循環器官用薬	57.1	8,460
26 外用薬	54.4	50,594
12 末梢神経系用薬	50.2	3,747
79 その他の治療を主目的としない医薬品	0.0	2

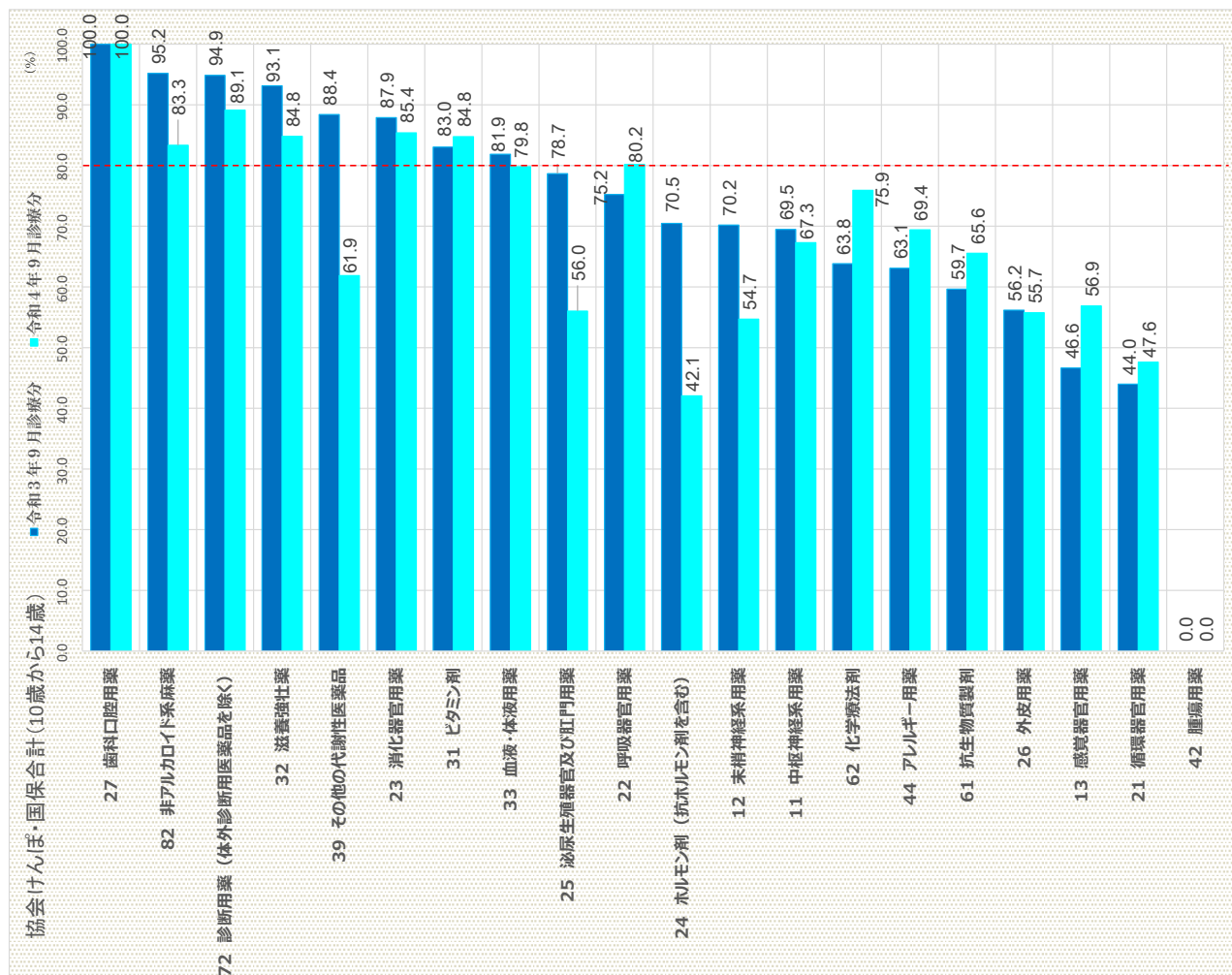
使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(5歳から9歳)			
	令和3年9月診療分		令和4年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	145	100.0	156
32 滋養強壮薬	97.6	1,145	93.2	409
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	94.4	36	100.0	24
82 非アルカロイド系麻薬	94.3	35	53.6	28
31 ビタミン剤	89.8	423	100.0	425
23 消化器官用薬	88.3	7,366	86.6	8,842
33 血液・体液用薬	82.6	74,802	84.7	75,594
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.4	1,074	81.2	885
22 呼吸器官用薬	76.7	65,958	78.5	90,962
12 末梢神経系用薬	62.1	204	60.4	270
61 抗生物質製剤	61.4	10,333	58.3	11,819
11 中枢神経系用薬	59.6	16,072	79.3	23,808
44 アレルギ-用薬	58.2	133,409	65.2	149,414
39 その他の代謝性医薬品	54.1	3,846	54.8	2,250
26 外皮用薬	50.4	28,698	51.3	29,001
62 化学療法剤	49.0	472	43.7	542
13 感覚器官用薬	43.5	5,283	48.8	6,046
21 循環器官用薬	30.6	574	58.7	2,948
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	27.2	277	44.6	570



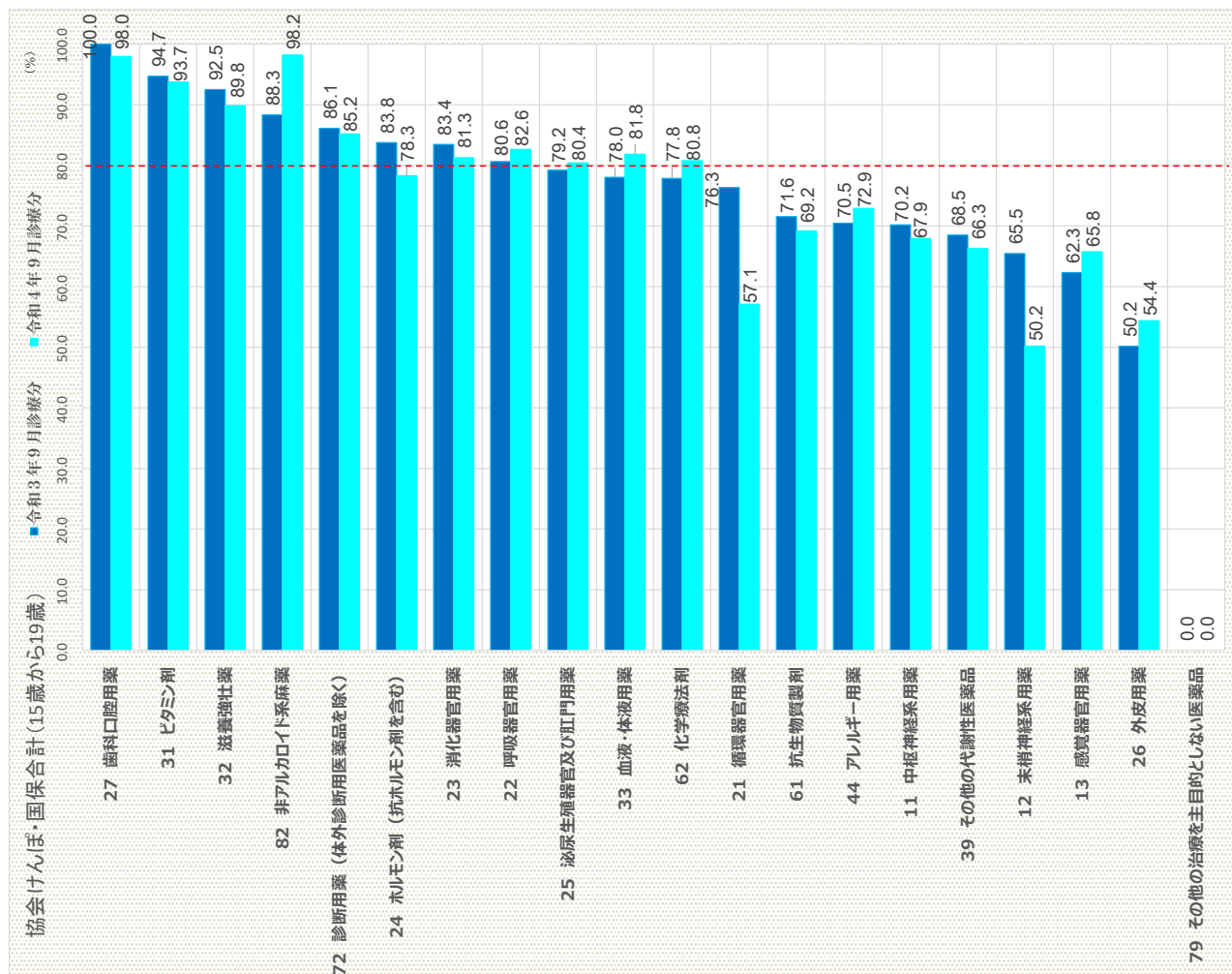
使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)			
	令和3年9月診療分		令和4年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	131	100.0	114
82 非アルカロイド系麻薬	95.2	83	83.3	42
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	94.9	39	89.1	46
32 滋養強壮薬	93.1	1,547	84.8	1,370
39 その他の代謝性医薬品	88.4	3,931	61.9	6,188
23 消化器官用薬	87.9	15,432	85.4	17,425
31 ビタミン剤	83.0	4,748	84.8	5,389
33 血液・体液用薬	81.9	51,102	79.8	55,671
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	78.7	708	56.0	730
22 呼吸器官用薬	75.2	24,195	80.2	33,232
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	70.5	878	42.1	1,167
12 末梢神経系用薬	70.2	1,577	54.7	1,061
11 中枢神経系用薬	69.5	34,870	67.3	44,772
62 化学療法剤	63.8	815	75.9	542
44 アレルギ-用薬	63.1	90,288	69.4	96,344
61 抗生物質製剤	59.7	9,289	65.6	9,866
26 外皮用薬	56.2	44,735	55.7	46,293
13 感覚器官用薬	46.6	4,429	56.9	5,727
21 循環器官用薬	44.0	4,035	47.6	5,030
42 腫瘍用薬	-	-	0.0	4



使用割合が低い年齢階級における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(15歳から19歳)			
	令和3年9月診療分		令和4年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	53	98.0	49
31 ビタミン剤	94.7	12,102	93.7	8,947
32 滋養強壮薬	92.5	1,807	89.8	2,896
82 非アルカロイド系麻薬	88.3	171	98.2	56
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	86.1	36	85.2	41
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	83.8	3,068	78.3	5,487
23 消化器官用薬	83.4	30,182	81.3	27,059
22 呼吸器官用薬	80.6	10,910	82.6	17,971
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.2	202	80.4	689
33 血液・体液用薬	78.0	42,829	81.8	46,039
62 化学療法剤	77.8	1,160	80.8	1,259
21 循環器官用薬	76.3	8,380	57.1	8,460
61 抗生物質製剤	71.6	12,695	69.2	14,210
44 アレルギ―用薬	70.5	49,477	72.9	48,399
11 中枢神経系用薬	70.2	55,222	67.9	69,123
39 その他の代謝性医薬品	68.5	8,325	66.3	8,182
12 末梢神経系用薬	65.5	3,731	50.2	3,747
13 感覚器官用薬	62.3	3,429	65.8	4,048
26 外皮用薬	50.2	48,647	54.4	50,594
79 その他の治療を主目的としない医薬品	-	-	0.0	2



4. 統計分析 (4)後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合

(資料No.4-1、4-2、4-3)

《使用割合の状況(総数)》

- 75歳以上の使用割合の総数は、78.5%であり、昨年度より1.3%pt伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

※資料No.4-2より

	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	77.2%	78.5%	1.3

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 75歳以上の使用割合が高い薬剤については、消化器官用薬 86.8%、腫瘍用薬 86.2%、滋養強壮薬 85.8%という状況である。
○75歳以上の使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品 2.2%、非アルカロイド系麻薬 25.6%、その他の治療を主目的としない医薬品 28.1%という状況である。

【75歳以上において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.4-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
消化器官用薬 (3,805,317÷4,385,256)	86.8%	放射性医薬品 (167÷7,484)	2.2%
腫瘍用薬 (70,642÷81,972)	86.2%	非アルカロイド系麻薬 (955÷3,736)	25.6%
滋養強壮薬 (181,431÷211,403)	85.8%	その他の治療を主目的としない 医薬品(102÷363)	28.1%

※滋養強壮薬 (カルシウム剤、タンパクアミノ酸製剤、臓器製剤 等)

《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、呼吸器官用薬であり、4.2%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.4-3より

薬効分類別	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
22 呼吸器官用薬	79.0%	83.2%	4.2
31 ビタミン剤	79.0%	83.1%	4.1
42 腫瘍用薬	82.8%	86.2%	3.4

《使用割合が高い年齢階級の状況及び昨年度との比較》

- 年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、82.4%である。
また昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、95歳から99歳の年齢階級で昨年度から1.7%pt伸びている。

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳から 79歳	80歳から 84歳	85歳から 89歳	90歳から 94歳	95歳から 99歳	100歳以上
令和3年9月	76.6%	76.5%	77.4%	78.4%	80.1%	83.4%
令和4年9月	77.9%	77.9%	78.8%	79.8%	81.8%	82.4%
差(%pt)	1.3	1.4	1.4	1.4	1.7	△1.0

75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

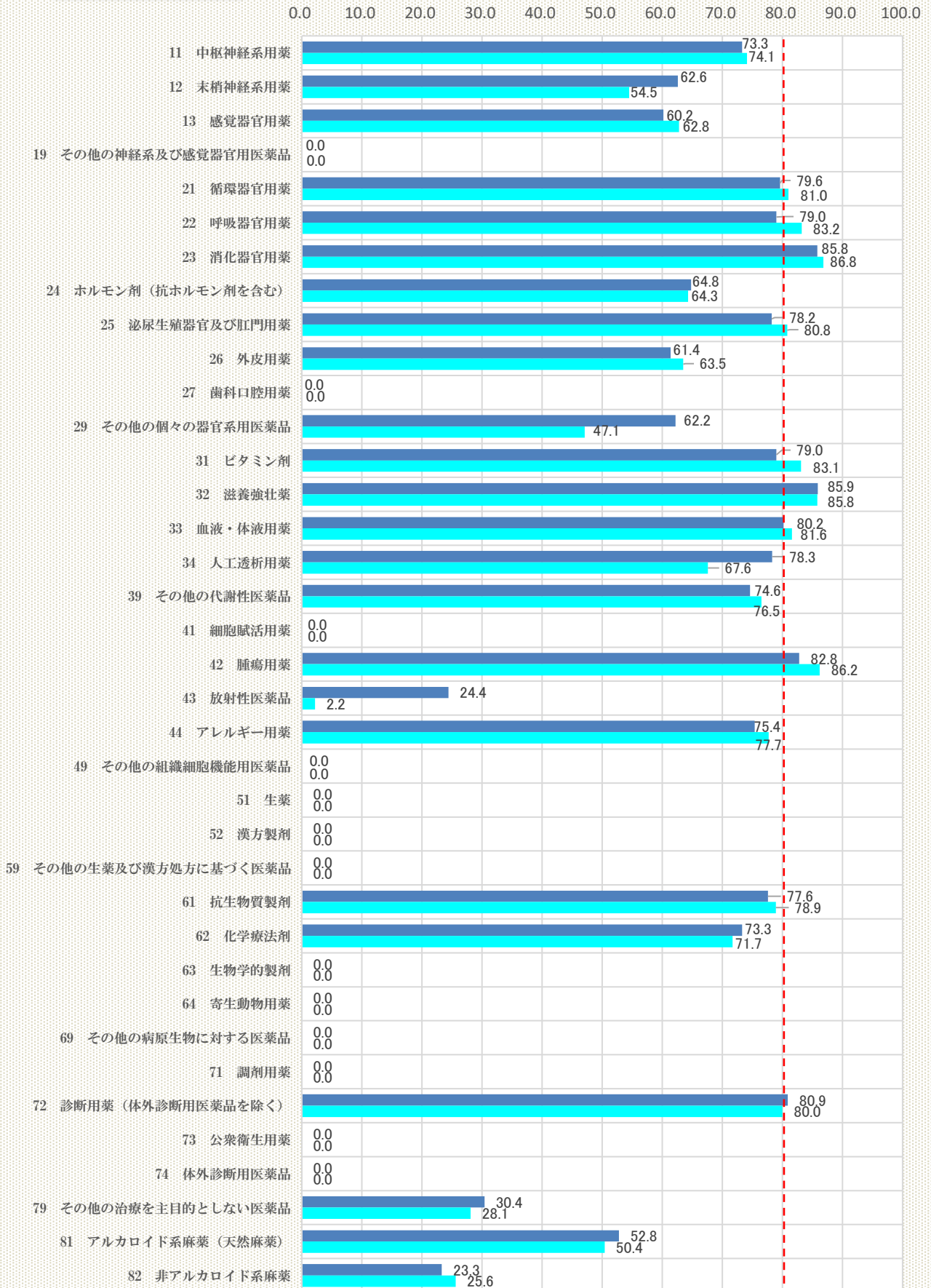
資料No.4-1

総数

■ 令和3年9月

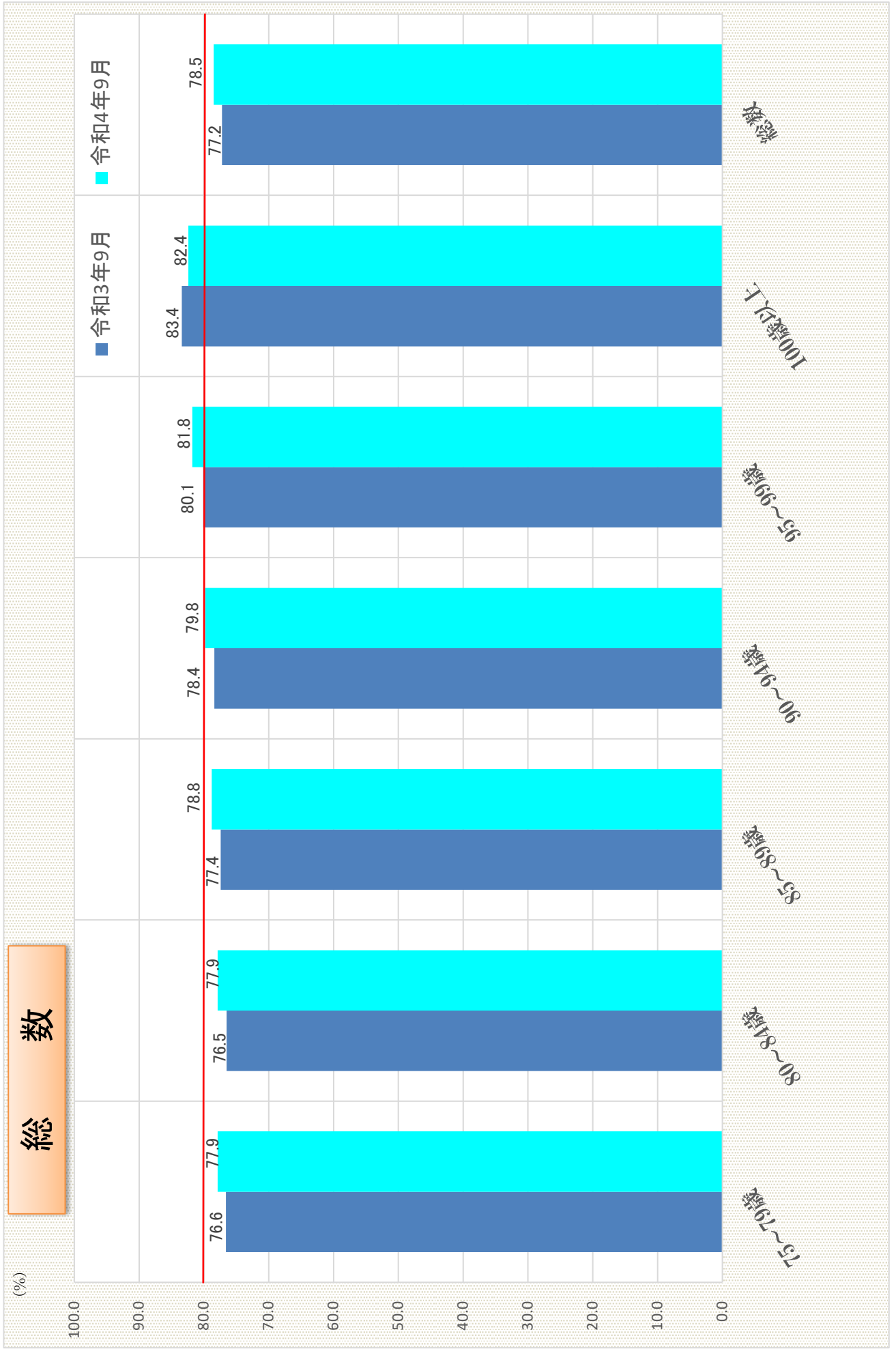
■ 令和4年9月

(%)



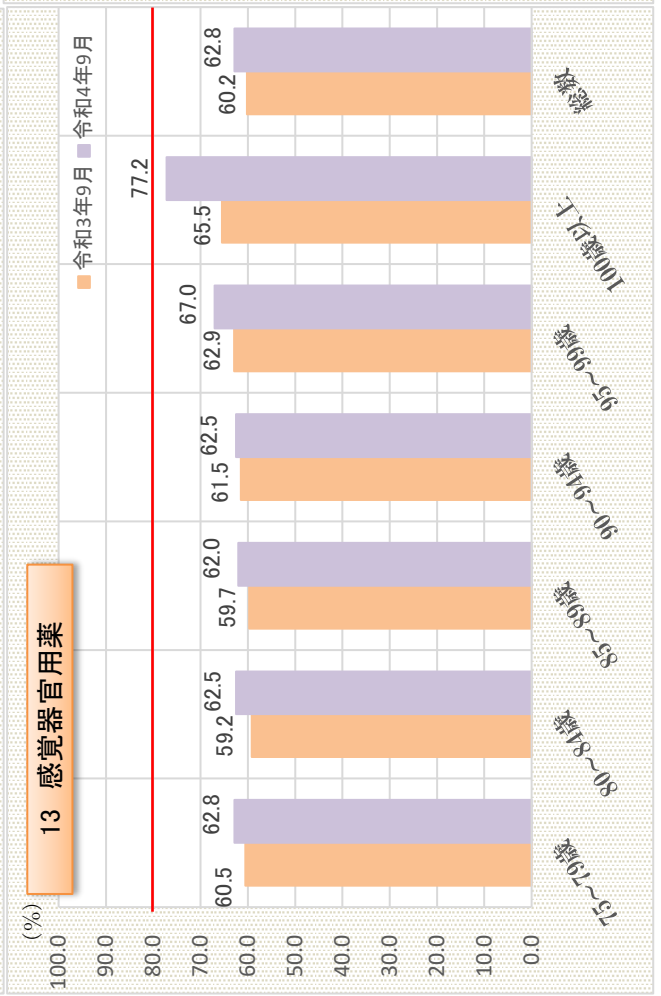
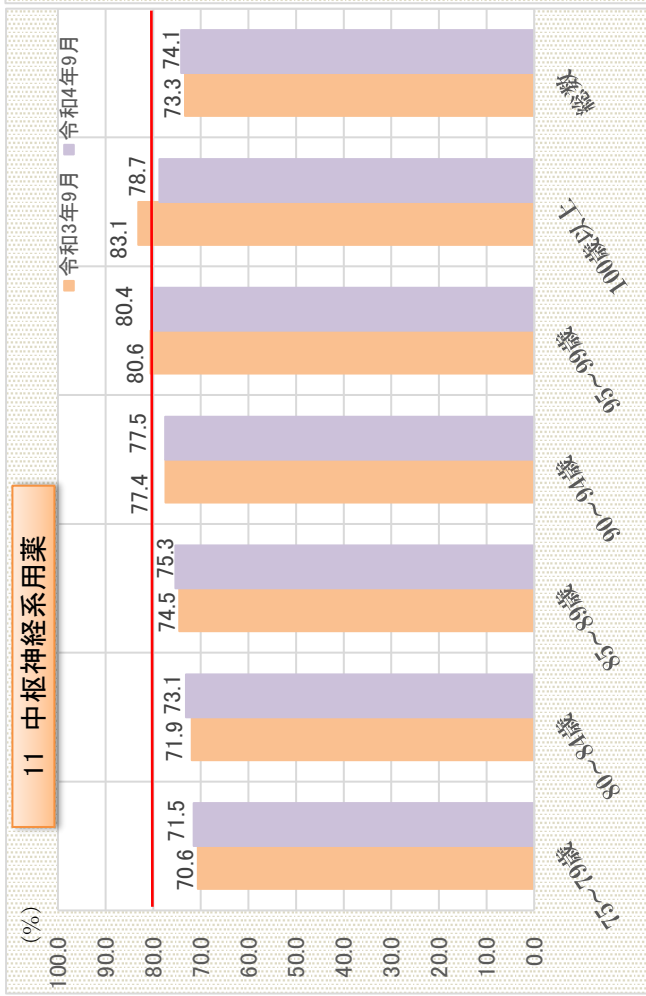
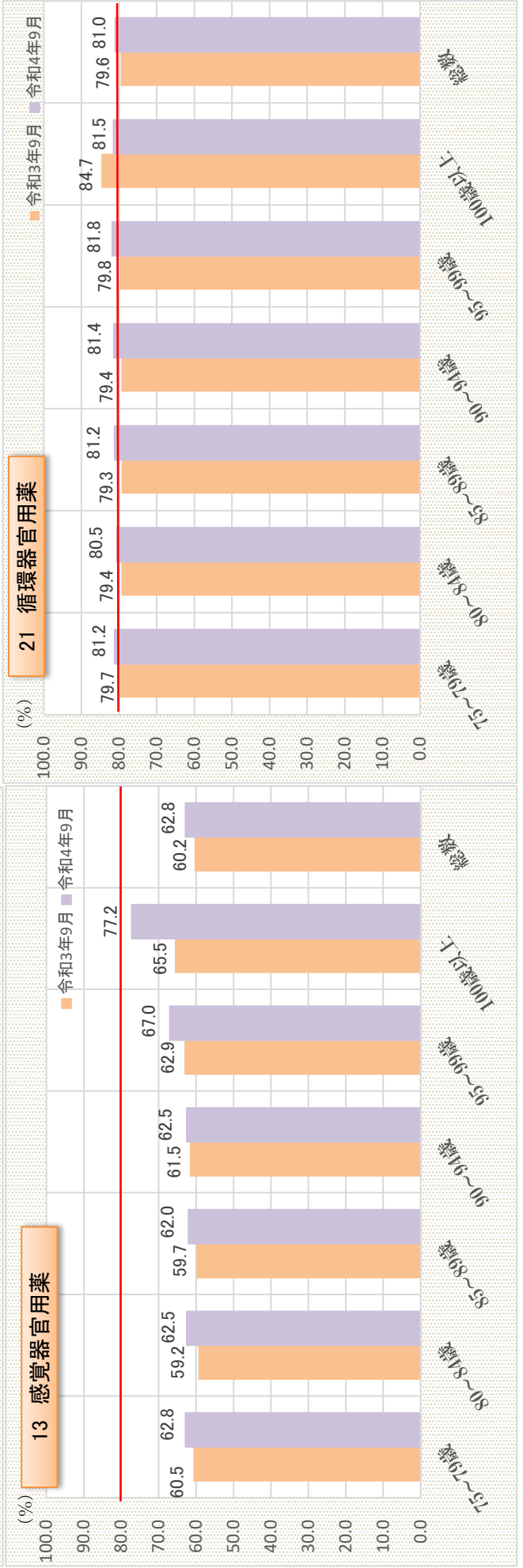
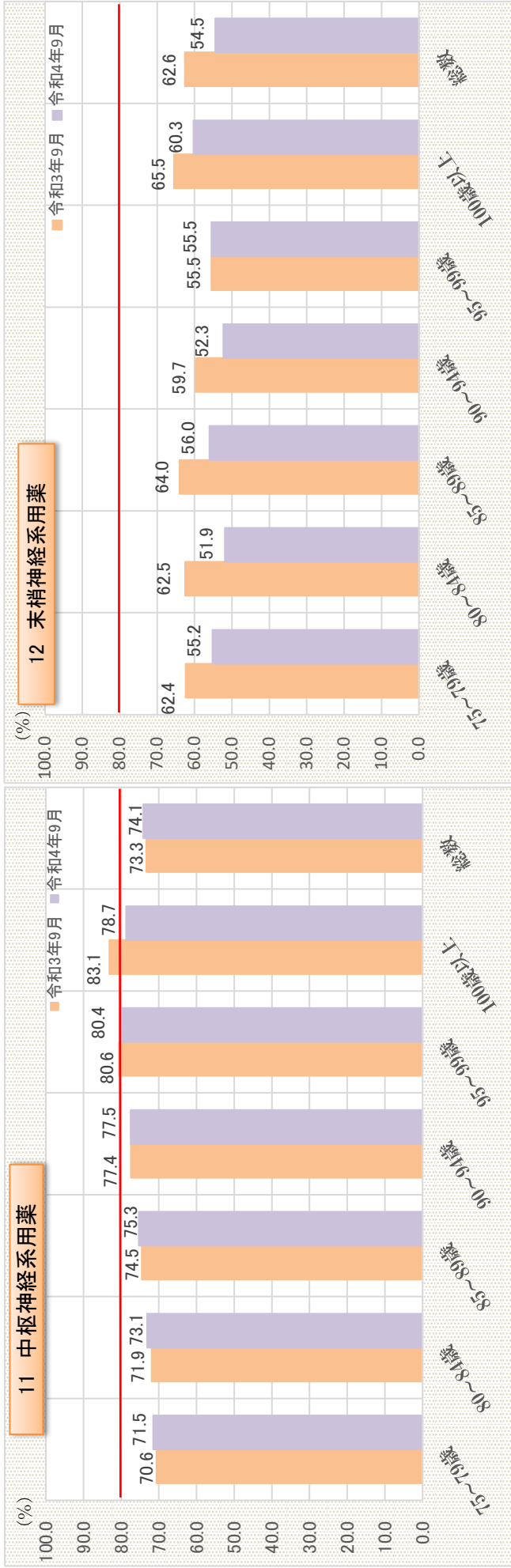
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



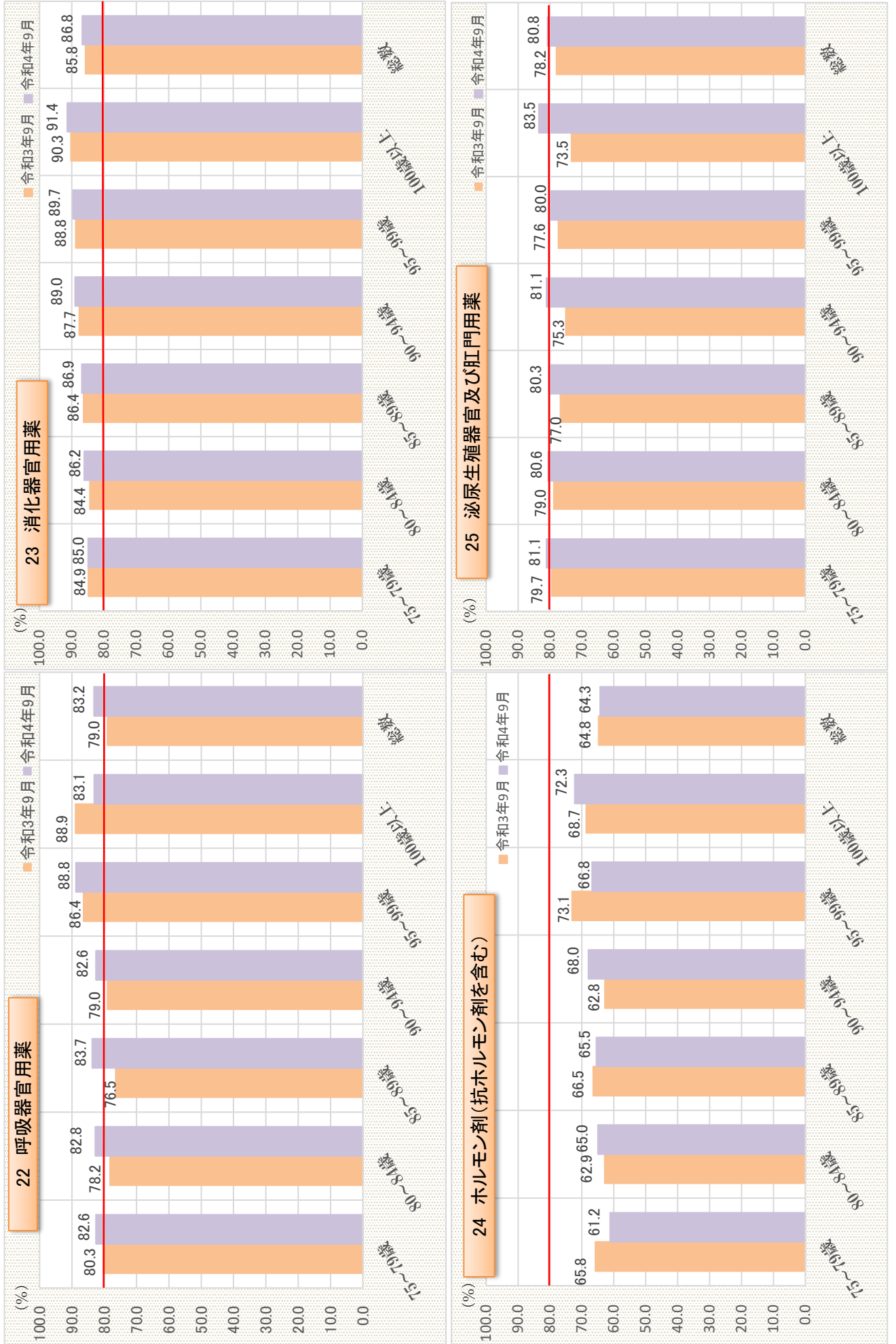
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



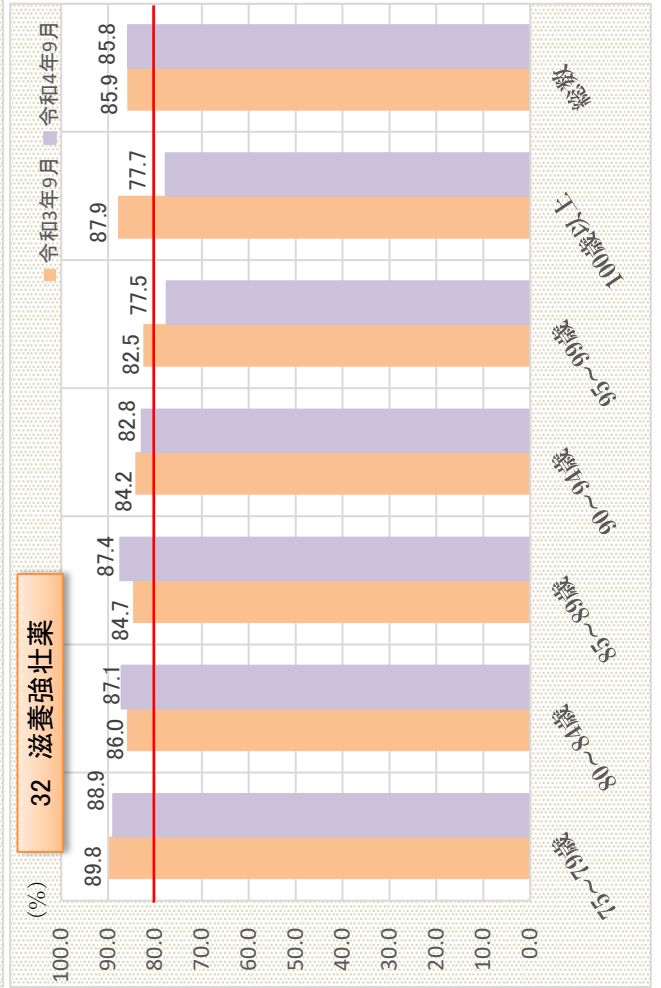
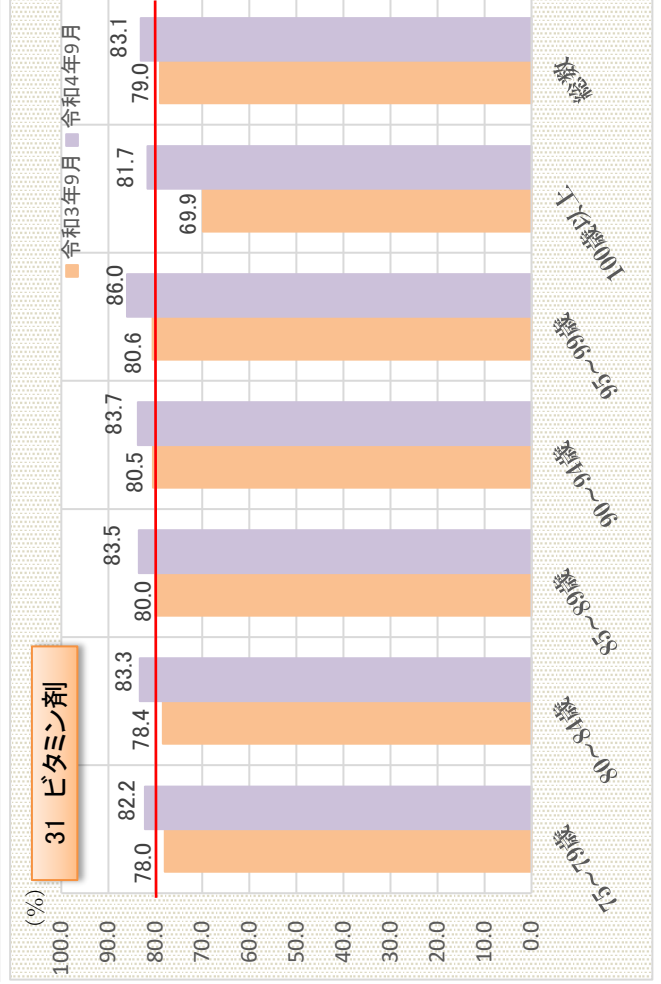
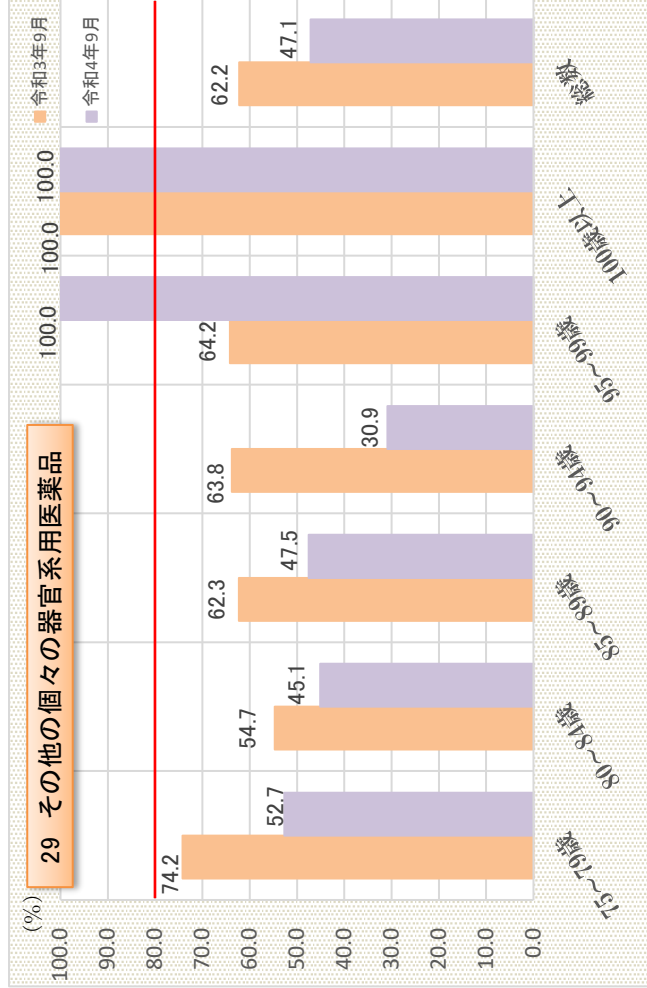
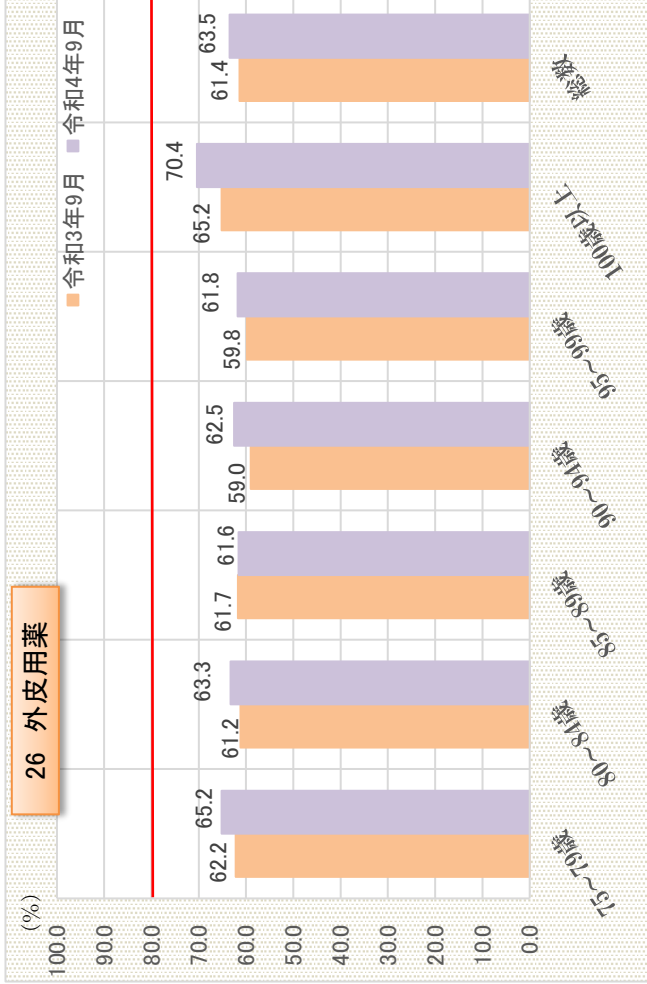
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



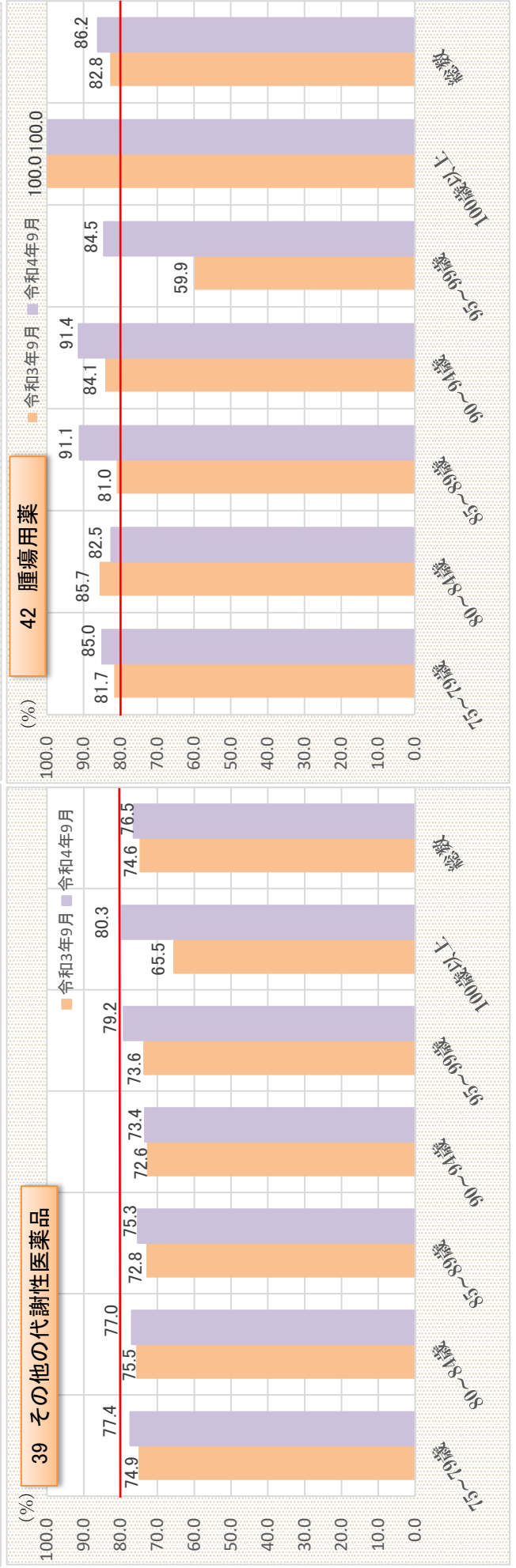
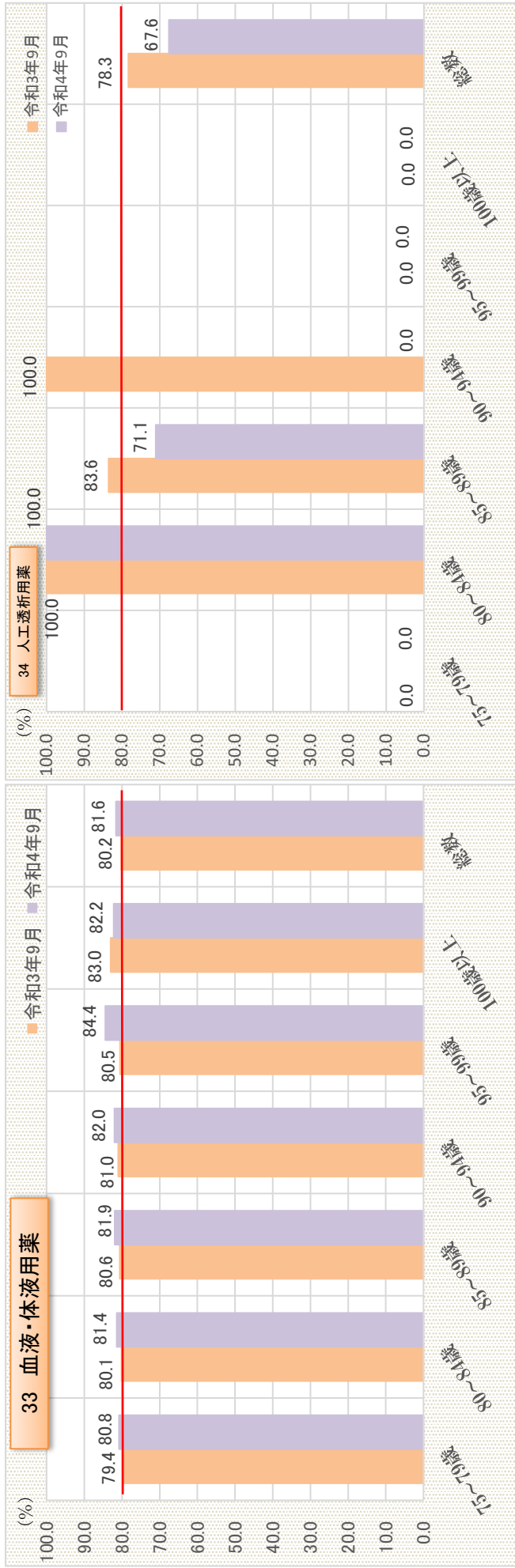
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



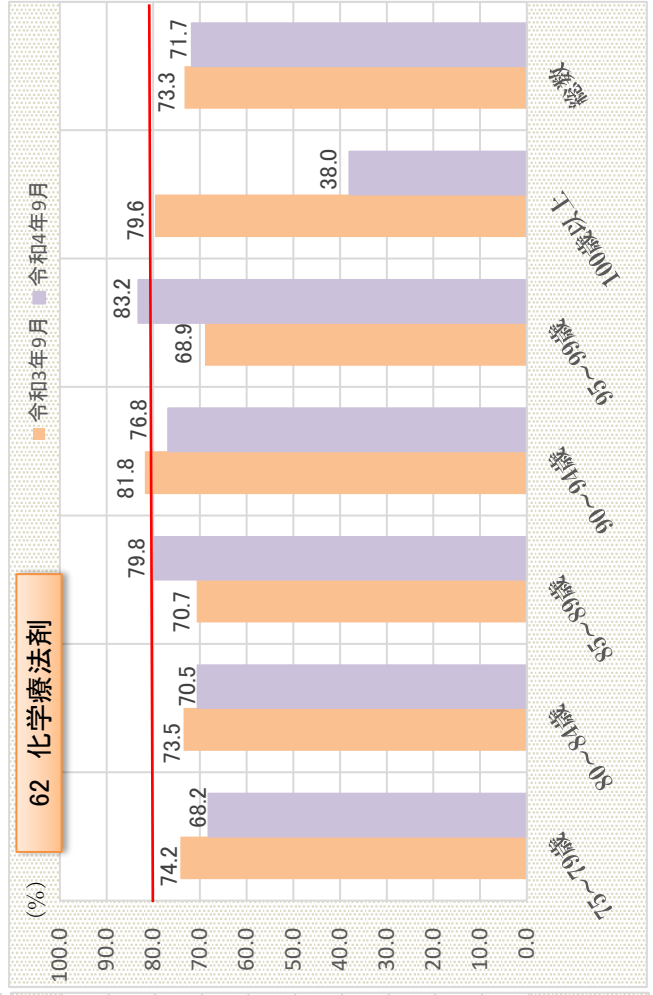
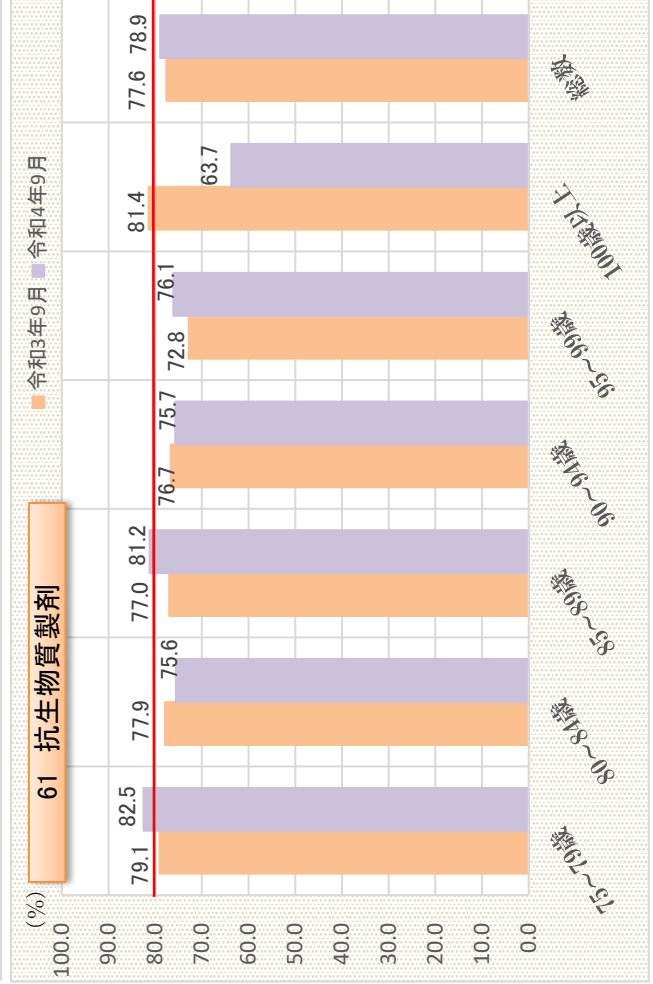
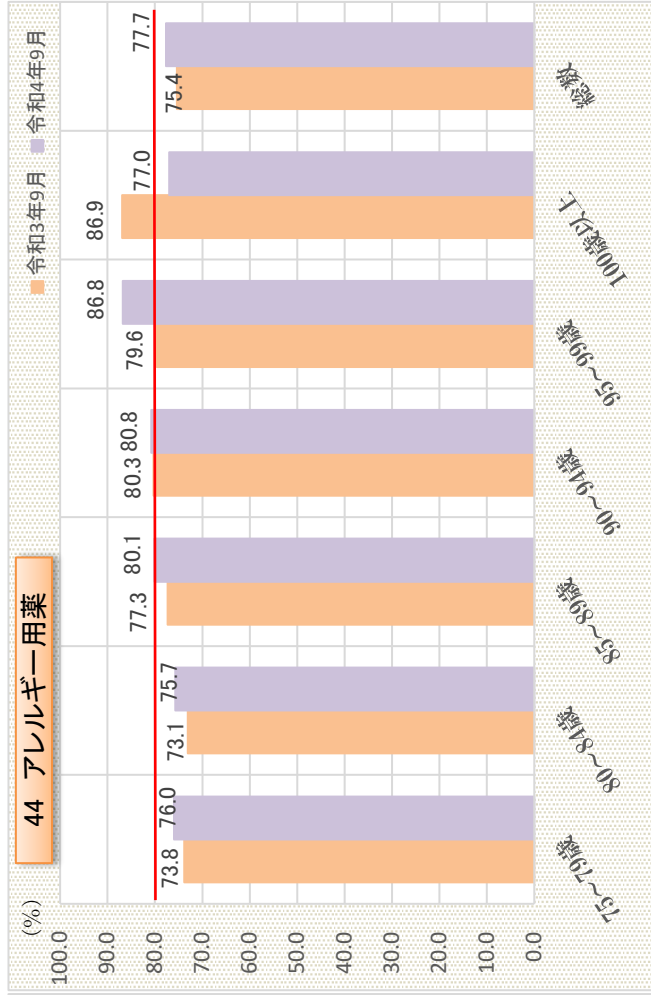
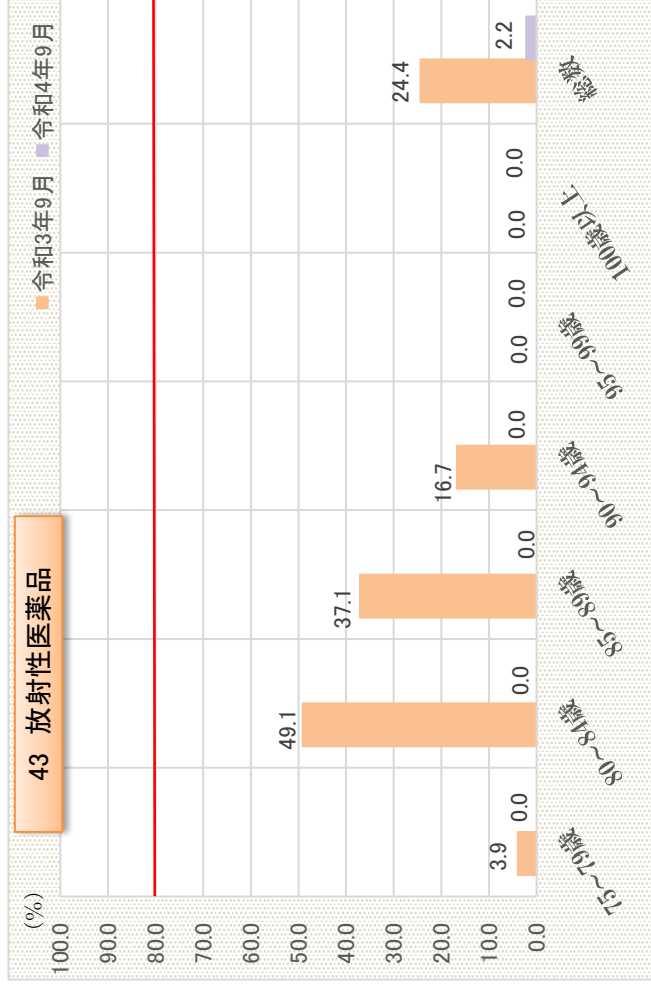
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



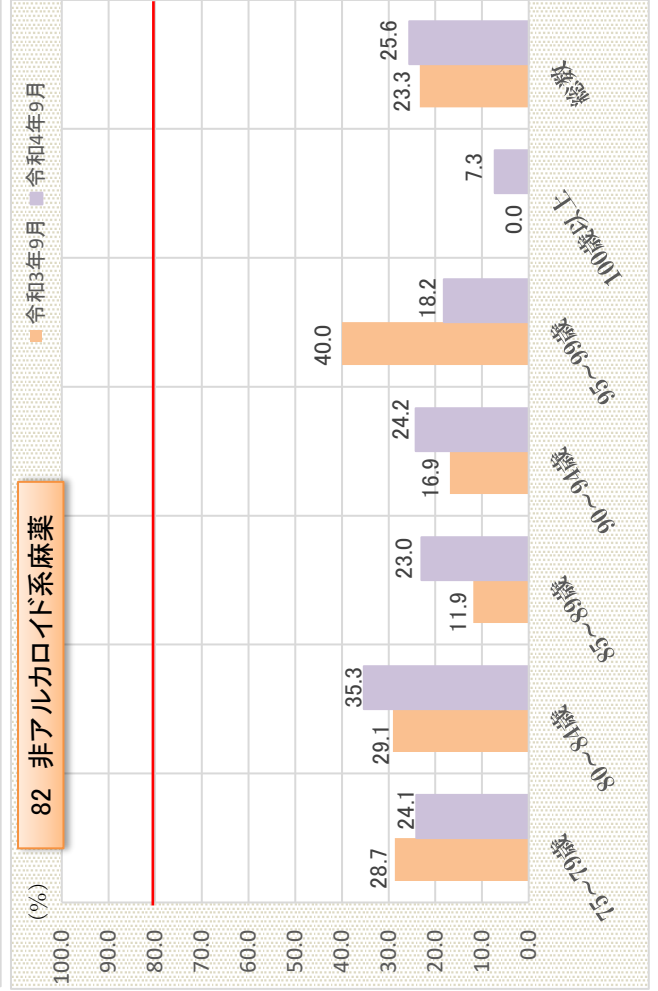
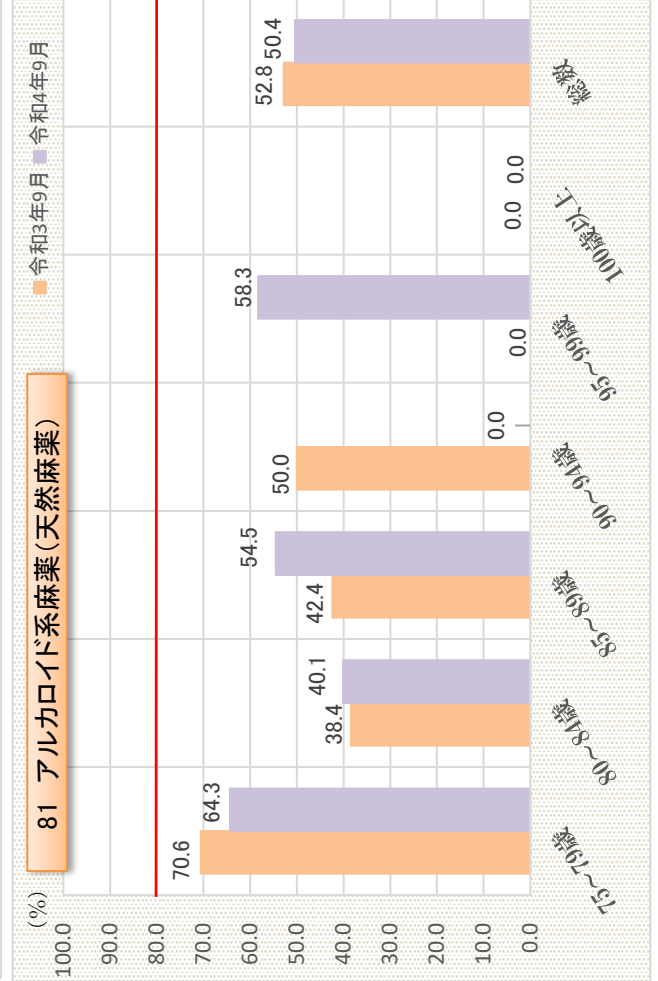
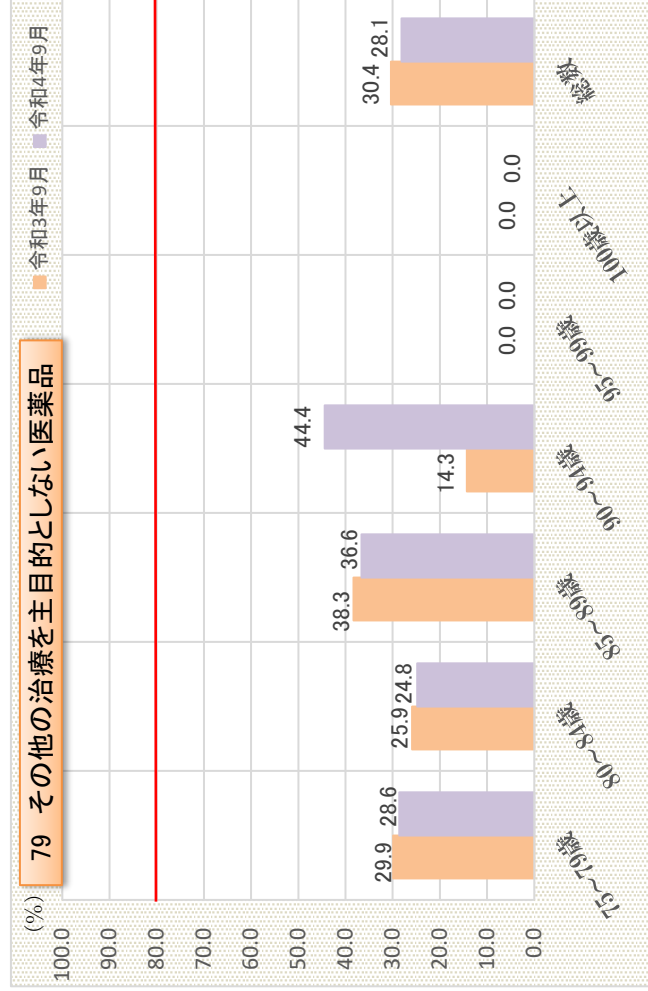
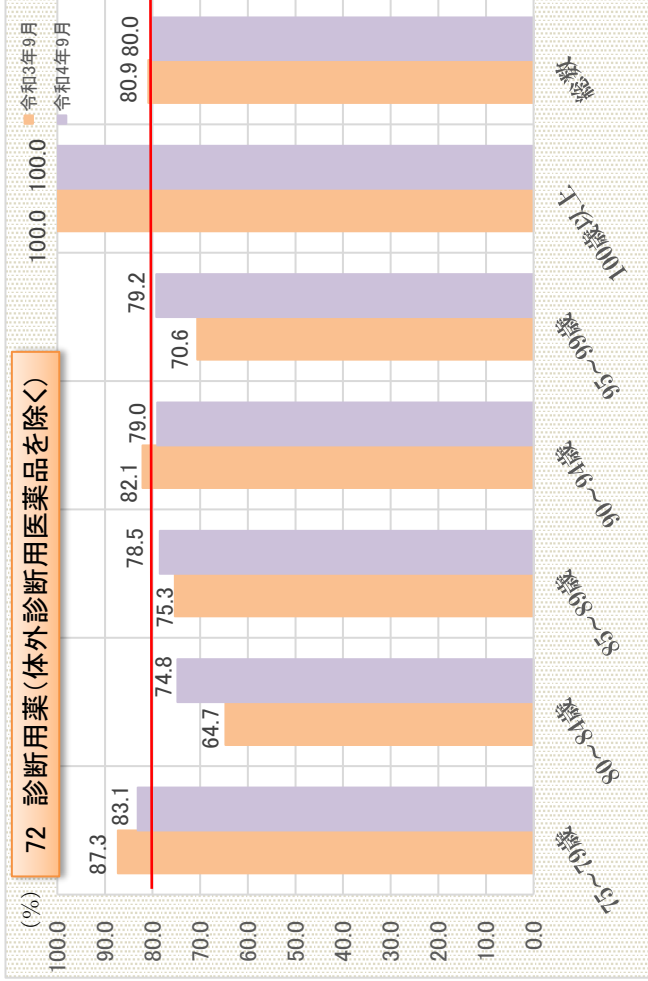
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-2

薬効分類別	令和3年9月診療分			令和4年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	77.2	24,665,404	19,039,304	78.5	25,279,630	19,853,141
11 中枢神経系用薬	73.3	3,219,837	2,358,871	74.1	3,404,663	2,522,972
12 末梢神経系用薬	62.6	208,213	130,299	54.5	210,373	114,564
13 感覚器官用薬	60.2	365,713	220,324	62.8	400,016	251,143
19 その他の神経系及び感覚器官用医薬品	—	0	0	—	0	0
21 循環器官用薬	79.6	6,596,957	5,248,899	81.0	7,013,325	5,683,648
22 呼吸器官用薬	79.0	643,113	508,213	83.2	636,788	529,888
23 消化器官用薬	85.8	4,954,434	4,252,342	86.8	4,385,256	3,805,317
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	64.8	162,557	105,405	64.3	177,373	114,052
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	78.2	648,382	507,191	80.8	695,194	561,440
26 外用用薬	61.4	2,629,792	1,613,469	63.5	2,551,045	1,619,726
27 歯科口腔用薬	—	0	0	—	0	0
29 その他の個々の器官系用医薬品	62.2	7,784	4,842	47.1	6,429	3,025
31 ビタミン剤	79.0	1,190,514	940,124	83.1	1,261,764	1,048,959
32 滋養強壯薬	85.9	197,148	169,440	85.8	211,403	181,431
33 血液・体液用薬	80.2	1,963,890	1,575,819	81.6	2,017,933	1,647,240
34 人工透析用薬	78.3	258	202	67.6	185	125
39 その他の代謝性医薬品	74.6	1,225,895	914,190	76.5	1,628,679	1,246,397
41 細胞賦活用薬	—	0	0	—	0	0
42 腫瘍用薬	82.8	78,184	64,729	86.2	81,972	70,642
43 放射性医薬品	24.4	10,054	2,449	2.2	7,484	167
44 アレルギー用薬	75.4	397,749	299,877	77.7	413,628	321,555
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	0	0	—	0	0
51 生薬	—	0	0	—	0	0
52 漢方製剤	—	0	0	—	0	0
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	0	0	—	0	0
61 抗生物質製剤	77.6	92,802	72,012	78.9	97,300	76,782
62 化学療法剤	73.3	63,258	46,387	71.7	68,928	49,449
63 生物学的製剤	—	0	0	—	0	0
64 寄生動物用薬	—	0	0	—	0	0
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	0	0	—	0	0
71 調剤用薬	—	0	0	—	0	0
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	80.9	2,256	1,826	80.0	2,169	1,735
73 公衆衛生用薬	—	0	0	—	0	0
74 体外診断用医薬品	—	0	0	—	0	0
79 その他の治療を主目的としない医薬品	30.4	352	107	28.1	363	102
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	52.8	2,806	1,482	50.4	3,624	1,828
82 非アルカロイド系麻薬	23.3	3,456	806	25.6	3,736	955

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
総 数	令和3年9月	76.6	76.5	77.4	78.4	80.1	83.4	77.2
	令和4年9月	77.9	77.9	78.8	79.8	81.8	82.4	78.5
	差	1.3	1.4	1.4	1.4	1.7	△ 1.0	1.3
11 中枢神経系用薬	令和3年9月	70.6	71.9	74.5	77.4	80.6	83.1	73.3
	令和4年9月	71.5	73.1	75.3	77.5	80.4	78.7	74.1
	差	0.9	1.2	0.8	0.1	△ 0.2	△ 4.4	0.8
12 末梢神経系用薬	令和3年9月	62.4	62.5	64.0	59.7	55.5	65.5	62.6
	令和4年9月	55.2	51.9	56.0	52.3	55.5	60.3	54.5
	差	△ 7.2	△ 10.6	△ 8.0	△ 7.4	0.0	△ 5.2	△ 8.1
13 感覚器官用薬	令和3年9月	60.5	59.2	59.7	61.5	62.9	65.5	60.2
	令和4年9月	62.8	62.5	62.0	62.5	67.0	77.2	62.8
	差	2.3	3.3	2.3	1.0	4.1	11.7	2.6
19 その他の神経系及び感覚器官 用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器官用薬	令和3年9月	79.7	79.4	79.3	79.4	79.8	84.7	79.6
	令和4年9月	81.2	80.5	81.2	81.4	81.8	81.5	81.0
	差	1.5	1.1	1.9	2.0	2.0	△ 3.2	1.4
22 呼吸器官用薬	令和3年9月	80.3	78.2	76.5	79.0	86.4	88.9	79.0
	令和4年9月	82.6	82.8	83.7	82.6	88.8	83.1	83.2
	差	2.3	4.6	7.2	3.6	2.4	△ 5.8	4.2
23 消化器官用薬	令和3年9月	84.9	84.4	86.4	87.7	88.8	90.3	85.8
	令和4年9月	85.0	86.2	86.9	89.0	89.7	91.4	86.8
	差	0.1	1.8	0.5	1.3	0.9	1.1	1.0
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	令和3年9月	65.8	62.9	66.5	62.8	73.1	68.7	64.8
	令和4年9月	61.2	65.0	65.5	68.0	66.8	72.3	64.3
	差	△ 4.6	2.1	△ 1.0	5.2	△ 6.3	3.6	△ 0.5
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	令和3年9月	79.7	79.0	77.0	75.3	77.6	73.5	78.2
	令和4年9月	81.1	80.6	80.3	81.1	80.0	83.5	80.8
	差	1.4	1.6	3.3	5.8	2.4	10.0	2.6
26 外皮用薬	令和3年9月	62.2	61.2	61.7	59.0	59.8	65.2	61.4
	令和4年9月	65.2	63.3	61.6	62.5	61.8	70.4	63.5
	差	3.0	2.1	△ 0.1	3.5	2.0	5.2	2.1
27 歯科口腔用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和3年9月	74.2	54.7	62.3	63.8	64.2	100.0	62.2
	令和4年9月	52.7	45.1	47.5	30.9	100.0	100.0	47.1
	差	△ 21.5	△ 9.6	△ 14.8	△ 32.9	35.8	0.0	△ 15.1
31 ビタミン剤	令和3年9月	78.0	78.4	80.0	80.5	80.6	69.9	79.0
	令和4年9月	82.2	83.3	83.5	83.7	86.0	81.7	83.1
	差	4.2	4.9	3.5	3.2	5.4	11.8	4.1
32 滋養強壯薬	令和3年9月	89.8	86.0	84.7	84.2	82.5	87.9	85.9
	令和4年9月	88.9	87.1	87.4	82.8	77.5	77.7	85.8
	差	△ 0.9	1.1	2.7	△ 1.4	△ 5.0	△ 10.2	△ 0.1
33 血液・体液用薬	令和3年9月	79.4	80.1	80.6	81.0	80.5	83.0	80.2
	令和4年9月	80.8	81.4	81.9	82.0	84.4	82.2	81.6
	差	1.4	1.3	1.3	1.0	3.9	△ 0.8	1.4
34 人工透析用薬	令和3年9月	0.0	100.0	83.6	100.0	—	—	78.3
	令和4年9月	0.0	100.0	71.1	—	—	—	67.6
	差	0.0	0.0	△ 12.5	—	—	—	△ 10.7
39 その他の代謝性医薬品	令和3年9月	74.9	75.5	72.8	72.6	73.6	65.5	74.6
	令和4年9月	77.4	77.0	75.3	73.4	79.2	80.3	76.5
	差	2.5	1.5	2.5	0.8	5.6	14.8	1.9
41 細胞賦活用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
42 腫瘍用薬	令和3年9月	81.7	85.7	81.0	84.1	59.9	100.0	82.8
	令和4年9月	85.0	82.5	91.1	91.4	84.5	100.0	86.2
	差	3.3	△ 3.2	10.1	7.3	24.6	0.0	3.4
43 放射性医薬品	令和3年9月	3.9	49.1	37.1	16.7	—	—	24.4
	令和4年9月	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	2.2
	差	△ 3.9	△ 49.1	△ 37.1	△ 16.7	—	—	△ 22.2
44 アレルギー用薬	令和3年9月	73.8	73.1	77.3	80.3	79.6	86.9	75.4
	令和4年9月	76.0	75.7	80.1	80.8	86.8	77.0	77.7
	差	2.2	2.6	2.8	0.5	7.2	△ 9.9	2.3
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和3年9月	79.1	77.9	77.0	76.7	72.8	81.4	77.6
	令和4年9月	82.5	75.6	81.2	75.7	76.1	63.7	78.9
	差	3.4	△ 2.3	4.2	△ 1.0	3.3	△ 17.7	1.3
62 化学療法剤	令和3年9月	74.2	73.5	70.7	81.8	68.9	79.6	73.3
	令和4年9月	68.2	70.5	79.8	76.8	83.2	38.0	71.7
	差	△ 6.0	△ 3.0	9.1	△ 5.0	14.3	△ 41.6	△ 1.6
63 生物学的製剤	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和3年9月	87.3	64.7	75.3	82.1	70.6	100.0	80.9
	令和4年9月	83.1	74.8	78.5	79.0	79.2	100.0	80.0
	差	△ 4.2	10.1	3.2	△ 3.1	8.6	0.0	△ 0.9
73 公衆衛生用薬	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	令和3年9月	29.9	25.9	38.3	14.3	—	—	30.4
	令和4年9月	28.6	24.8	36.6	44.4	—	—	28.1
	差	△ 1.3	△ 1.1	△ 1.7	30.1	—	—	△ 2.3
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和3年9月	70.6	38.4	42.4	50.0	—	—	52.8
	令和4年9月	64.3	40.1	54.5	0.0	58.3	—	50.4
	差	△ 6.3	1.7	12.1	△ 50.0	—	—	△ 2.4
82 非アルカロイド系麻薬	令和3年9月	28.7	29.1	11.9	16.9	40.0	0.0	23.3
	令和4年9月	24.1	35.3	23.0	24.2	18.2	7.3	25.6
	差	△ 4.6	6.2	11.1	7.3	△ 21.8	7.3	2.3

4. 統計分析 (5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合

(資料No.5-1、5-2)

《使用割合の状況(総数)》

- 協会けんぽ、国保、後期を合算した使用割合の総数は、78.9%であり、昨年度より1.0%pt伸びている。

※資料No.5-2より

	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	77.9%	78.9%	1.0

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 使用割合が高い薬剤については、歯科口腔用薬 95.9%、消化器官用薬 86.5%、滋養強壮薬 86.0%という状況である。
○使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品 1.6%、その他の治療を主目的としない医薬品 29.5%、非アルカロイド系麻薬 36.2%という状況である。

【使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.5-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,739÷1,813)	95.9%	放射性医薬品 (167÷10,138)	1.6%
消化器官用薬 (6,356,257÷7,345,751)	86.5%	その他の治療を主目的としない 医薬品(280÷950)	29.5%
滋養強壮薬 (299,703÷348,314)	86.0%	非アルカロイド系麻薬 (3,125÷8,624)	36.2%

※滋養強壮薬 (カルシウム剤、タンパクアミノ酸製剤、臓器製剤 等)

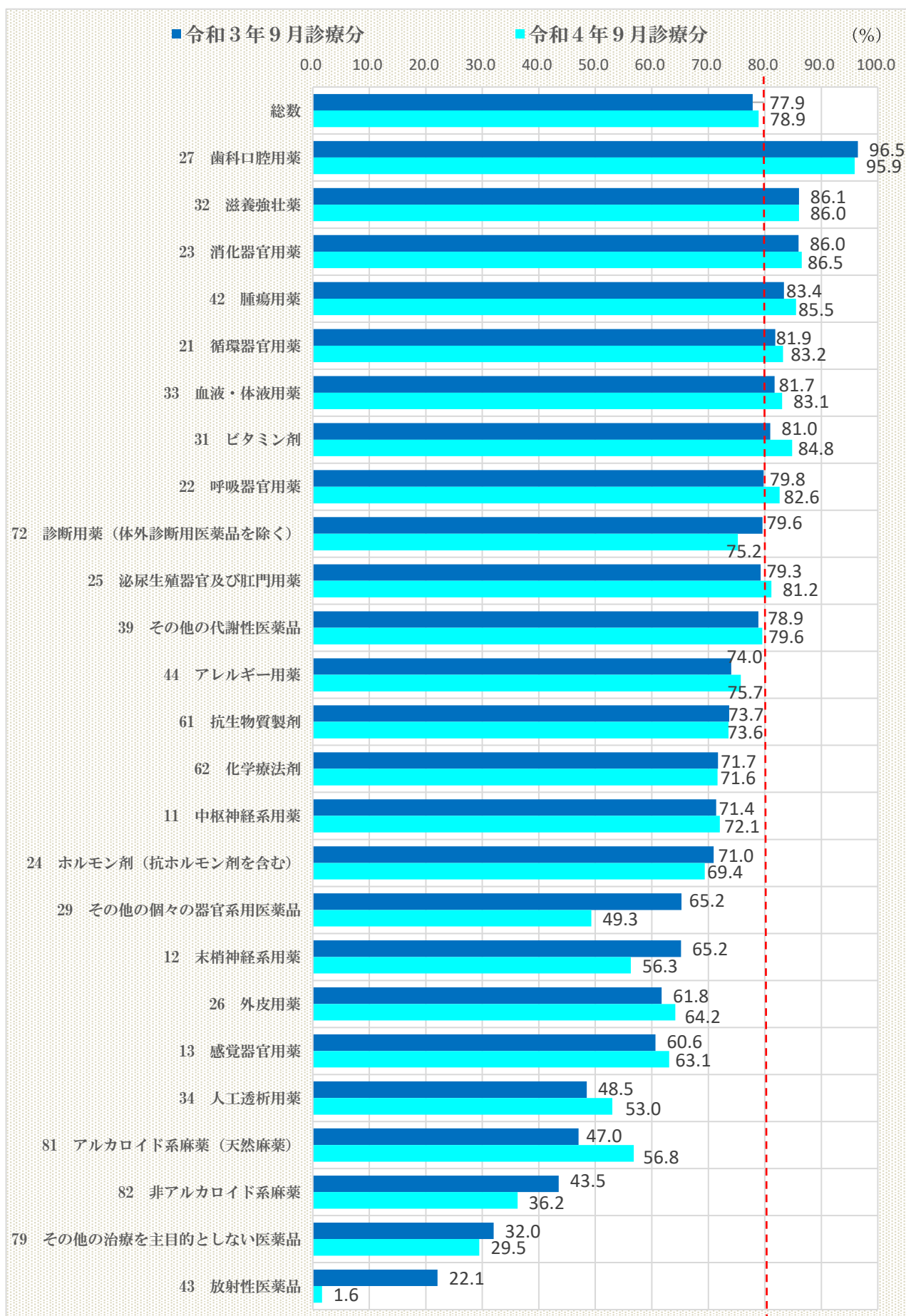
《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、アルカロイド系麻薬(天然麻薬)であり、9.8%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.5-2より

薬効分類別	令和3年9月診療分	令和4年9月診療分	差(%pt)
81 アルカロイド系麻薬 (天然麻薬)	47.0%	56.8%	9.8
34 人工透析用薬	48.5%	53.0%	4.5
31 ビタミン剤	81.0%	84.8%	3.8



協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合(前年度比較) 資料No.5-2

薬効分類別	令和3年9月診療分			令和4年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	77.9	48,434,389	37,711,640	78.9	49,079,921	38,730,950
27 歯科口腔用薬	96.5	1,765	1,703	95.9	1,813	1,739
32 滋養強壯薬	86.1	332,032	285,760	86.0	348,314	299,703
23 消化器官用薬	86.0	8,575,619	7,371,370	86.5	7,345,751	6,356,257
42 腫瘍用薬	83.4	162,626	135,605	85.5	165,195	141,279
21 循環器官用薬	81.9	12,806,340	10,482,316	83.2	13,203,268	10,988,413
33 血液・体液用薬	81.7	3,597,510	2,940,963	83.1	3,661,538	3,041,569
31 ビタミン剤	81.0	1,993,176	1,613,936	84.8	2,065,574	1,752,319
22 呼吸器官用薬	79.8	1,447,156	1,154,700	82.6	1,564,913	1,292,769
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	79.6	6,752	5,373	75.2	4,995	3,758
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.3	972,000	770,335	81.2	1,014,676	823,599
39 その他の代謝性医薬品	78.9	2,951,979	2,327,705	79.6	3,743,072	2,978,192
44 アレルギー用薬	74.0	1,623,041	1,201,679	75.7	1,676,112	1,269,478
61 抗生物質製剤	73.7	308,308	227,223	73.6	319,772	235,220
62 化学療法剤	71.7	170,266	122,119	71.6	182,633	130,850
11 中枢神経系用薬	71.4	7,358,135	5,254,204	72.1	7,736,746	5,574,442
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	71.0	341,698	242,438	69.4	378,803	262,755
29 その他の個々の器官系用医薬品	65.2	12,314	8,033	49.3	9,994	4,926
12 末梢神経系用薬	65.2	494,804	322,400	56.3	486,604	273,950
26 外皮用薬	61.8	4,585,194	2,831,605	64.2	4,431,908	2,843,614
13 感覚器官用薬	60.6	658,361	399,181	63.1	707,112	446,113
34 人工透析用薬	48.5	1520	737	53.0	1341	711
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	47.0	10,336	4,860	56.8	10,075	5,723
82 非アルカロイド系麻薬	43.5	9,865	4,295	36.2	8,624	3,125
79 その他の治療を主目的としない医薬品	32.0	991	317	29.5	950	280
43 放射性医薬品	22.1	12,602	2,783	1.6	10,138	167

4. 統計分析 (6)山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合

(資料No.6-1、6-2、6-3)

1. 使用データの概要

- 厚生労働省ホームページに掲載された、保険者別の後発医薬品の使用割合(数量シェア)を使用する。 ※毎年度、9月・3月診療分が掲載される。
- 今回使用するデータは令和2年3月分～令和4年3月分となる(令和5年2月時点掲載)

※以下、2. ～3. については、「データに係る留意点」より抜粋

2. 集計に当たっての保険者の単位等

(1)全保険者種別の共通事項

- 原則として、レセプトに記載された保険者番号ごとに集計・算出する。
- 保険者番号・保険者名は、データ抽出の対象月時点のものを用いる。

(2)保険者種別ごとの個別事項

①国民健康保険

- 保険者番号ごとに集計し、同一市町村の「国民健康保険」と「退職者医療」は合算して集計する。

②国民健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計する。

③健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計することを原則とし、支部や特例退職被保険者などにより複数の保険者番号をもつ健保組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該健保組合の本部のものを用いる。

④全国健康保険協会

- 保険者番号中の法別番号が「01(協会一般)」・「03(日雇特例一般)」・「04(日雇特例特別)」である3区分を合算して集計する。

⑤共済組合

- 保険者番号ごとの集計を原則とし、支部により複数の保険者番号をもつ共済組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該共済組合の本部のものを用いる。

⑥後期高齢者医療広域連合

- 各都道府県の後期高齢者医療広域連合ごとに合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号は、各都道府県の広域連合の番号を用いる。

3. 抽出データの算出方法等

(1)保険者別の後発医薬品使用割合(数量シェア)の計算方法

- ONDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出している。

○使用割合(数量シェア)

$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]})$$
で算出している。

(2)抽出対象のレセプト

○医科入院、DPC(出来高払い部分は対象。包括払い部分は対象外)、医科入院外、
歯科、調剤

(3)その他の主な留意点

○ONDBの性質上、審査支払機関の支払請求に係るレセプトのうち電算処理に係るもの(電子レセプト)が算出対象となり(紙レセプトに係るものは対象外)、また、記載の不備等によりNDBに集約されないレセプトは対象外となること。なお、保険者が審査支払機関に差し戻したレセプトは、既にNDBに集約済みであるため算出の対象となる。

○集計の対象月の診療に係るレセプトであっても、医療機関からの請求の遅れ等によりデータ抽出時に審査支払機関からNDBへ格納がなされていないレセプトは抽出の対象外となる。

4. 統計分析

(1)山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合 (資料No.6-1、6-2、6-3)

《使用割合の状況(令和4年3月診療分)》

○使用割合が高い保険者は、早川町 85.8%、道志村 84.7%、身延町 84.7%という状況である。

○使用割合が低い保険者は、医師国保組合 65.7%、丹波山村 67.5%、富士吉田市 75.6%、昭和町 75.6%という状況である。

【使用割合の上位・下位5保険者】

※資料No.6-1 より

上位		下位	
保険者名	使用割合	保険者名	使用割合
早川町	85.8%	医師国保組合	65.7%
道志村	84.7%	丹波山村	67.5%
身延町	84.7%	富士吉田市	75.6%
山梨市	83.1%	昭和町	75.6%
韮崎市	82.3%	山中湖村	75.9%

《前年度同月との比較(令和4年3月診療分)》

○前年度同月の使用割合を比較し、最も伸びたのは、早川町であり、6.2%pt 伸びている。

【前年度同月比較上位3保険者】

※資料No.6-1 より

保険者名	令和3年3月診療分	令和4年3月診療分	差(%pt)
早川町	79.6%	85.8%	6.2
山日 YBS 健保組合	74.6%	79.3%	4.7
医師国保組合	62.9%	65.7%	2.8

山梨県_保険者別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-1

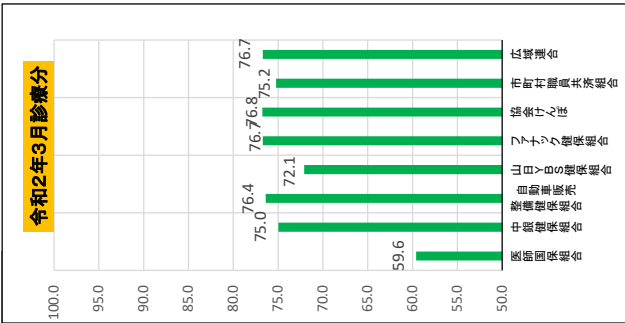
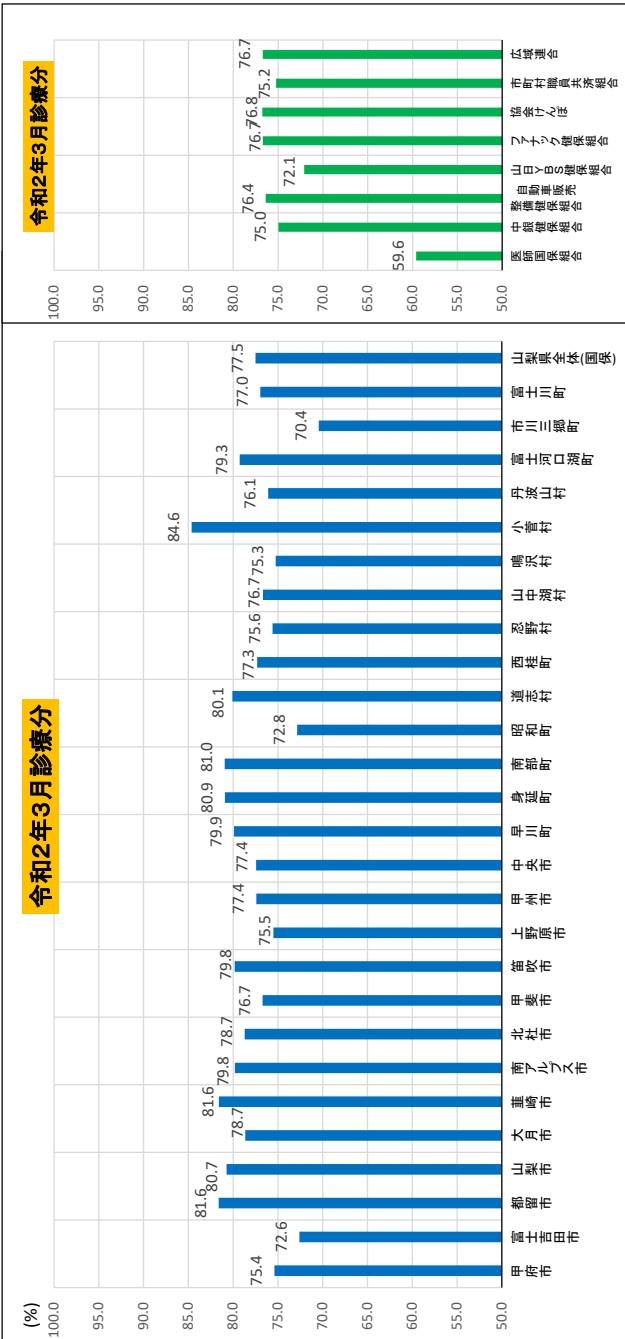
保険者種別	保険者番号	保険者名	診療月				
			令和2年3月分	令和2年9月分	令和3年3月分	令和3年9月分	令和4年3月分
			使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
国民健康保険	190017	甲府市	75.4%	77.3%	77.9%	78.9%	77.9%
	190025	富士吉田市	72.6%	75.7%	75.5%	74.8%	75.6%
	190041	都留市	81.6%	82.0%	83.7%	82.4%	81.7%
	190058	山梨市	80.7%	82.0%	82.7%	83.7%	83.1%
	190066	大月市	78.7%	80.5%	81.7%	81.1%	81.8%
	190074	韭崎市	81.6%	82.3%	84.1%	83.2%	82.3%
	190082	南アルプス市	79.8%	80.8%	82.4%	82.2%	81.9%
	190090	北杜市	78.7%	78.9%	79.7%	79.4%	80.6%
	190108	甲斐市	76.7%	77.8%	78.8%	80.0%	79.1%
	190116	笛吹市	79.8%	81.3%	81.9%	82.2%	81.9%
	190124	上野原市	75.5%	76.8%	79.0%	79.0%	78.7%
	190132	甲州市	77.4%	80.0%	81.6%	82.3%	80.6%
	190140	中央市	77.4%	79.5%	79.7%	80.0%	79.2%
	190728	早川町	79.9%	82.2%	79.6%	84.0%	85.8%
	190736	身延町	80.9%	82.5%	85.0%	84.4%	84.7%
	190744	南部町	81.0%	81.6%	81.8%	84.6%	82.2%
	190793	昭和町	72.8%	75.6%	75.1%	75.2%	75.6%
	190975	道志村	80.1%	80.9%	85.0%	83.5%	84.7%
	190983	西桂町	77.3%	83.8%	80.7%	79.9%	78.2%
	190991	忍野村	75.6%	79.2%	81.0%	82.0%	79.2%
	191007	山中湖村	76.7%	76.6%	76.8%	77.7%	75.9%
	191049	鳴沢村	75.3%	78.2%	78.6%	80.0%	80.7%
	191064	小菅村	84.6%	84.6%	81.9%	84.7%	79.5%
	191072	丹波山村	76.1%	72.7%	71.9%	63.4%	67.5%
	191080	富士河口湖町	79.3%	79.9%	81.3%	82.6%	81.6%
	191098	市川三郷町	70.4%	75.1%	77.2%	78.3%	76.9%
191106	富士川町	77.0%	78.7%	78.4%	79.8%	78.1%	
		山梨県全体(国保)	77.5%	79.1%	80.0%	80.4%	79.9%
国民健康保険組合	193672	山梨県医師国民健康保険組合	59.6%	64.2%	62.9%	64.2%	65.7%
健康保険組合	06190037	山梨中央銀行健康保険組合	75.0%	76.8%	76.6%	78.5%	76.8%
	06190086	山梨県自動車販売整備健康保険組合	76.4%	76.1%	77.3%	79.3%	78.1%
	06190136	山日YBS健康保険組合	72.1%	77.6%	74.6%	80.6%	79.3%
	06190144	フアナック健康保険組合	76.7%	78.3%	79.7%	77.8%	78.9%
全国健康保険協会	01190016	全国健康保険協会山梨支部	76.8%	78.7%	79.4%	80.1%	79.2%
共済組合	32190415	山梨県市町村職員共済組合	75.2%	77.5%	77.6%	79.9%	77.5%
後期高齢者医療広域連合	39190004	山梨県後期高齢者医療広域連合	76.7%	78.3%	79.2%	79.5%	80.0%

※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合(毎年度公表)より」

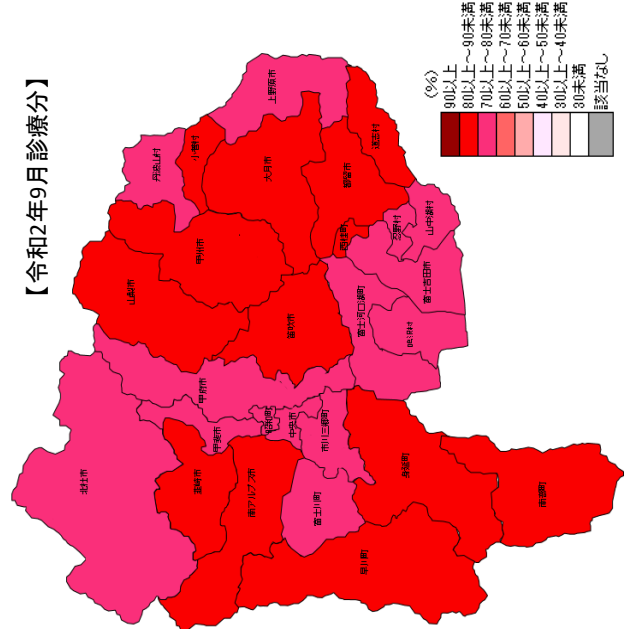
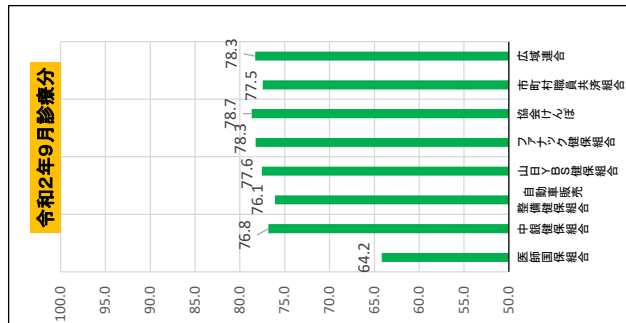
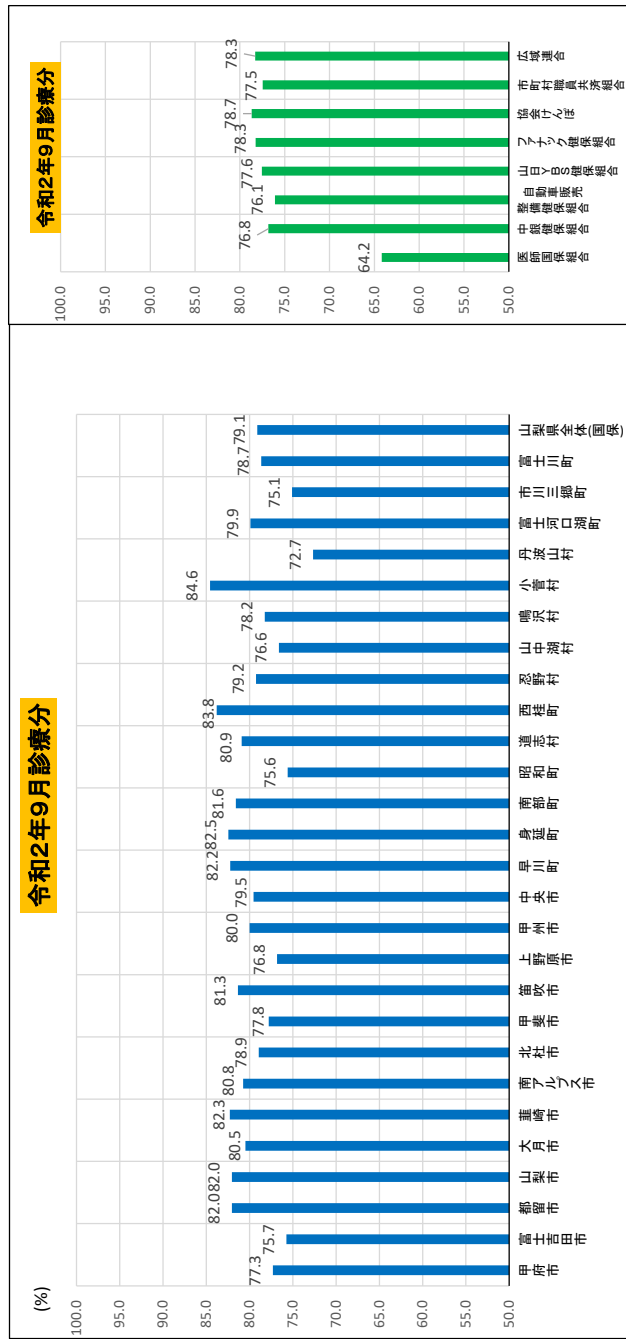
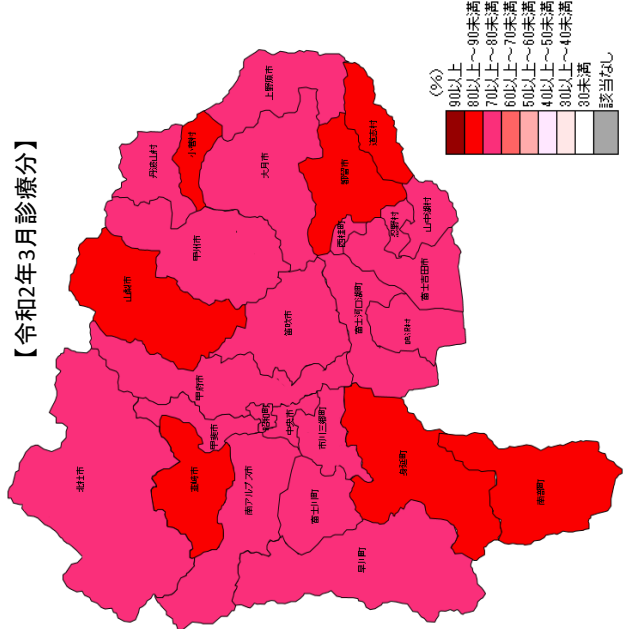
※毎年度、9月・3月の診療分のデータが厚生労働省ホームページに掲載される

※NDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出されている
 使用割合(数量シェア) = 後発医薬品の数量 ÷ (後発医薬品がある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)

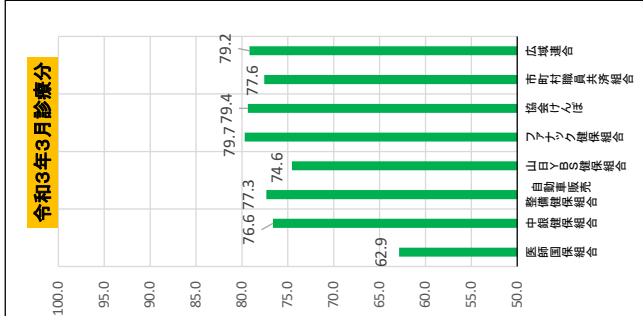
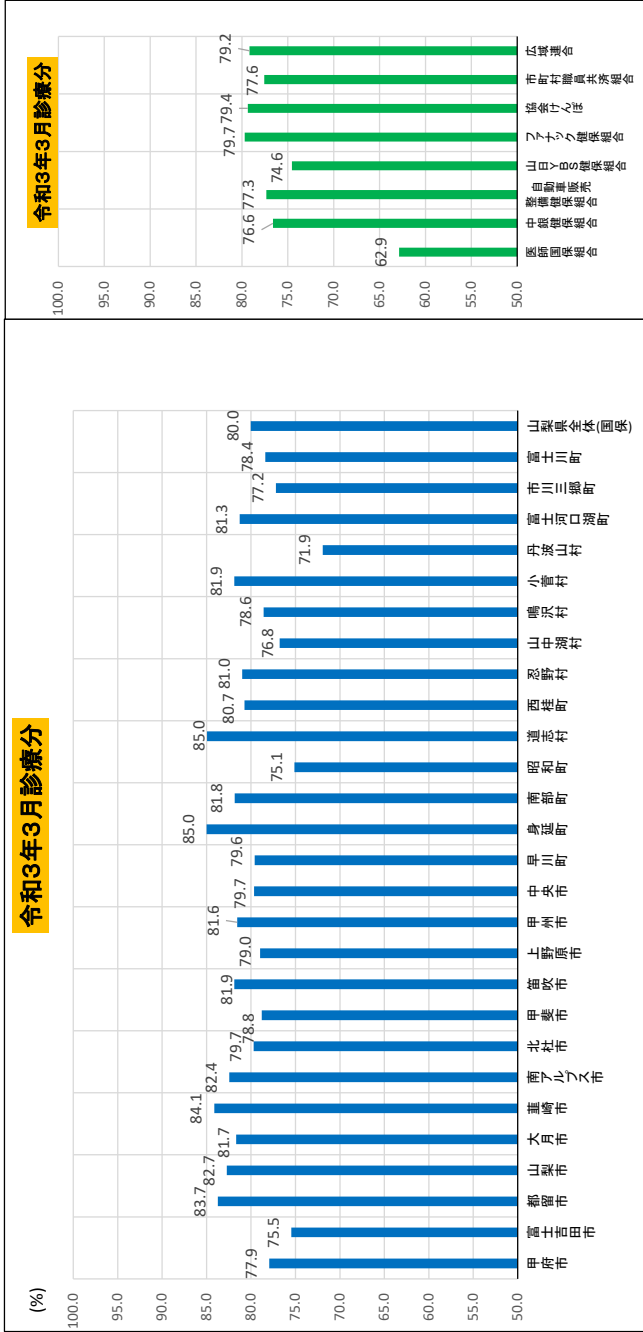
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ



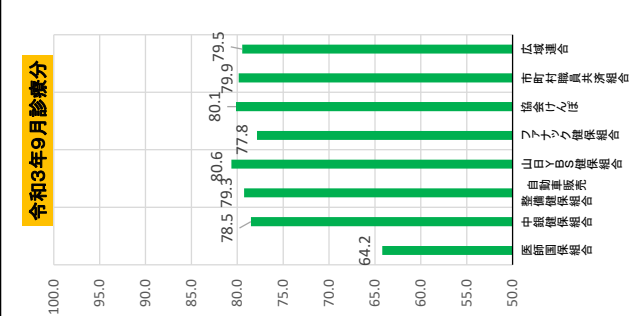
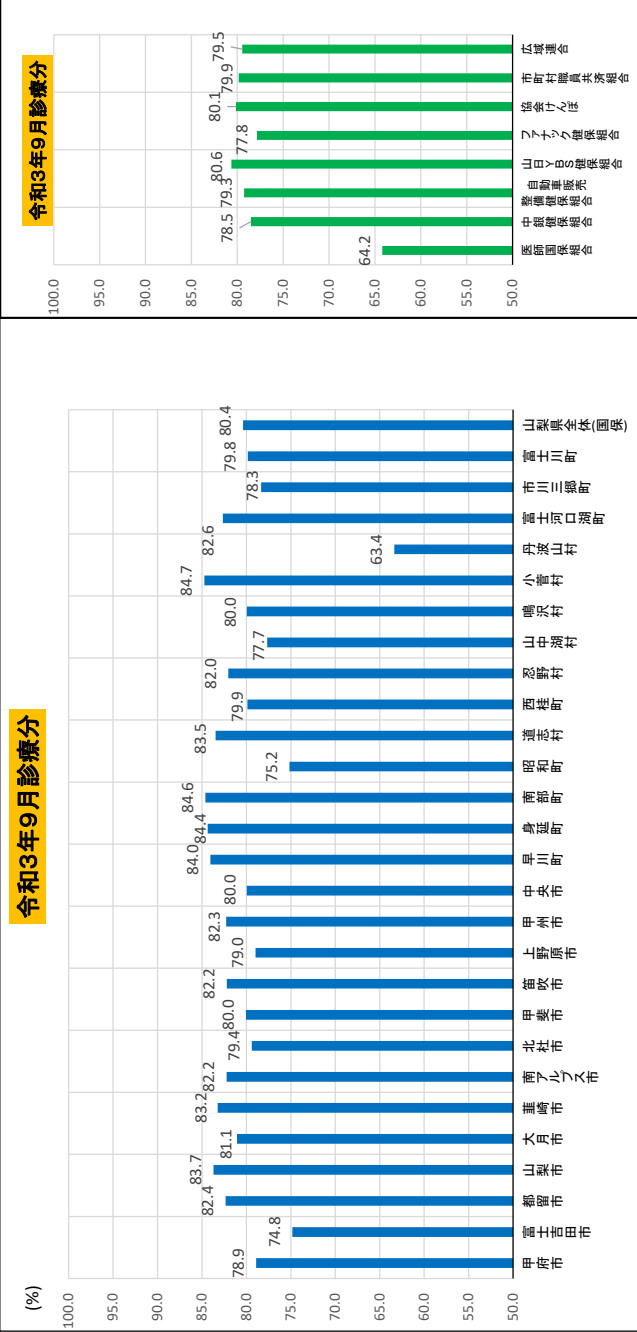
山梨県国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



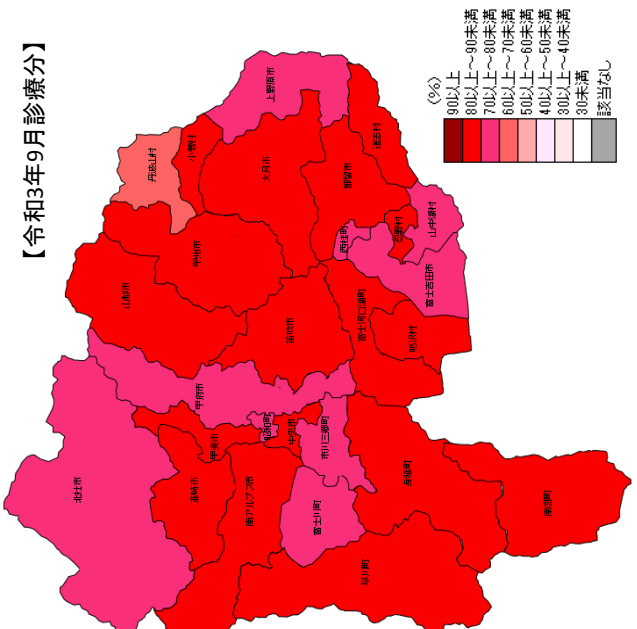
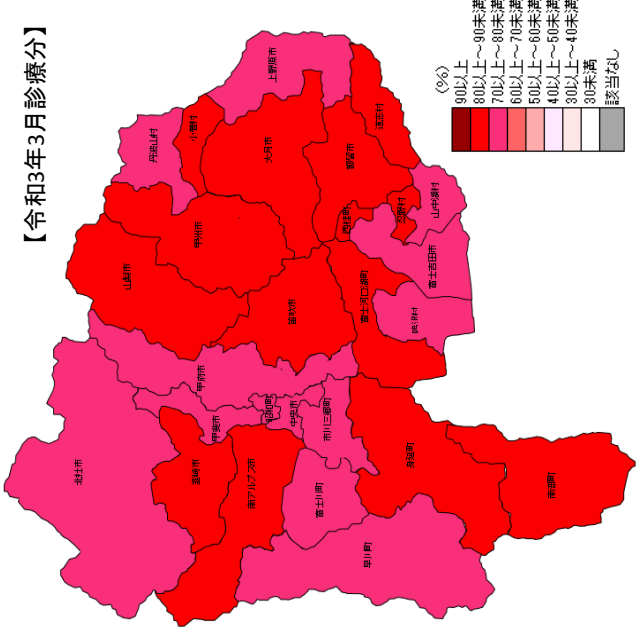
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ



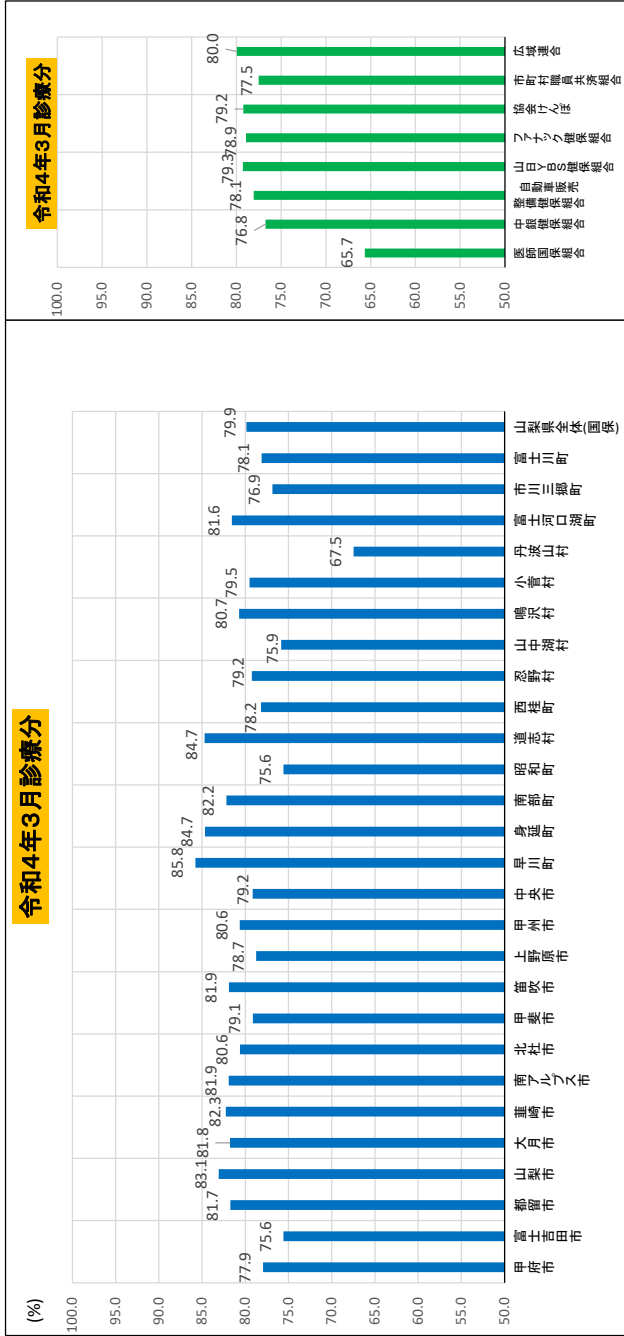
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



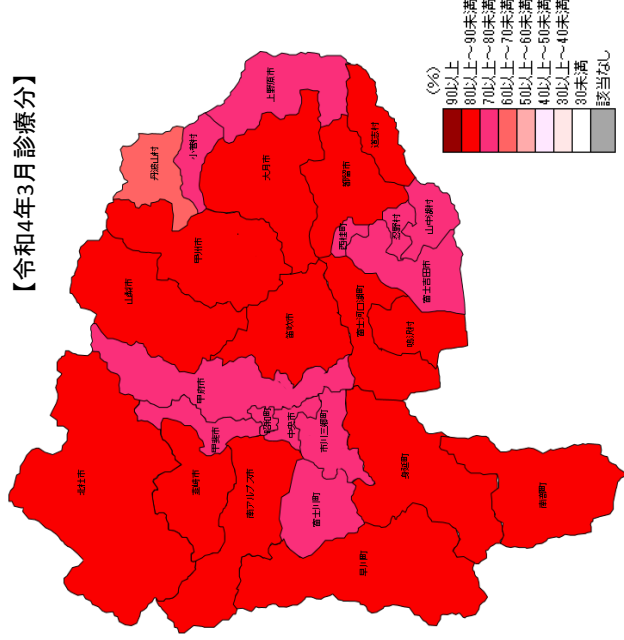
山梨県国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合_グラフ

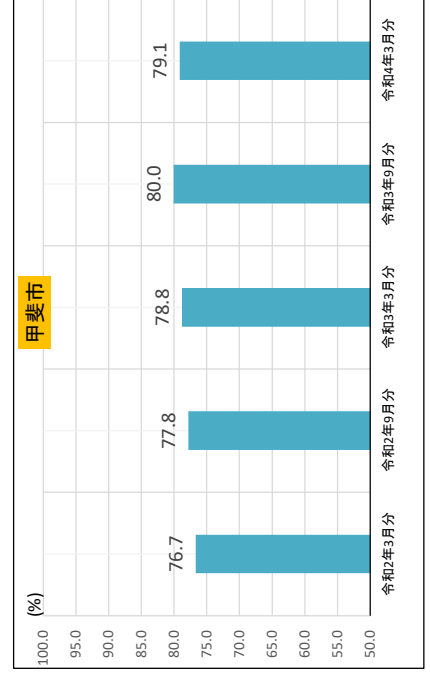
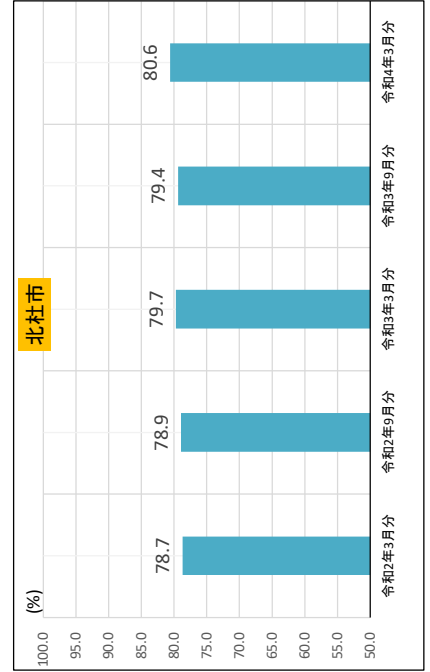
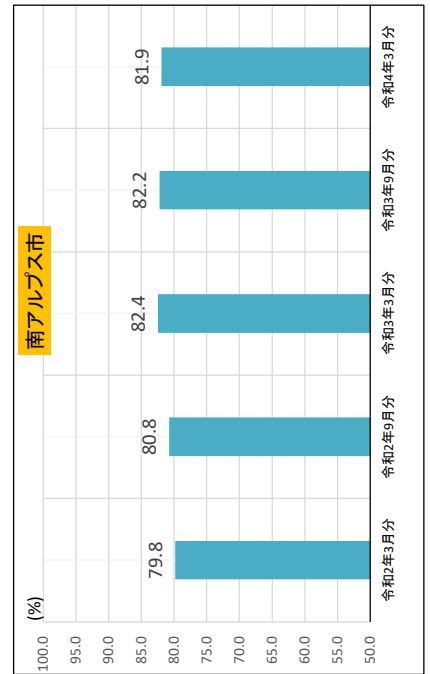
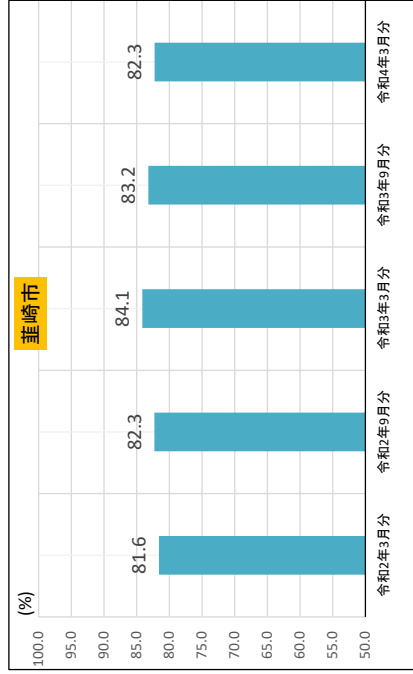
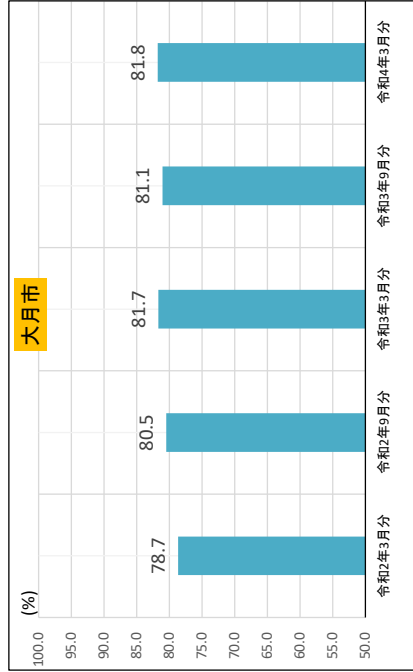
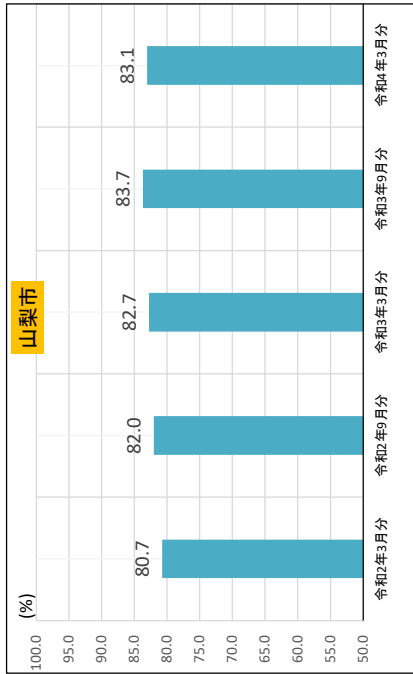
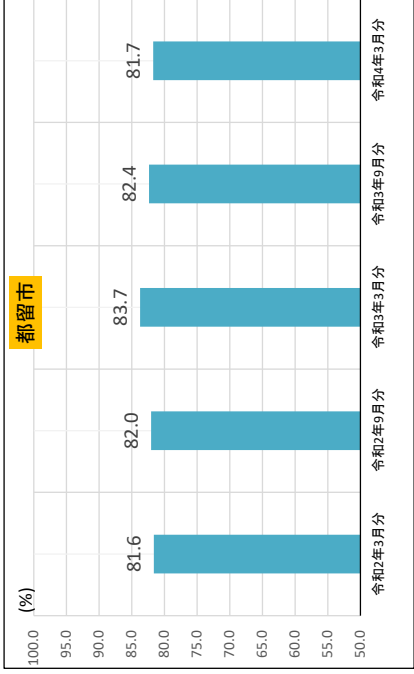
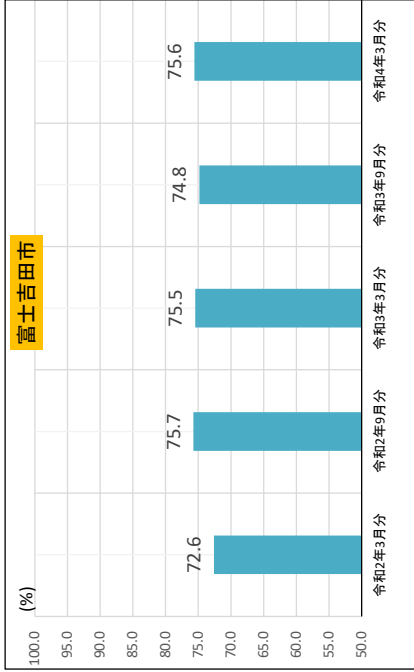
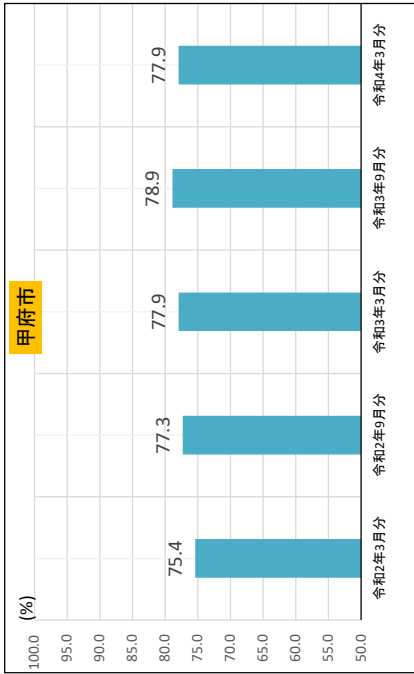


山梨県_国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合_マップ



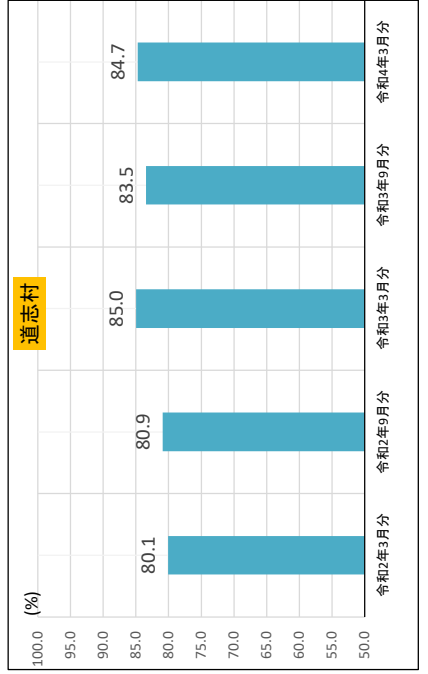
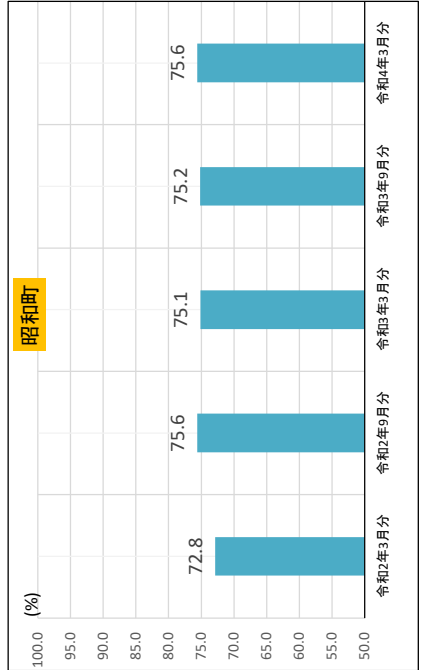
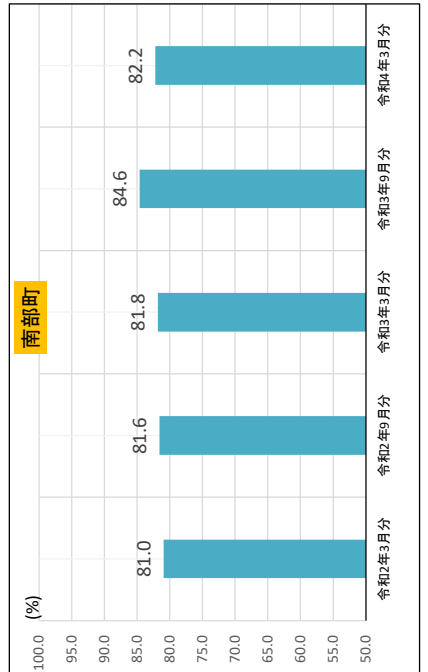
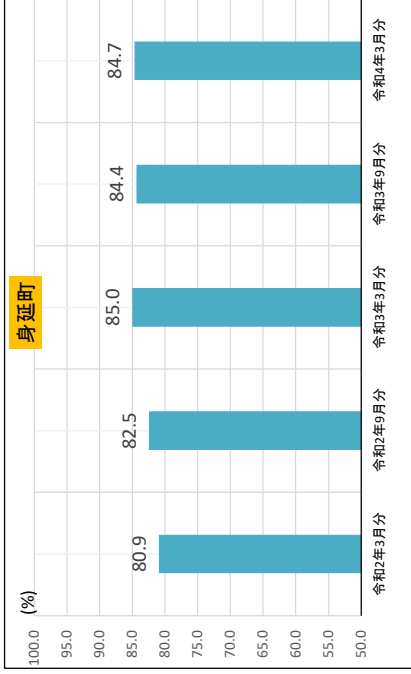
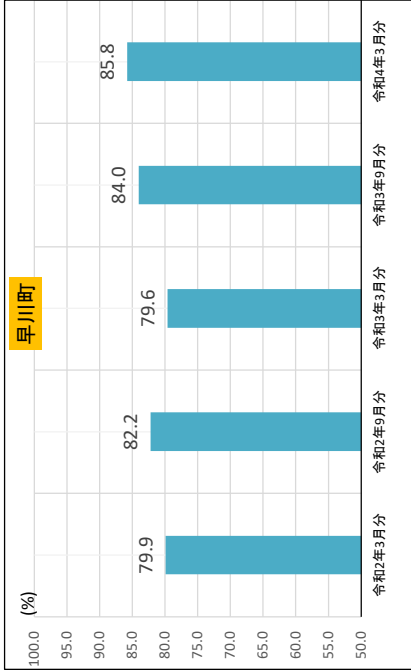
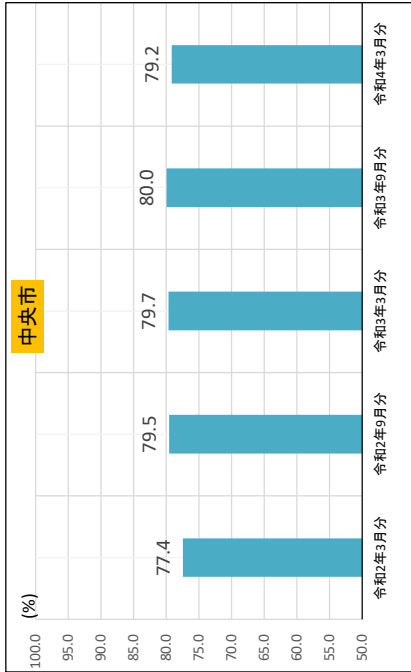
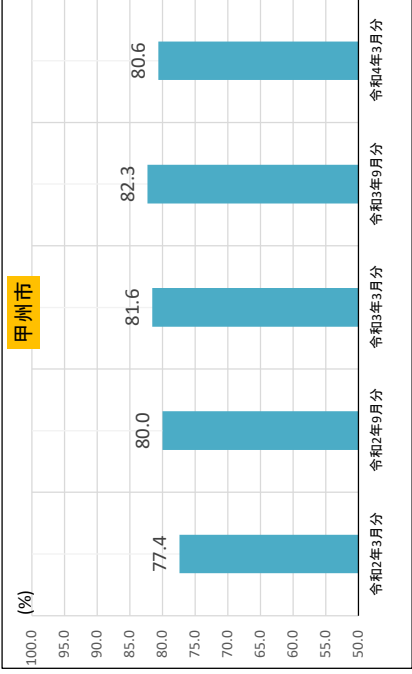
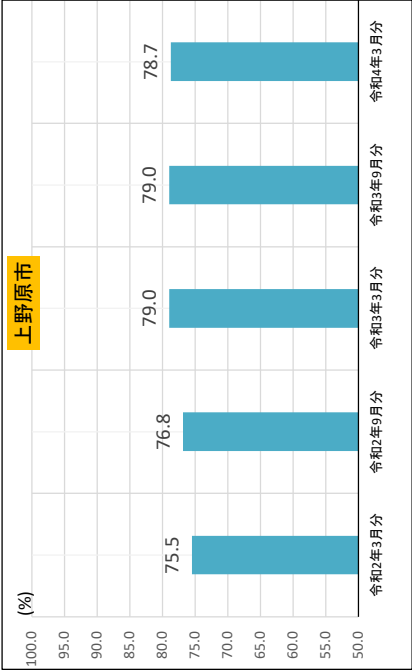
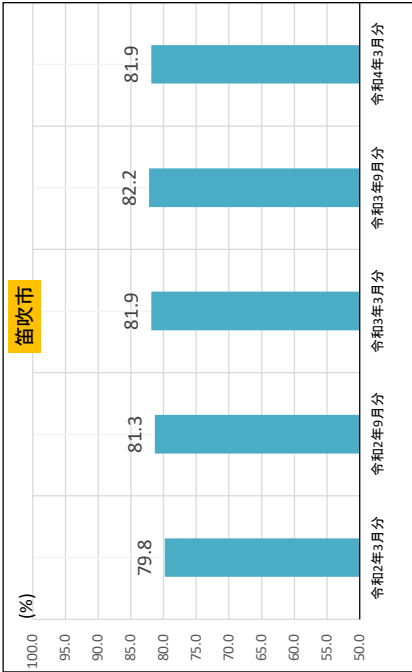
山梨県 保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料№6-3



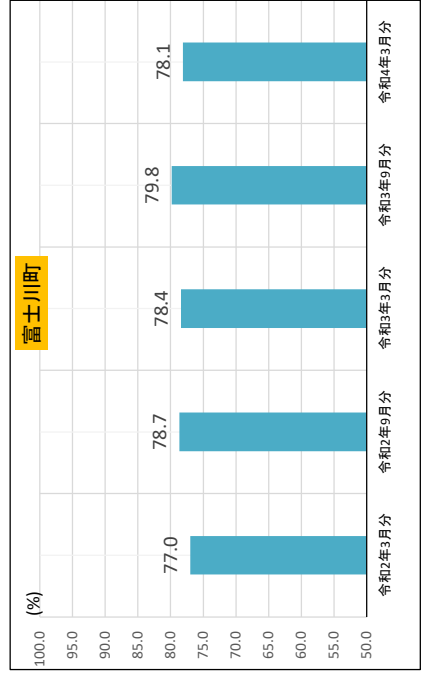
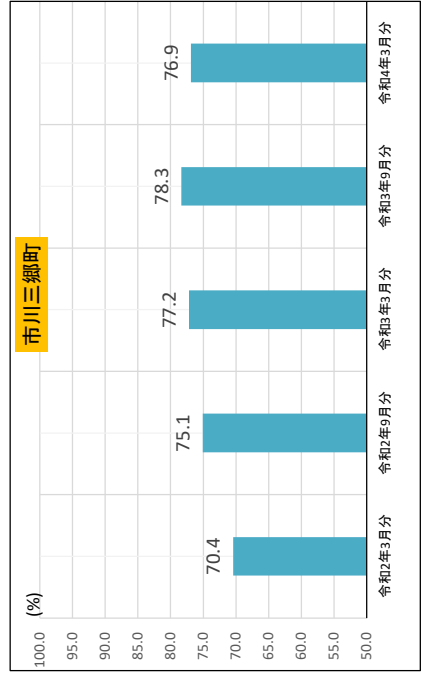
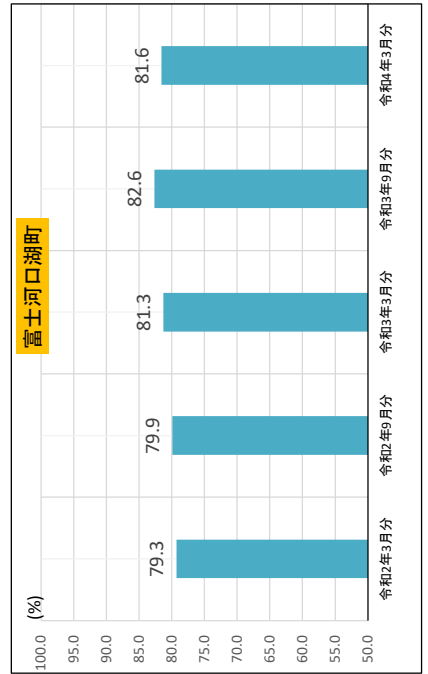
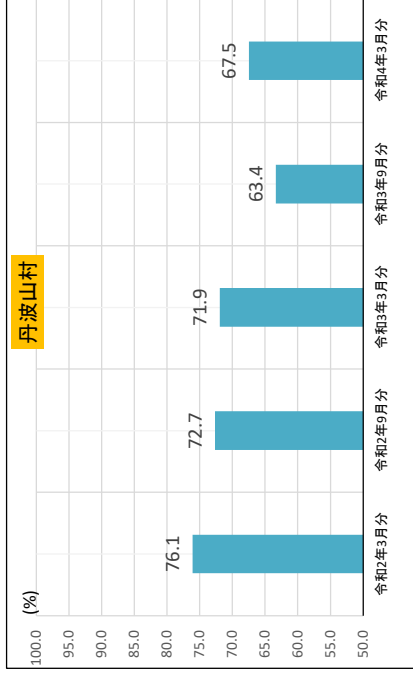
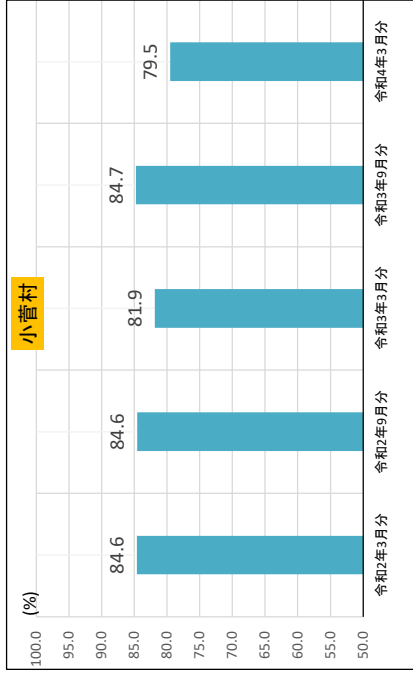
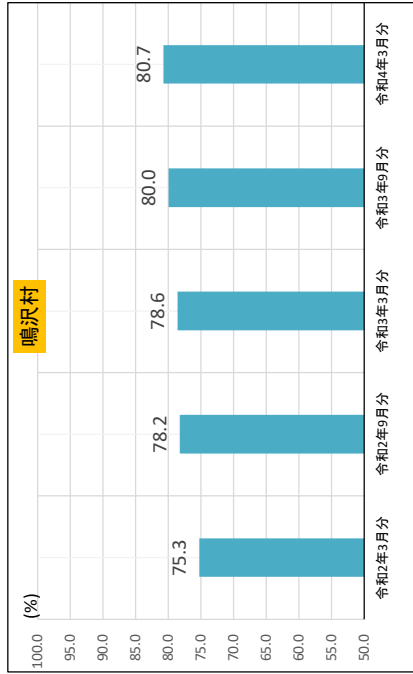
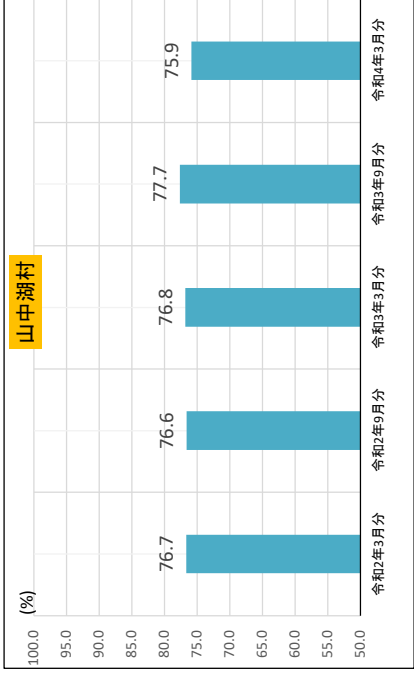
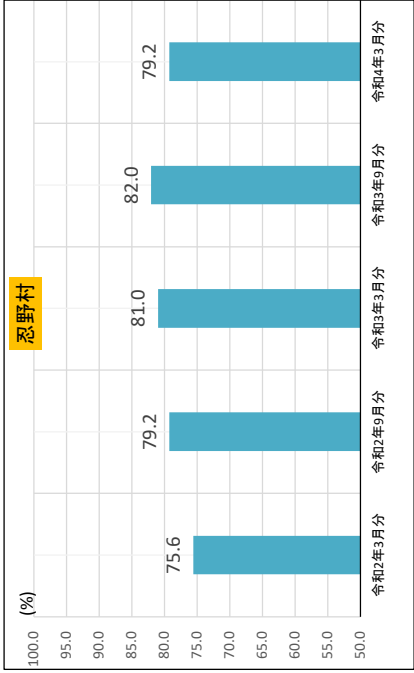
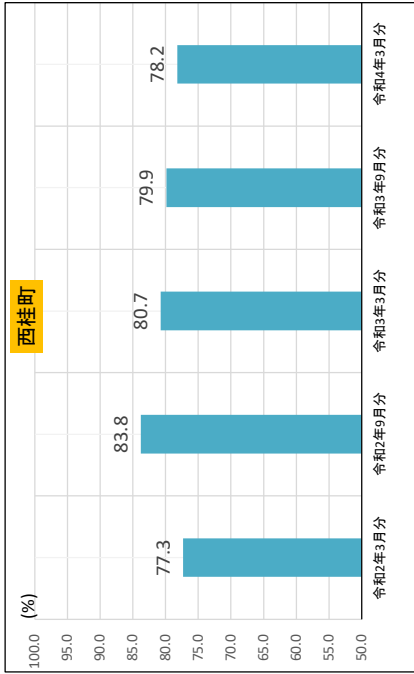
山梨県_保険者別、診療年月別シネネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



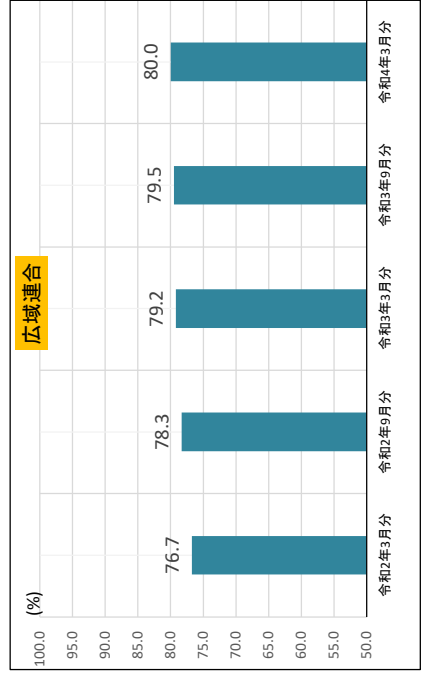
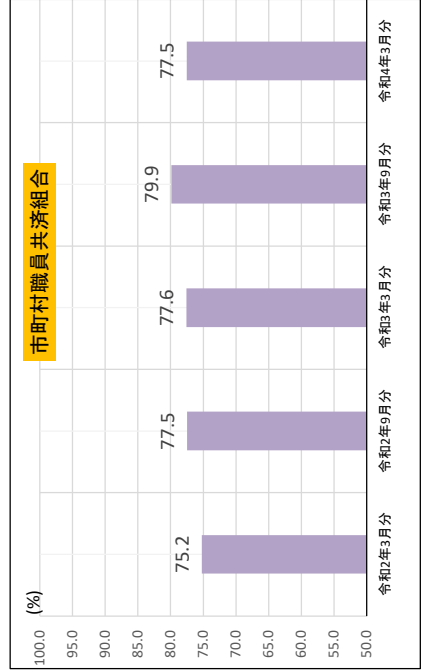
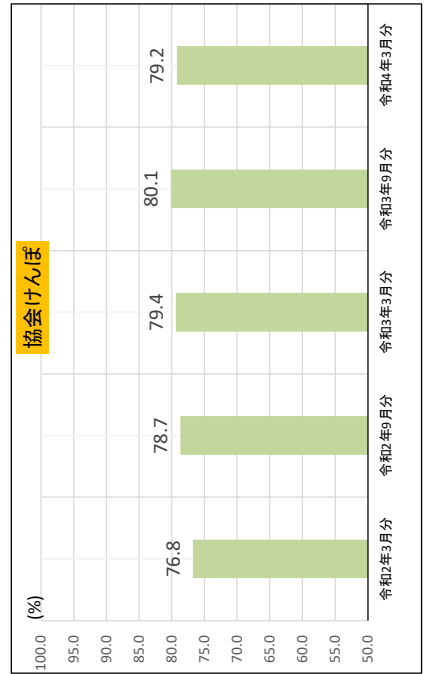
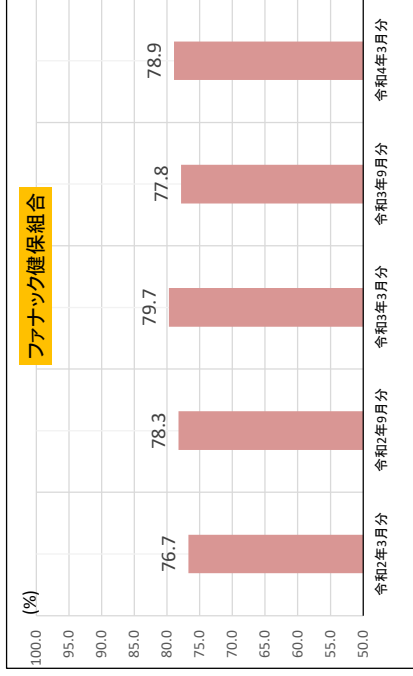
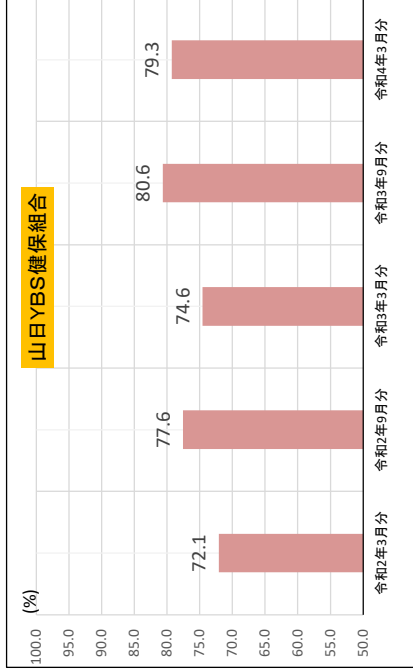
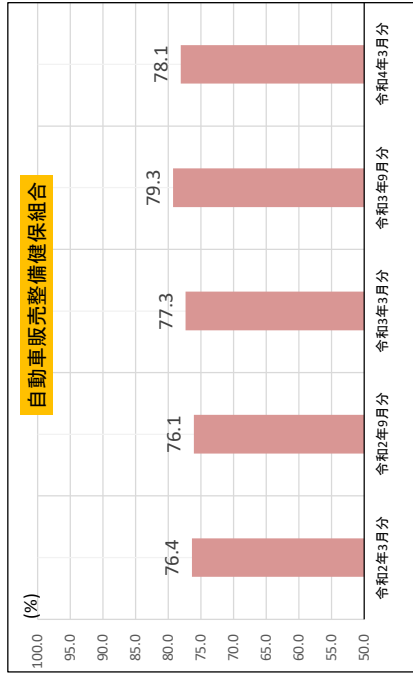
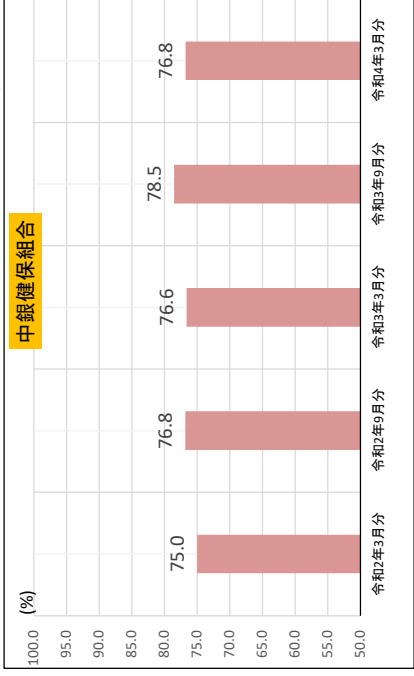
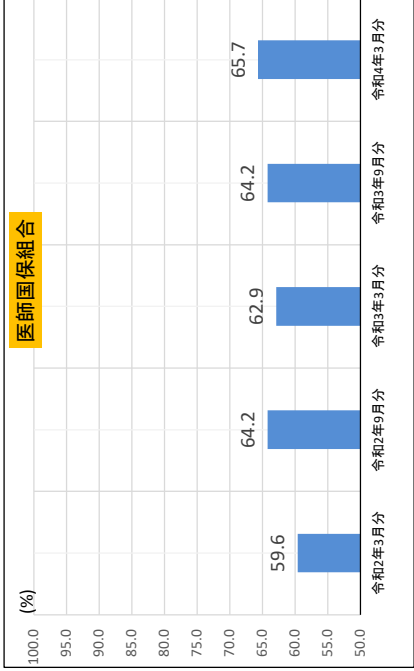
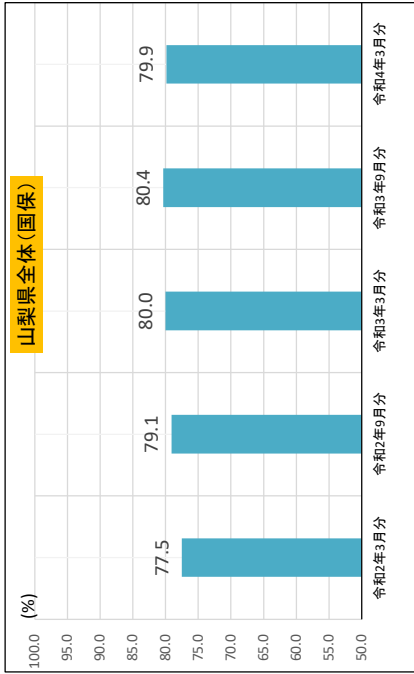
山梨県_保険者別、診療年月別シネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



山梨県_保険者別、診療年月別シネリミック医薬品使用割合

資料No.6-3



5. まとめ

《後発医薬品の使用促進について》

今回の統計結果から、本県では昨年度と同様に若い世代(5 歳から 19 歳)の使用割合が低いことが分かった。

0 歳から 74 歳までの使用割合は 79.3%(昨年度より 0.7%pt の伸び)、75 歳以上の使用割合は 78.5%(昨年度より 1.3%pt の伸び)であり、着実に伸びており、国で掲げた目標値 80%に近付いていることが分かった。

また、保険者(地域)ごとにみると、80%に届いていない保険者もあることが分かった。

このことより、保険者協議会は、県民の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していく。